

Resilience will Overcome Any Disaster

# ROAD PROJECT

東日本大震災1年間の活動記録

「今できること」という一人ひとりの小さな道が  
一緒になって大きな道へ



日本財団  
The Nippon Foundation



# 「今出来ること」という一人ひとりの小さな道が 一緒になって大きな道へ

どんな困難も乗り越える力—Resilience will Overcome Any Disaster.

## ROAD PROJECT

復興という名の「道」  
明日への希望という「道」  
一人ひとりの夢に続く「道」  
いろいろな道が一つになって大きな未来への「道」へ

みなさんと一緒につくる  
「ROADプロジェクト」



福島県いわき市在住の鈴木聡子さんと漣君、祖父の貞次さん。

「東京里帰りプロジェクト(P46参照)」で生まれた漣君は、もうすぐ1歳の誕生日を迎える。

\*Resilience: 立ち直る力、回復力

# 日本財団ROADプロジェクト 東日本大震災1年間の活動記録





---

## AT A GLANCE

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 寄付金について             | 004 |
| 支援金と義援金             | 005 |
| 災害支援センターの設置         | 006 |
| 自主企画・共同事業           | 007 |
| 日本財団の特色を生かした震災直後の事業 | 008 |
| 企業からの支援             | 009 |
| 主な自主企画・共同事業の実施期間    | 010 |

---

# C o n t

## 第1章 自主企画・共同事業

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 石巻市・南三陸町における生活用水給水支援             | 014 |
| 足湯ボランティアの派遣                      | 018 |
| 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（通称：つなプロ） | 022 |
| 「大学生ボランティア隊」派遣                   | 026 |
| グラビア ボランティアたちの笑顔                 | 030 |
| 国際専門家会議：放射線と健康リスク                | 033 |
| 臨時災害FM放送局支援プロジェクト                | 034 |
| 被災造船関連事業者への再生支援プロジェクト            | 036 |
| 水産業再生のためのフォークリフト支援事業             | 038 |
| 被災小型船舶再生支援プロジェクト                 | 040 |
| 海洋関連高校への教習艇等の支援                  | 042 |
| 医療の専門家による被災地支援                   | 044 |
| 東京里帰りプロジェクト                      | 046 |
| ハタチ基金                            | 048 |
| 障がいを抱えた被災者への生活再建支援               | 050 |
| 地域伝統芸能復興基金                       | 052 |

2011年4月末、津波により壊滅的な被害を受けた牡鹿半島の漁村で、携帯電話のアンテナ塔にこのほりと一緒に復旧作業の時に発見された大漁旗が掲げられた。大漁旗は持ち主に返したいという思いで飾ったのだが、その勇ましくはためく姿は復旧作業をするボランティアたちを元気づけた。

表紙写真：宮城県石巻市で、リピーターの留学生ボランティアと握手する日本財団の黒澤司（左）。黒澤は、阪神・淡路大震災から新潟県中越地震、東日本大震災まで数多くの救援活動に携わってきた。一度退職して宮城県で林業に従事していたが、今回の震災で日本財団災害支援センターの現地責任者として復帰した。

文中の肩書は、2012年5月1日現在のものです。

写真：川本聖哉 加藤武美 コデラケイ 日本財団など





**第2章 NPO・ボランティア団体への緊急活動助成**

支援先団体アンケート結果 ————— 056

鼎談 支援金活動のこれまでと未来 ————— 068

社会福祉法人中央共同募金会企画広報部長 阿部陽一郎  
 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム事務局長 椎名規之  
 公益財団法人日本財団東日本大震災復興支援チーム・チームリーダー 青柳 光昌

**第3章 弔慰金・見舞金の緊急配付**

いますぐ被災者に現金を！ ————— 072

日本財団に届いた声 ————— 076

**第4章 企業からの支援**

災害復旧支援車両の寄贈／イノベティブリーダー基金の創設

ダイムラー AG ————— 080

クルマを届けよう!プロジェクト 株式会社 リクルート「カーセンサー」 — 082

中古車1000台寄付プロジェクト 株式会社 ガリバーインターナショナル — 083

CIPAフォトエイドプロジェクト カメラ映像機器工業会 ————— 084

中長期的な復興を支える企業の貢献

キリンビール株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会  
 味の素冷凍食品株式会社 サッポロホールディングス株式会社 ——— 086

**まとめ**

鼎談 被災地に必要なのは希望の光 ————— 088

一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事／復興庁上席政策調査官 田村 太郎  
 株式会社石巻日日新聞社報道部長 平井 美智子  
 公益財団法人日本財団会長 笹川 陽平

グラビア 東日本大震災直後に撮影した大きな傷跡と  
 3カ月後に感じた東北人、そして日本人の底力 ————— 094

**資料編**

収支一覧 ————— 098

緊急支援活動助成 支援先団体一覧 ————— 104

支援物資一覧 ————— 123

弔慰金・見舞金の配付内訳 ————— 127







## 寄付金について

日本財団のROADプロジェクトは、一般の皆さまや企業・団体からいただいた寄付金とポータルレースの交付金によって活動を展開している。

一般寄付金  
(東日本大震災支援基金)  
2,377,683,492円

+

事業指定寄付金  
2,588,417,567円



寄付金収入  
4,966,101,059円





## 支援金と義援金

### 支援金

被災地で支援活動を行っている  
機関・団体への活動資金

被災地で支援活動を行うNPOやボランティアなどへの活動資金を指す。今回の東日本大震災では、ボランティアが現地で移動したり、避難所に物資を届けたり、がれきの撤去や家屋からの泥出し、炊き出しなど緊急時の活動から、教育、医療、福祉分野にわたるまでさまざまな支援活動を行うための資金として使われた。

### 義援金

被災者救済のために  
寄付されるお金

日本赤十字社や（福）中央共同募金会などに寄せられた義援金は、各県に設置された義援金配分委員会に送金される。配分委員会で配分基準が定められた後、市町村を通じ、銀行口座への振込などの形で被災者の方の手元に届けられる。





# 災害支援センターの設置

## 国民みんなが支える支援活動

3月16日、日本財団内における緊急幹部会での議論を具現化させる形で、正式に「東北地方太平洋沖地震災害支援センター(名称は当時)」が設置された。同センターは大きく4つの機能と役割があった。

### 1. 現場コーディネート

被災地支援へ集まる多くのNPOやボランティアを想定し、支援する側が効率的に活動できるようにコーディネートを。阪神・淡路大震災以降の経験と知恵が試される最前線の機能である。

### 2. 物資収集と提供

財団には震災翌日から、主に企業から支援物資がどんどん届いていた。それらの物資を必要な場所へ届けることを通じて、資金だけではなく、思いのこもった「物」でも支える形を構築することが狙いだ。

### 3. 広報

被災地の惨状は多くのメディアが伝えるが、緊急時に支援活動を行うNPOなどの状況や、彼らに対応する細やかなニーズはあまり伝えられない。ホームページやブログはもちろん、ツイッターやフェイスブックなどソーシャルメディアも活用して情報発信を続けた。

### 4. 資金調達

ファンドレイジングの機能を支援基金設置に合わせて一気に集中させた。海外からの寄付も積極的に受け入れるべく、14カ国の言語で専用サイトを立ち上げた。街頭募金も日本財団職員をはじめボートレース業界の職員が総出で行った。





## 自主企画・共同事業

日本財団では各地の自治体やNPOと連携して、さまざまな分野で支援事業を企画・推進している。

「自主企画・共同事業」の  
主なフィールド

海洋分野

緊急支援

スペシャルニーズへの対応

ボランティア派遣・  
コーディネート

コミュニティ形成

ニーズ調査

原発事故に関する情報提供





## 日本財団の特色を生かした震災直後の事業

### 弔慰金・見舞金の配付

震災で家族を失われた上、何も持たずに不安な被災者の方に現金を渡す

震災による死者・行方不明者のご家族に、死者、行方不明者1人当たり各5万円の弔慰金・見舞金を、2011年4月4日から現金で緊急配付。2012年3月末までに91.5%の遺族にお贈りした。

詳しくは第3章 (P72~)

### NPO・ボランティア団体への緊急活動助成

多様なNPO・ボランティア団体が持つリソースと志をいち早く被災地に届ける

被災地で緊急支援活動を行う団体に、一事業に対して上限100万円の活動資金を緊急助成。審査を迅速に行うために提出書類のみとし、2011年4月より助成を開始。6月末までの公募期間で651団体695事業を支援した。

詳しくは第2章 (P54~)

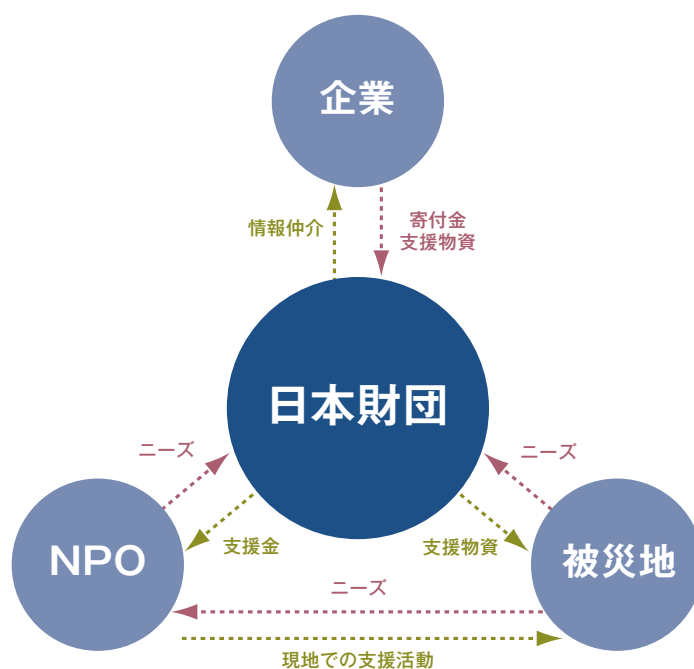




## 企業からの支援

今回の東日本大震災では、復興支援活動に積極的に取り組む企業が増えている。

日本財団では、ご協力いただける企業や現地で活動する団体などと協議を重ね、支援が被災地で効果的に使われるよう、物資提供や事業のマッチングを行ってきた。



詳しくは第4章 (P79 ~)



# ART ROAD PROJECT

## 主な自主企画・共同事業の実施期間

# 2011

詳しくは

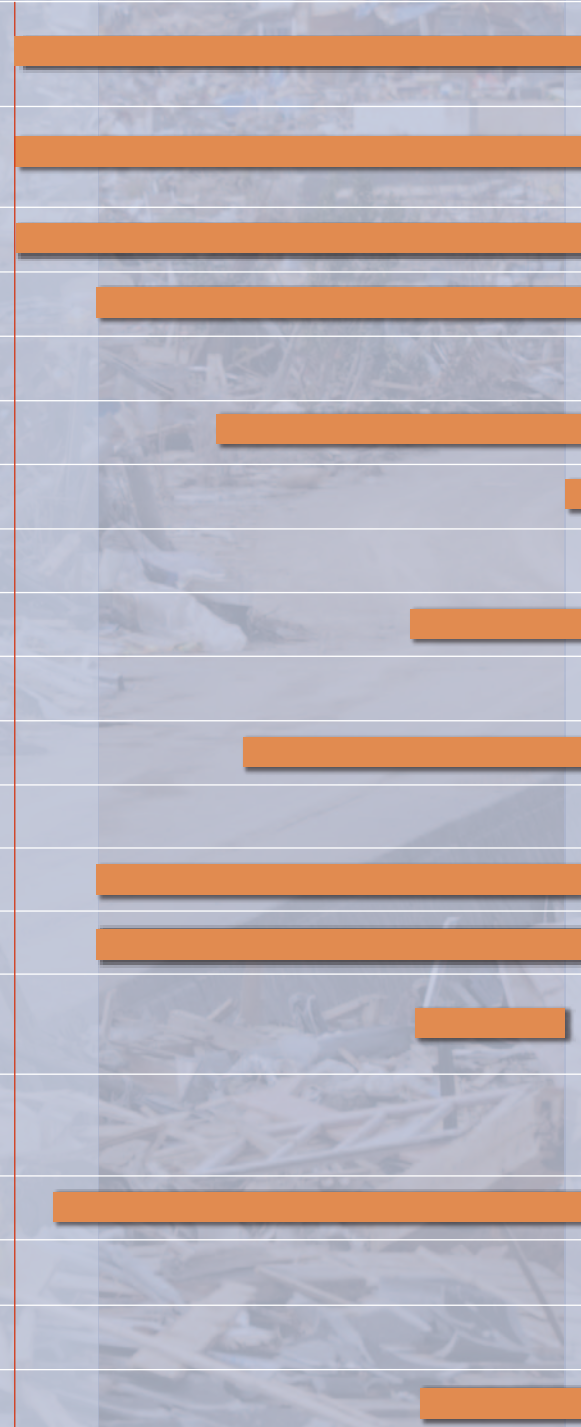
3

4

5

6

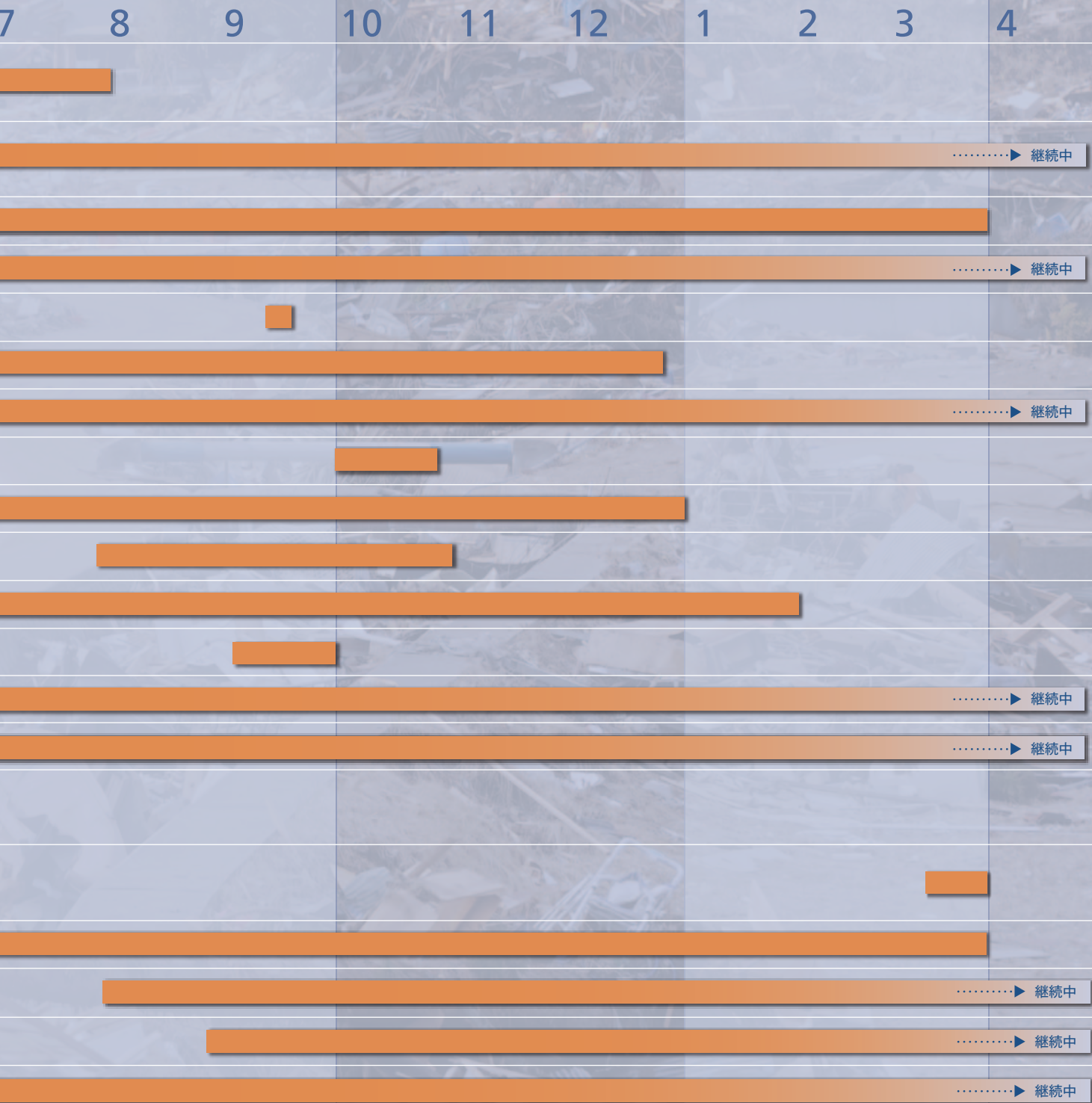
|  |     |
|--|-----|
| ■ 石巻市における生活用水給水支援<br>南三陸町における生活用水給水支援    | P14 |
| ■ 被災地におけるボランティア活動拠点の<br>整備及び足湯ボランティア等の派遣 | P18 |
| ■ 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト                | P22 |
| ■ 「大学生ボランティア隊」派遣                         | P26 |
| ■ 国際専門家会議：放射線と健康リスク                      | P33 |
| ■ 臨時災害放送局支援プロジェクト                        | P34 |
| ■ 被災造船関連事業者への再生支援プロジェクト                  | P36 |
| ■ 水産業再生のためのフォークリフト支援事業                   | P38 |
| ■ 被災小型船舶再生支援プロジェクト                       | P40 |
| ■ 海洋関連高校への教習艇等の支援                        | P42 |
| ■ 要介護者に対する避難所巡回診療および在宅診療プロジェクト           | P44 |
| ■ 在宅診療体制の構築                              | P45 |
| ■ 被災妊産婦の産前産後ケア推進「東京里帰りプロジェクト」            | P46 |
| ■ ハタチ基金                                  | P48 |
| ■ 被災障がい者のための仮設福祉ハウス<br>「日本財団ホーム 小国の郷」の設置 | P50 |
| ■ 恒常的な障がい者施設<br>「日本財団ホーム 東洋育成園」の設置       | P50 |
| ■ 聴覚障がい者に対する支援拠点強化                       | P51 |
| ■ 被災地の聴覚障がい者の心のケア・生活支援                   | P51 |
| ■ 被災地聴覚障がい者の情報コミュニケーション遠隔支援              | P51 |
| ■ 地域伝統芸能復興基金                             | P52 |





# 2012

## AT A GLANCE





## 第1章

# 自主企画・共同事業

日本財団の職員が現地入りして活動を開始すると同時に、各地の自治体、NPOと連携して、医療、福祉、教育、産業に関わるさまざまな分野で支援事業を企画・推進していった。









# 石巻市・南三陸町における生活用水給水支援

## 泥だし・給水プラント整備



# ROAD PROJECT

MISSION

これまでの支援実績を生かして  
被災地のニーズに迅速に応える

### D A T A

|                |             |
|----------------|-------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 5256万3000円  |
| 期間             | 2011年3月～7月  |
| 場所             | 宮城県石巻市、南三陸町 |

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

避難所で生活を始めるにあたり、泥をかぶった体育館の清掃や、泥を流すための生活用水が必要に。

#### 〈支援〉

職員、ボランティアによる泥出し作業。メーカーから提供を受けた浄水プラントの設置・運営。

#### 〈結果〉

屋内の支援物資保管場所等、生活スペースの確保。清掃、洗濯等に使用できる生活用水の確保による衛生面の復旧。

#### 課題

多量のマンパワーを現場で持て余さず、コーディネートできる人材の確保。

### 「ROADプロジェクト」のスタート

東日本大震災発生から2日後の2011年3月13日、日本財団では緊急幹部会が開催された。会長の笹川陽平をはじめとした全役員から、災害支援活動の経験を持つ若手職員まで約30人が出席した。

会議の席上、震災当日の午後8時には「東北地方太平洋沖地震支援基金（名称は当時）」が開設されたことが報告された。また、この基金のために阪神・淡路大震災を経験したNPOによる募金活動が、開始されたことも発表された。

緊急幹部会では「被災地を国民みんな





の寄付金で支える活動」を全国的、世界的に展開するというコンセプトの大枠が固まった。これが「ROADプロジェクト」のスタートとなった。

### 津波がもたらした大量の泥と格闘

「ROADプロジェクト」において、現地責任者を務めることになる黒澤司は、地震が発生した3月11日午後2時46分、宮城県南部の伐採現場にいた。全国の災害支援のボランティアらと連絡を取り合いなが

ら同日中に、以前から大災害を想定した連携について合意していた宮城県名取市の「NPO法人ドリームゲート」に合流。同市周辺での支援活動を開始した。その後、石巻市の被害がさらに甚大であるとの情報を受け、拠点を移した。それに伴い、「ROADプロジェクト」も同市を中心に進められることになった。

一方、同プロジェクトのコンセプトを実現するために発足した東京の災害支援センターでは、現地での情報収集、緊急救援物資の発送、職員の派遣のための準備が

進められていた。また、被災地に浄水装置を設置することも決まった。燃料の確保や緊急車両通行許可証の取得を終えて、先遣隊3人の出発は3月19日の朝となった。

同日深夜、現地に到着すると黒澤と合流。翌日の市立湊小学校での泥出し作業について打ち合わせが行われた。同校は津波の被害を受け、1階部分や体育館などが泥に埋もれる中で、2～4階にはゆうに1000人を超える被災者が避難していた。黒澤の「体育館の泥出しが終われば、屋内で炊き出しができるし、支援物資も置



### 必要なものを、必要な場所に。 企業が提供する土のう袋が復興の第一歩に。

震災発生当初、被災地の復興を妨げていたのが、津波がもたらした大量のヘドロだ。3月19日に石巻市に入った先遣隊メンバーの沢渡一登も「ヘドロは移動させるだけではダメです。晴れて乾燥すれば粉じんとなって舞い上がり、雨が降れば流れ出してまた街が汚れます。土のう袋に入れて処分するしかないのですが、地元で備蓄していた土のう袋ではまったく足りませんでした」と振り返る。同市で活動する複数のボランティア団体からも必要な支援物資として「土のう袋」を挙げる声が多く、東京の本部から土のう袋の備蓄がある地方自治体や企業に支援を依頼することになった。

笹川もこの報告を受けて3月24日、自らのブログで「地方自治体で保管されている災害用や、建設会社が保有する土のう袋の一部を、至急日本財団にお送りください。運送料は受取人払いで結構です。今後土のう袋は、全ての被災地で復興の基礎となる必需品です」と呼びかけた。

4日後の28日までに、株式会社大林組から1万5000袋、大成建設株式会社から1万5000袋（後日さらに1万袋を追加）、前田建設工業株式会社から1000袋、社会福祉法人名古屋ライトハウスから250袋の提供の申し出があった。その後も、関係企業や自治体からの寄付は続き、最終的に4万袋を超える土のう袋が石巻市に届けられた。備蓄の一部からの支援が、街にあふれた大量のヘドロの処理を進めることにつながった。

| 石巻市の泥かきボランティア用に送られた土のう袋 |         |
|-------------------------|---------|
| 株式会社大林組                 | 15,000袋 |
| 大成建設株式会社                | 25,000袋 |
| 前田建設工業株式会社              | 1,000袋  |
| 社会福祉法人名古屋ライトハウス         | 250袋    |
| 株式会社大昌建設                | 1,000袋  |
| 塩尻市役所消防防災課              | 1,000袋  |





けるようになる。ヘドロの上では何をするにも不衛生だ」というアドバイスで、泥出し作業が最優先となった。

この時、被災経験のある新潟県中越のボランティアが、除雪機を運んで同校にやって来た。かつて地元で支援を受けたと言い、「こういうときは重機が一番役立つと知っているから」と勢いよく泥をかき出した。

「震災を経るたびに、緊急支援に即応できる人材のネットワークは全国に広がっている。鍵は、専門性を持ったボランティアの適材適所。仲間とともに、今後もボランティアの専門性向上を促し、全体のレベルアップを後押ししていきたい」（黒澤）。



## 断水の町で自由に使える水を

しかし、泥をかき出すだけでは、衛生的な環境を取り戻すことはできない。水で洗い流すことが必要だったが、震災発生直後から水道が止まった被災地では、清掃用の水の確保は非常に困難だった。ペットボトル入りの飲料水は支援物資として運び込まれていたが、貴重な飲料水を泥の洗い流しのために使用することはできない。被災地では、飲料水だけでなく、こうした清掃に使うための水、トイレで利用できる水、洗顔や洗濯などにも自由に使える生活用水が圧倒的に不足していた。

3月21日、日本財団が設置準備を進めていた水の浄化装置が石巻市に到着した。浄水プラントメーカーの戸倉工業から提供された装置は、海水の淡水化などにも使われる逆浸透膜方式の高性能な製品で、1日に100トンのきれいな水をつくることができる。

日本財団は、この浄化装置を北上川から分岐して石巻湾へと注ぐ旧北上川の河口付近に設置。ホースでくみ上げた川の水を、大型トラック2台に搭載した浄化装置でろ過して仮設のプールに貯水する。プールの横に仮設の水道を取り付け、蛇口をひねるだけで、自由に生活用水を使用できる仕組みだ。

この装置で浄化した水は飲むこともできるが、震災のため水道局で検査を行うことができず、現地でのニーズに合わせて、生活用水としての使用に限定することになった。

2日間の設置工事を終えて、3日目の23日から給水を開始。地元のラジオ局による給水開始のアナウンスもあり、初日から多



現地入りした職員やボランティアの拠点となったカラオケボックス「まねきねこ」。

くの被災者がバケツやビニール袋を持って水を受け取りに来るようになった。

現地での給水に立ち会った災害支援センターの樋口裕司は「複数の企業から浄水器提供の申し出がありました。震災発生直後に声をかけてくれた戸倉工業に共同での給水活動をお願いすることにしました。トラックで持ち運びが可能で、しかも高性能という装置が被災地で役立つと思われたからです。被災された方に喜んでいただいたのはもちろんですが、1日の作業を終えたボランティアたちが体を洗いに来て、お祭りのような状況になっていたのが印象的でした」と語っていた。

給水所まで水を取りに来られない被災者のために、生活用水の配達を行う取り組みも行われた。貯水プールからポリタンクに水をくみ上げて、職員やボランティアが市内各所に届ける。これが市内の民家や商店などの泥を除去するのに使われた。

旧北上川を津波が遡上して石巻市の被害は甚大なものになった。しかし、市民の生活を取り戻すために使われたのもまた、旧北上川の水だった。日本財団の同プロジェクトの最初の事業として行われた生活用水の給水は、市内の水道が復旧するまで、町のヘド口を洗い流し続けた。



旧北上川の水をホースでくみ上げ浄化装置でろ過。



# 足湯ボランティアの派遣

心も体も揉みほぐす



## MISSION

足湯を通して被災者の心と体を揉みほぐし  
被災者に寄り添い、そのつぶやきに耳を傾けることで  
被災地で必要とされるニーズを読みとる

## D A T A

規模  
(金額・リーチ)

1億4905万円

期間

2011年3月29日～

場所

宮城県：石巻市、七ヶ浜町、気仙沼市、山元町 岩手県：遠野市 福島県 東京都：広域避難者支援として計10拠点で実施

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

震災で心の痛みを負った被災者は、心がふさがちになる。そうした被災者は、自分の悩みを打ち明けたり、今何を必要としているかということ第三者に伝えたりする手段がなかった。

### 〈支援〉

足湯ボランティア派遣を行う「震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)」に対して、活動資金を支援。

### 〈結果〉

延べ1500人の足湯ボランティアを派遣。足湯で心身ともにリラックスしてもらうとともに、その際に聞いた被災者の声を書き写した「つぶやきカード」も1万枚を突破。被災者のニーズや心の悩みを専門家につないだ。

## 課題

足湯が行われる場所のように被災者が気軽に立ち寄れる居場所づくりを、ボランティアの手を離れて、今後は被災者自身が行っていきけるようにしていくこと。

「震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)」は、阪神・淡路大震災を機に生まれた、災害発生時に共に動くことを目的としたネットワーク組織。今回の震災でも、ROADプロジェクトの一環としてこれまでに延べ1500人の「足湯ボランティア」を被災地に派遣してきた。

## 1対1で向かい合い寄り添う

被災者が足湯につかりながらボランティアと会話を楽しむことで、心と体を癒やす——学生や主婦、社会人などのボランティアが参加する「ROAD足湯隊」が、3月29日から被災した各地に派遣され、被災者と1対1で向き合い、寄り添った。

足湯ボランティアとは、お湯に足をつけてくつろいでもらい、よもやま話をしながら心身のストレスを少しでも解消してもらおうという活動。考案したのは、神戸の被災地NGO協働センター。阪神・淡路大震災の時に、東洋医学を勉強していたボランティアグループが避難所を回って足湯を





行ったことから始まり、それ以降、足湯は災害ボランティアには不可欠のツールとして広がっていった。

足湯ボランティアの特徴は、被災者とボランティアが1対1で向き合えることだ。手をさすりながら、被災者を見上げる目線で話すことで、次第に両者が打ち解けた雰囲気になる。そうすると、被災者が少しずつ胸襟を開き、これまで言いたくも言えなかった心情を吐露するようになる。寄り添いからまれるボランティアの一言が、被災者の琴線に触れ、悩みを打ち明けるきっかけとなる。

足湯をする中で、被災者からポロリと出てくる生の声は、「つぶやき」と呼ばれる。こうした声はインタビュー調査やアンケート調査では聞き出すことのできない被災者の本音だといえるだろう。辛い体験を自ら打ち明けることで心のもやが晴れ、ストレス解消につながる被災者もたくさんいるという。

### まずは足湯をしっかりと

「ボランティア自身は話すぎずできるだけ被災者の方々のつぶやきに耳を傾けることがポイントです」と、震つなのNPOメンバーの一つ、静岡県ボランティア協会の松山文紀さんは言う。「そうした声は、被災者の目につかない所で『つぶやきカード』に記入していきます。足湯を行うのは1人当たり10分から15分ぐらいですが、被災者とボランティアセンターや避難所の運営者を結ぶ重要な情報ツールともいえるでしょう。つぶやきを分析することで、被災者の皆さまが何を今一番必要としているの

かが分かり、解決策に結び付いた例も多数ありました。しかしつぶやきはあくまで足湯の副産物。つぶやきを引き出そうとすると、かえって逆効果になります」

足湯ボランティアは、参加する側にとっても敷居の低い活動だといえるだろう。何の専門知識も装備もいらず、被災地に行く前に簡単なオリエンテーションを受けるだけで参加可能だからだ。宿泊先も確保されているので安心だし、日帰りでも参加できる。参加年齢が中学生（父兄同伴）から83歳までと幅広いのもそうした理由だろう。参加したのは7割がたが女性だというのも頷ける。

### 1万枚を突破したつぶやきカード

阪神・淡路大震災の時に多くのボランティアに助けられた恩返しに参加したシンガーソングライターの榎ありささんは、「鳥になりたい。鳥になったら、いなくなった

母ちゃんを海まで探しに行ける」というつぶやきを聞いた。津波被害のなかった神戸では聴けなかった言葉だった。震災直後はこうした津波の恐怖を語るつぶやきが多数聴かれたという。それが時の経過とともに、避難所での不満や将来生活の不安などにつぶやきの内容が移り変わっていった。

こうした「つぶやきカード」の数は、震災から1年を経て1万枚を突破した。延べ1500人のボランティアたちが被災者と真摯に向かい合って集めた汗と涙の結晶だ。

被災地においてボランティア支援を行う際、的確なニーズの把握が要求される。特に東日本大震災のように支援地が広範囲で、支援メニューが多岐にわたる場合はなおさらだ。ニーズを読み違えると被災者にとってはかえって迷惑だという事態も起こり得るからだ。そうしたミスマッチを防ぐ意味でも、この活動の持つ意義は想像以上に大きい。





# つぶやきカード



「つぶやきカード」は、被災者とボランティアセンターを結び貴重な情報ツール。このカードを基に被災者のニーズをつかみ、避難所やボランティアセンターの運営者に生の声を伝えていった。1万枚以上集まったカードの一部を紹介する。



仮設住宅に当たったけど、内緒にしてるんだ……

2011年4月26日 大船渡市 60代女性

近くに住んでる息子の嫁がすごく性格悪いのよ。いつも会っても無視するのよ。仮設住宅はどんなところか見てほしいね。

11月1日 陸前高田市・仮設住宅 80代女性

若い人がたくさん来てくれて、本当にありがたい。ボランティアの皆が頑張っているから、私と話をして笑顔になってくれると嬉しい。

2011年9月5日 陸前高田市・仮設住宅 50代女性

仮設住宅の人にはファンヒーターが来てるけど、在宅にはこれから石油ストーブが来ることになっているの。差が大きいの。

2011年10月19日 大槌町 50代女性

仮設住宅も待ってたけど、4畳半が2つなのよ。夫婦2人でも荷物が多いとねえ、狭いわよね。だから公団に行くことにしたけど、県を離れると、全部自分で揃えなきゃいけないし、手当の6万円ももらえないのよ。残った人だけもらえるなんて差別よね。

2011年5月11日 郡山市 70代女性

26日に今後の住居について個別面談があるんだよ。1Fをリフォームして住める人はいいいけど、土地と土台しかないから。あと10歳若かったら家建てるし、10歳年とってたら借りるんだけど、60代っていうのが一番難しいね。

2012年1月22日 山元町・仮設住宅 60代男性





● 一時帰宅は今年はないよ。何を持って帰るんだって感じだね。もう必要なものは全部持ってきたんですか? そうじゃないの。放射能まみれの物をもってきたくないのよ。もう諦めたよ。

2011年12月10日 郡山市・仮設住宅

● 50代女性

● ああ色々話して気分が晴れたよ。いつもはこんなに話そうって気持ちにはならないんだけどね。

2011年11月1日 陸前高田市・仮設

● 50代女性

● 元々は水産の仕事をしてたけど、地震でやめた。会社は再開したけど、送迎がなくなったから行く気がなくなった。

2011年6月4日 気仙沼市・避難所

● 50代女性

● 仮設住宅ではインターネットが使えない。ケータイしか使えない。仕事を探したりしたいのに、パソコン、インターネットがない。

2011年6月14日 陸前高田市 30代女性



● 好きな子はもういないよ。だって流されちゃったんだもん。だから、まだ好きな子はできない。

2011年8月17日 山元町・仮設住宅

● 小学生男子

● 避難所はみんながいるから絆が深まって家にいるより全然良い。壁もないからすぐ会話もできるし、夫婦げんかも聞こえるし、おもしろいよ。

● 2011年6月25日 亶理町 70代女性



# 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト

(通称：つなプロ) 避難所アセスメントによるニーズ把握と専門家へのつなぎ



## MISSION

被災者の状況や必要とされているニーズ等を調査・把握し  
出てきた問題や課題の解決のため、専門的な力を持つNPO法人や支援団体  
地元自治体などへ情報を“つなぐ”

## D A T A

|                |  |
|----------------|--|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 7450万円   |
| 期間             | 2011年4月～2012年3月                                    |
| 場所             | 事務局・仙台市(気仙沼市、南三陸町、石巻市、多賀城市など同県北部を中心に計10カ所程度を拠点とした) |

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

東日本大震災のような大規模災害が起きた時には、阪神・淡路大震災の経験から、要介護者や障がい者、母子や外国人など特別なケアを必要とする被災者のニーズが埋もれてしまうことが予想された。

#### 〈支援〉

延べ378名のボランティアを宮城県内443カ所の避難所に派遣し、生活調査(アセスメント)を実施した。その結果に基づいて、課題を解決できる専門性のあるNPOや、公共機関などにつなぐマッチングを行った。

#### 〈結果〉

505件のニーズを発見、うち65件について支援団体とのマッチングに成功した(2011年4月末日)。ニーズを定量的に捉えた初めての事例ともなり、災害時における新しい支援の在り方を提示することとなった。

#### 課題

障がい者など特別なケアを必要とする人たちに対し、より効果的な支援を行おうとしても、専門性をもったNPOの数がまだ少ない。ニーズ把握のためのアセスメントの精度を高めることも課題の一つである。

震災直後から、宮城県石巻市をはじめ被災地には独自の得意分野を持つ支援団体が全国から数多く集まり始めた。しかし、具体的なニーズがつかめなまま現地入りし、惨状を目の当たりにして呆然としてしまう団体も少なくなかった。多くの支援を待ち続けた被災者との仲介を担うべき地元行政当局も混乱の最中にあり、支援とニーズのマッチングが緊急課題になっていった。

そうした課題解決のために生まれたのが、「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト——『つなプロ』」だった。日本財団は、このプロジェクトをバックアップし、ニーズ掘り起こしとマッチングを支えた。

### 被災者の悩みを発見

「つなプロ」は、被災地でスペシャルケアを必要としている人々の支援を目指す



## つなプロ体制図



と発足した「スペシャルサポートネット関西」や、「せんだい・みやぎNPOセンター」などを核とした5つのNPOが連絡を取り合い、2011年3月14日、スタートさせた。

その時に掲げたミッションは「避難先でこれ以上の死者、状況悪化者を出さない」こと。そのため、避難所での課題・困りごとを“発見”した上で、その解決に有効な力を持つ専門機関やNPOと、被災者のニーズを的確に「つなげる」ことを目指した。

幹事団体の主要メンバーの年齢は30代半ば。1995年に発生した阪神・淡路大震災の時、主に大学生として震災を経験した人たちで、ミッション策定の背景には、阪神・淡路大震災時の反省と教訓が生きていた。

コアメンバーと関連団体はまず、日本財団ビルに集まり、プロジェクトの目的を共有。役割分担などを決め、3月17日には先

遣隊となる調査班が被災地に向かった。

調査班は早速、石巻、気仙沼両市内の避難所の状況をリサーチし、その後に予定していた避難所の生活調査のため、チェックシートの作成など、アセスメントの実施方法を練り上げていった。

しかし、ようやく自衛隊が道路の復旧にかかり始めたというばかりのころ。多くのがれきが至る所に横たわり、わずかな距離の移動にも難渋するありさまだった。

### 苦労したガソリンの手配

間もなく実質的な活動をスタートさせるため、ボランティア約100人が現地入りすることに決まった。到着予定は3月29日。ボランティアたちを乗せたバスが東京を出発するときには、まだ宿泊場所すらめどが

立っていなかった。

調査班として現地入りしていたNPO法人「み・らいず」（大阪府）代表理事、河内崇典さんは「なんといっても100人です。そのため車やガソリン、そして宿、入浴、食事といった生活面のサポートもすべて準備しておかなくてはなりません。とにかく大変でした」と振り返る。

宿泊については、100人の到着までに、なんとか仙台市内の輪王寺、活牛寺、登米市内の香林寺に場所の提供をお願いすることができたものの、到着後には、彼らが移動する車のガソリンの手配が大仕事となった。3月末ごろ、宮城県内のガソリン不足はまだ深刻な状態にあり、人々は「今日はどこのガソリンスタンドが営業するらしい」といったうわさに振り回され、ガソリンスタンド前には長蛇の列が出来ていた。

河内さんやスタッフはガソリンを入手するため、ほぼ毎日、約30km離れた場所まで自ら運転して出かけていった。それだけで数時間が過ぎてしまったという。

### 被災地のニーズを可視化

こうした状況が続く中で、「つなプロ」のメンバーは、次々と応援を名乗り出てくれる全国のNPOやボランティアの力を借りながら、避難所のアセスメントを行った。

アセスメントの進め方はこうだ。全部で10人ほどいる「エリアマネジャー」が、担当するエリアの避難所をボランティアと共に訪れる。そこで調査し、その結果を持ち帰っ



宿泊場所となった仙台市の活牛寺。





データベースにアセスメント情報を入力。



避難所管理者へのアセスメント。

て集計。河内さんは、そのエリアマネジャーの統括と、社会福祉協議会や教育委員会、自治体など他団体との折衝を担当した。

被災地の状況は日々刻々と変わっていく。季節も春から初夏へと移行行き、衣類や食料のニーズも、衛生環境なども変化していった。健康に不安を感じる人、子どもの教育や進路に悩む人、そして心のケアが必要な人——。被災地の状況や避難所の状態は、リサーチによって徐々に可視化されていくこととなった。

## NPOと企業をつなぐ

「つなプロ」では、活動開始から6月末日までに、宮城県内で延べ443の避難所

へ378人のボランティアが訪問し、調査を行った。ニーズのマッチングを行ったほか、富士通のクラウドシステムを利用してウェブサイト上でアセスメントの結果を週単位で公開、被災地の状況と課題について広く社会に向けて発信も続けた。

このように、NPOと企業との協働の成果は大きかった。富士通をはじめソフトバンクやNTTなど多くの企業による協力があったからこそ、情報の収集や共有面において多くの成果を出すことができた。新しいスタイルの災害支援への取り組みとして多くのメディアにも注目された。

河内さんは「地元の人たちと信頼関係を築くことも大事」と強調する。「遠くから来るボランティアの人たちが支

援を行うには、地元との連携も大切です。今回、私たちは、現地のお母さん方と一緒にスペシャルケアを必要とする方への支援を進めたため、幸いにして、周りの人からの信頼もいただくことができました」(河内さん)

「つなプロ」は、避難所で次に起こりうる事態を予測して、広域でアセスメントを行うという新しい試みであった。確認された505件のニーズのうち160件で、ニーズの詳細について再度の確認が必要だったことが分かっており、アセスメントの精度向上など課題もある。

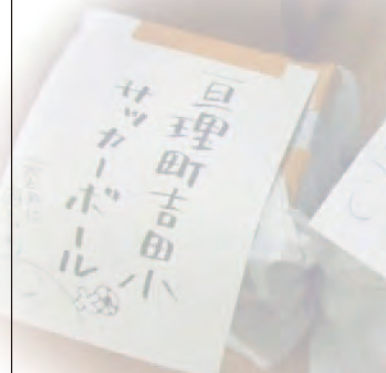
しかし「つなプロ」の活動は、大規模災害においてNPOが果たしうる役割の一つの形を提示したといえるのではないだろうか。

## 5週間にわたって22の市区町村の避難所を巡回、505件のニーズを発見

| 期間                   | ボランティア数 | 巡回避難所数 | ニーズ数               | 巡回エリア   |
|----------------------|---------|--------|--------------------|---|
| 先遣隊<br>(3月17日～3月28日) | 6名      |        | 8件                 | 塩竈市、岩沼市、<br>気仙沼市、山元町、<br>七ヶ浜町、女川町、<br>松島町、石巻市、<br>仙台市宮城野区、<br>仙台市若林区、<br>仙台市青葉区、<br>仙台市太白区、<br>多賀城市、大崎市、<br>登米市、東松島市、<br>南三陸町、美里町、<br>名取市、湧谷町、<br>利府町、亶理町の<br>合計22エリア |
| 第1期<br>(3月29日～4月3日)  | 76名     | 310カ所  | 62件                |   |
| 第2期<br>(4月4日～4月10日)  | 103名    | 219カ所  | 168件               |   |
| 第3期<br>(4月11日～4月17日) | 119名    | 207カ所  | 131件               |   |
| 第4期<br>(4月18日～4月24日) | 29名     | 114カ所  | 62件                |   |
| 第5期<br>(4月25日～5月1日)  | 51名     | 115カ所  | 74件                |   |
| 合計                   | 378名    | 965カ所  | 505件<br>うち対象内*232件 |   |

| ステータス        | 対象内 | 対象外 | 総計  |
|--------------|-----|-----|-----|
| マッチング先 対応完了  | 45  | 20  | 65  |
| マッチング先 引受中   | 49  | 1   | 50  |
| マッチング先探索・調整中 | 55  | 3   | 58  |
| 要詳細確認        | 24  | 136 | 160 |
| 対応停止         | 59  | 98  | 157 |
| 総計           | 232 | 273 | 505 |

※ヒアリングしたニーズのうち、つなプロとして取り組むべきだと考える特別なニーズを対象内として抽出、優先的にマッチングに取り組みました。





## 合計65のニーズへのマッチングが完了

| 対象   | 主なニーズ(数)   | つないだ対象(数)   | 提供内容(数)                      |
|------|--|---|------------------------------|
| 全員共通 | 日用品(5件)、ライト(4件)、トイレ(3件)、医療機器(2件)、医療支援(2件)、衣料品(2件)、衛生用品(2件)、食料品(2件)、寝具(2件)、雨具(1件)、医療用品(1件)、衛生管理支援(1件)、おもちゃ(1件)、学用品・文房具(1件)、身体のケア(1件)、靴(1件)、健康管理用品(1件)、清掃用品(1件)、調理器具(1件)、通信機器(1件)、電化製品(1件)、ペット用品(1件) | つなプロ物資(15件)、物資支援系NPO(13件)、個人ボランティア(3件)、医療関係団体(2件)、コーディネート系NPO(1件)、行政機関(1件)、ペット支援NPO(1件)、企業(1件)                          | 物資支援(30件)、人員支援(4件)、情報支援(3件)  |
| 少数者  | 高齢者  | つなプロ(8件)、行政機関(5件)、介護支援系NPO(4件)、看護系NPO(3件)、社会福祉協議会(2件)、移動支援系NPO(1件)、コーディネート団体(1件)、物資支援系NPO(1件)、アート系NPO(1件)、高齢者支援系NPO(1件) | 物資支援(11件)、人員支援(10件)、情報支援(6件) |
|      | 障がい者   | 行政機関(11件)、聴覚障がい者系NPO(3件)、個人ボランティア(2件)、視覚障がい者支援系NPO(1件)、つなプロ(1件)、看護系NPO(1件)、社会福祉協議会(1件)                                  | 情報支援(10件)、人員支援(6件)、物資支援(4件)  |
|      | 子ども  | 子ども支援系NPO(6件)、つなプロ(4件)、行政機関(1件)、物資支援系NPO(1件)、母子支援系NPO(1件)   | 物資支援(12件)、情報支援(1件)           |
|      | 患者   | 行政機関(2件)、心のケア系NPO(1件)、福祉支援系NPO(1件)、つなプロ(1件)   | 人員支援(4件)、情報支援(1件)            |
|      | アレルギー  | アレルギー系NPO(2件)、企業(2件)  | 物資支援(4件)                     |
|      | 外国人  | つなプロ物資(1件)  | 物資支援(1件)                     |

## 課題総論 —緊急段階を脱するも、避難生活長期化に未対応—

- ・食事・物資確保、集団感染症等に対応する緊急フェーズは脱しつつある
- ・一方、仮設住宅移行・栄養ある食事・メンタルケア・移動手段など、長期避難に備えた対策が必要

|                | 3月末時点課題         | 4月末時点課題                 | 調査者のコメント   |   |
|----------------|-----------------|-------------------------|--|---|
| 居住地<br>(Where) | 人数減少・避難所統合に伴う移動 | 仮設住宅への移行・大規模避難所への統合への不安 | 「単身高齢者が仮設住宅に移転すると、ひきこもりや孤独死等につながる危険性」<br>「賃貸住宅への移転準備が大変(すべての家財道具を準備しなければならない)」<br>「大規模な避難所へ移ることへの不安」 |   |
|                | 食事              | 最低限の食事                  | 野菜など、栄養ある食事  | 「高齢者向けに、油っこくないあっさりした、食べやすいもの(野菜とか)が欲しい」<br>「野菜が不足している」  |
| 生活<br>(How)    | 医療              | インフルエンザ・感染性胃腸炎への対応      | メンタルケア<br>エコノミー症候群<br>ほこり対策  | 「多くの人が言葉には出さないが心労がたまっているという。仮設へ移ってから病気になるのではないか」<br>「介護疲れが心配」<br>「メンタル専門医師の訪問の要望あり」<br>「老人が1人エコノミー症候群で死亡」<br>「昼間粉塵の中作業し、夜中に咳き込む人多数」 |
|                | その他             | 衣料                      | 移動(自動車)・燃料(発電ガソリン)   | 「バスが運行していないので移動が困難」<br>「送迎バスのサービス要望(避難所の統合により、学校が遠方に)」<br>「発電機のガソリンがもう少しあれば、テレビを長時間見ることが可能」   |

避難所マネジメント問題(人不足・管理面への不満、住民間の争いなど)は継続発生

資料: つなプロアセスメント調査(4月25日~4月30日)



# 「大学生ボランティア隊」派遣

チーム『ながぐつ』プロジェクト



## D A T A

規模  
(金額・リーチ)

4997万5000円

期間

2011年4月15日～  
第1陣派遣～継続中

場所

宮城県石巻市・気仙沼市・東松島市、岩手県遠野市、福島県会津若松市

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

被災地でのボランティア活動を希望するが、現地のニーズ把握や宿泊先の確保などができない学生が多数いる。

### 〈支援〉

現地でのボランティア作業のニーズを掘り起こして学生を派遣。交通費や宿泊費などを支援。

### 〈結果〉

1835人の学生を派遣し、作業日数延べ計算では5099名に上る。50カ国以上からの留学生も含む。

### 課題

学生ボランティア活動をするためのコーディネート体制を整えつつ事業を継続すること。

## MISSION

ボランティア活動に参加したい学生を  
大量に被災地へ派遣する

Gakuvo (日本財団ボランティアセンター) は、学生ボランティアの育成を目的に2010年4月に設立された組織。「学生インターン」によって、社会課題を学生の目線から検討し、学生主導で事業を企画、実施するのが大きな特徴である。

### 学生の善意を被災地に届ける

震災当時、被災地の情報は混乱し、交通アクセスも寸断され、ボランティア活動に参加したい学生はどのようにしていいかわからない状況が続いていた。しかも、ネット上を中心に「ボランティアに行っても現段階では地元で迷惑をかけるだけ」という「ボランティア不要論」が目立っていた。

Gakuvoでは、日本財団から正確な情報を受け取り、バスのチャーターや宿泊先の確保などの調整に迫られた。そして、2011年4月15日よりチーム『ながぐつ』プロジェクトとして学生ボランティアの被災地派遣を開始した。

当時、現地での主な仕事は大量のヘドロの除去やがれきの撤去。そして被災地の状

況は、いくら労働力があっても足りないほど大きなダメージを受けていた。

### 現地でのコーディネートの重要性

今回の災害で再認識させられたのは、ボランティア活動におけるボランティアコーディネーターの重要性だ。

現地のニーズを正確に把握し、作業に必要な装備の手配などをして安全性も保ち、何十人も学生ボランティアの作業を仕切る役割。その存在がなければ、「何かの役に立ちたい」という、学生ボランティアたちの善意が有効に活用できない。Gakuvoでは、派遣地でのボランティアコーディネーターの役割を果たす人材の確保に力を入れた。

日本財団が支援拠点を置く石巻をはじめとして、気仙沼ではGakuvo元インターンの加藤拓馬さん、岩手県遠野市の「遠野まごころネット」や福島県の「元気王・プロジェクト実行委員会」が現地でのコーディネートを行い、たくさんの学生を現地に派遣することができた。



START



6.03 12:43 ▶

ボランティアの心構えや被災者への配慮など、1時間の事前研修を参加者に義務付けた。



6.03 13:56 ◀

総勢26名が石巻へ移動。被災地に向かうバスの中、学生たちはさまざまな表情を見せる。Gakuvoでは、日本語が話せない外国人留学生も受け入れた。



6.03 19:35 ▼

約7時間かけて、宮城県黒川郡大郷町にある宿舎のB&G海洋センターに到着した。



6.03 19:39 ▶

着いた途端に始まった、板の間に畳を敷く作業。自分たちの寝床は、自ら準備する。



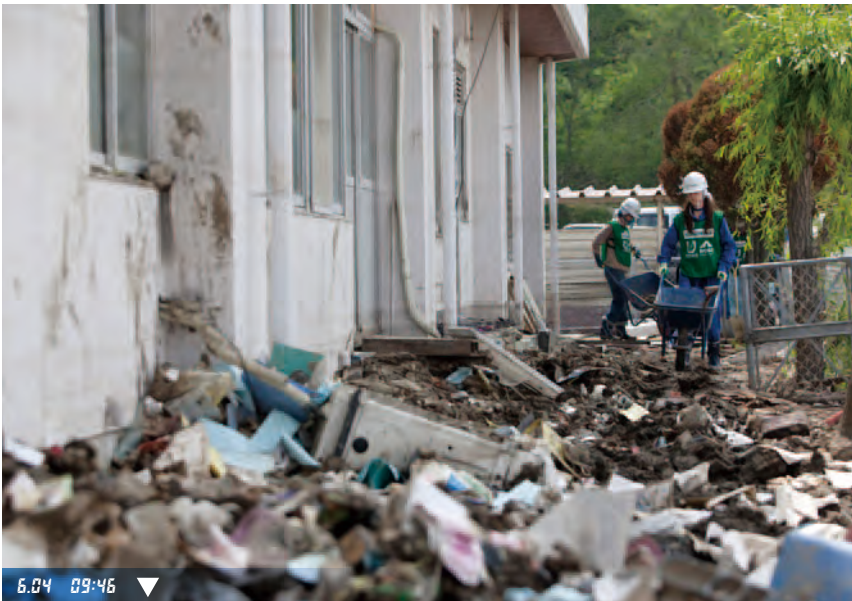
6.04 07:19 ▶

作業に必要な装備もGakuvo側で用意。初仕事に出かける前に、お互いの服装をチェック。



6.04 08:45 ▼

車窓から見える被災地の想像以上の惨状に言葉を失い、複雑な表情を浮かべた参加者。



6.04 09:46 ▼

今回の任務は、市の施設「石巻 明友館」の建物周りにたまった大量のヘドロとがれきを撤去。被災地には、ボランティアの力が必要な作業が山ほど残っていた。



6.04 08:51 ▼

現場に到着。「さあ、気合を入れて」と掛け声がかかる。大量のホコリが舞う作業ではマスクが絶対が必要。



6.04 09:20 ◀

この日は、ASEAN(東南アジア諸国連合)ボランティアキャラバン隊が合流した。



6.04 09:57 ▶

Gakuvoながつ隊とASEANキャラバン隊の協同で、どんどん作業が進められる。



6.04 10:33 ▶

50分作業したら10分休む。重労働の効率アップと安全に作業するためには休憩が大切。



6.04 10:58 ▶

「意識の高いさまざまな学生と触れ合って世界が広がった」という海上保安大学の学生、深川さん。



## Gakuvo密着ドキュメント



6.04 10:58 ▶

「恩返しをする番」と言う、スマトラ沖地震で被害にあったインドネシアのTHALALさん。



6.04 12:28 ▶

ASEANのスリン事務総長も現場の視察に訪れ、ボランティアたちを激励した。



6.04 12:58 ▶

作業用の重機にはASEAN諸国の国旗が飾られる。過酷な労働を茶目ついで和ませます。



6.05 06:02 ▼

6時に起床。ボランティアの朝は早い。昨日の重労働で寝足りない様子の学生たち。



6.04 13:13 ◀

不動町で行われたASEAN主催の炊き出し。「タイ料理っておいしいのね！」と地元の人にも大評判。Gakuvoのメンバーは夕方まで撤去作業を続行。



6.05 07:03 ▼

海上保安大学の生徒たちが披露してくれた海保体操。重労働の準備運動として最適だ。



6.05 08:28 ▶

宿舎前の被害を見て、「水のかってスコイですね」と悲しむブラジル人留学生のBrunoさん。



6.05 08:50 ◀

2日目のボランティア作業が始まる。少しずつ学生同士のチームワークが良くなってきたのか、みんなが分担し合ってテキパキとがれきを撤去していく。



6.05 08:55 ▶

女の子も率先して重い物を運ぶ。彼女たちの奮闘を見て、男性陣からも、「負けてられない」とばかりに活気が溢れた。



6.05 10:47 ▶

窓の棧を丁寧に掃除。重機が入れないような作業場で活躍できるのがボランティアの強み。



6.05 11:57 ▼

憩いの昼食時間。同じ目的で作業することで連帯感が生まれ、和気あいあいとした雰囲気。





急に飛び込んでくる地元住民の要望に応えられるのもボランティアの強み。他のボランティアチームと力を合わせて、津波に破壊された車を撤去する。



6.05 14:09 ▼

学生ボランティアの活躍で、大量にあったヘドロとがれきがキレイになった現場。



ボランティア作業終了後は、自分たちが使用した道具もきれいに清掃する。



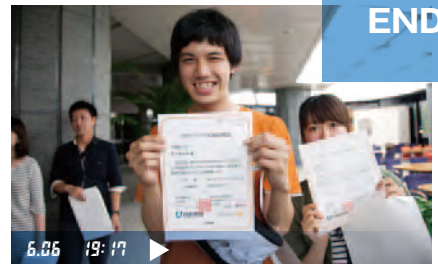
きれいになった現場で記念撮影。みんな達成感あふれる生き生きとした表情。この中から次代のボランティア・コーディネーターが育つことを願う。



「これで明日から頑張ってください!」と、朋友館のリーダー・千葉さんから感謝のお礼をいただく。



お世話になった宿舎を丁寧に掃除。次に来るボランティアのためにも欠かせない仕事。



帰京後に受け取ったボランティア証明書。大学によっては提出すると単位認定される。

END



# ボランティアたちの笑顔

学生ボランティアの明るい笑顔は、被災現場を照らす太陽だった——











## ボランティアたちの笑顔





# 国際専門家会議「放射線と健康リスク—世界の英知を結集して福島を考える」

福島の人々の不安をやわらげるために



D A T A

MISSION

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射線被ばくがもたらす健康影響について、国内外の放射線と健康に関する専門家が一堂に会して総括すること

規模  
(金額・リーチ)

3445万4432円

期間

2011年9月11日、12日

場所

福島県立医科大学

## プロジェクト概要

〈ニーズ〉

原発事故による健康への影響はどの程度なのか、県民は真実を知りたがっている。しかし、不安をかき立てるようなうわさも多く、科学的根拠に基づく情報を発信する必要があった。

〈支援〉

国際専門家会議としては異例だが、会議はマスコミにオープンで開催された。また、Ustreamを使って中継しており、一般市民も視聴できる態勢で行った。

〈結果〉

国内外から集まった40人の有識者が議論を交わし、400人を超える科学者、医師が傍聴。議論の内容から8項目に及ぶ「結論と提言」が作成された。

課題

福島県民の健康リスク問題を正しく評価するため、会議の内容を検証する必要がある。

## 専門家が福島に結集

東京電力福島第一原子力発電所事故から半年が過ぎた2011年9月11日と12日、福島県立医科大学にて日本財団の主催による国際専門家会議「放射線と健康リスク」が開催された。会長の笹川陽平は冒頭の挨拶で国際会議開催に至った背景として「福島の人々の心の疲れや不安を和らげることができないかという思い」があったと述べている。

最初のセッション『福島の現状』では事故発生から今日までの福島の姿が報告された。放射線医学総合研究所放射線防護研究センターの酒井一夫氏は「(事故発生当初の報道は)放射能によるダメージの話ばかりが先行」しており、不安にかられる住民の間では科学的根拠のないうわさが広まったことを指摘。「放射線影響研究および放射線防護の専門家は一般の人々に対して内部被ばくの概念をきちんと伝えるべき」だと訴えた。続く『放射線生物学と放射線防護学/安全：基礎と疫学と分子疫学』と題したセッションでは京都大学の丹羽太貴氏が「医師は一人ひとりの個

人的リスクと、統計学的なリスクの双方を見た上で、患者の助けになるようアドバイスをしていくべき」との意見を述べている。

## メンタルケアの充実を

また、身体的リスクのみならず精神的リスクについても議論が交わされた。ニューヨーク州立大学ストーニブルック校のエヴェリン・プロメット氏によれば、チェルノブイリ原子力発電所事故やスリーマイル島原子力発電所事故の後、多くの住民に抑うつや不安、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などの影響が認められているという。影響を及ぼす要因は自分自身や肉親の健康、将来的な不安、社会の偏見など多岐にわたる。プロメット氏は「心の病は体の病と分けて考えるべきではない」として、福島でもメンタルケアを充実させるべきだと訴えた。

提言の作成後には記者会見が行われたが、内部被ばく、メンタルケア、がんなど、これだけ多分野の専門家が結集する機会はこれが初めてであり、3時間以上にわたって質疑応答が繰り広げられた。



# 臨時災害FM放送局支援プロジェクト



## MISSION

被災者の生活に密着した情報を届ける  
臨災局\*1の開設および運営を支援する

## D A T A

規模  
(金額・リーチ)

1億7402万3064円  
22局

期間

2011年4月21日～12月26日

場所

岩手、宮城、福島、茨城の4県

## 〈結果〉

新規開局と放送の継続を大きく後押し、被災者への情報伝達に大きな役割を果たした。早急な支援策の発表により、安定的に臨災局を運営できたことと自治体や専門家からも高い評価を得た。

## 課題

臨災局を支えるスタッフの多くは一般のボランティアで、プロとして放送に携わってきたわけではない。震災直後は自治体からの災害関連情報を流していたが、復興とともにリスナーのニーズも変化しており、番組コンテンツの工夫が今後の課題である。

日本財団の緊急支援。弔慰金・見舞金として届けた「現金」に続いて、職員が目にしたのが「情報」だった。弔慰金・見舞金の配布を通じて、最も求められているものの一つが、命や暮らしに直接関わる情報だということを感じたからだ。

## 放送局とラジオの力信じ

検討を重ねた結果、そうした情報を放送する臨時災害放送局（臨災局）への支援を決定した。広告収入などが基本的に見込めない臨災局の開設や運営は、特に

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

インフラが破壊された被災地ほど地元情報の収集・発信は困難。「自分たちの住む地域はどうなっているのか、どうなるのか」を知りたい人が多かった。

### 〈支援〉

臨災局の免許主体である自治体に対して、開局補助金、運営補助金情報収集車購入助成、ラジオ寄贈計4万2000個（うち2万個は日本財団が購入、2万2000個は中国から物資寄付として受け付けたもの）、コンテンツ確保のサポート。



亶理町の臨災局「FMあおぞら」のスタジオ。





被災した自治体にとって大きな負担となっていたからだ。

このほか、被災地でラジオ機器自体も不足していたため、携帯ラジオも配布。事前の調査により、各臨災局の周波数の周知が課題とわかり、配布するラジオの表面に周波数一覧のラベルを一枚一枚、ボランティア約20人が2日間にわたって手作業で貼って届けた。また、放送すべき情報の減少に伴いコンテンツ制作が課題となっていた臨災局には、日本財団の被災地支援活動や避難所でもできる健康体操など役立つ情報を番組として制作、提供した。

### 3日で準備、開局を実現

支援を受けることになった自治体の一つ、宮城県亶理町の臨災局「FMあおぞら」は、東日本大震災の発生から13日後の3月24日、放送を開始した。

2011年3月11日、亶理町役場は地震で倒壊の危険が生じたため、直ちに立ち入り禁止となり、町の災害対策本部は約1カ月間、庁舎前の駐車場にテントを張って陣頭指揮に当たっていた。安否情報、水や食料の確保、町内の被害状況……。住民に知らせるべき事柄はいくつもあったが、停電や通信の遮断などで防災メールなども使えず、役場としては掲示物を避難所に張り出すなどで精一杯。職員は情報発信できないもどかしさに苦しんでいた。

震災から10日後の同月21日、南隣・山元町で、臨災局「りんごラジオ」の放送が開始された。その様子を間近で見ていた亶理町在住の吉田圭さん（現「FMあおぞら」放送担当総合チーフ）が「亶理町でもFM放送をしてはどうか」と同町役場に提案。「りんごラジオ」をサポートしていた新潟県の「FMながおか」からも機材や技術提供の申し出があり、役場は開局を決断した。

役場敷地内のプレハブ小屋にスタジオを急造して機材等を準備。同月24日午前、総務省へ電話で放送認可を得て、同日午後4時、同町の臨災局「FMあおぞら」は最初のコールサインを発信した。山元町での“経験”があったとはいえ、わずか3日で準備・開局という早さだった。



ラジオ（右）のラベル貼りはボランティアが手作業で仕上げた。



初めに放送されたのは、給水車の行き先、避難所の場所、支援物資に関することなど「役場からのお知らせ」で、翌日以降は午前7時から1時間おきに午後7時まで放送。1回の放送は約20分程度だった。

ラジオ計2500台の配布を受けることになっていた日本財団からは最終的に2011年6月、支援が決まり、同臨災局は12月までに運営資金などとして計650万円、車両購入費として150万円の支援を受けることになった。

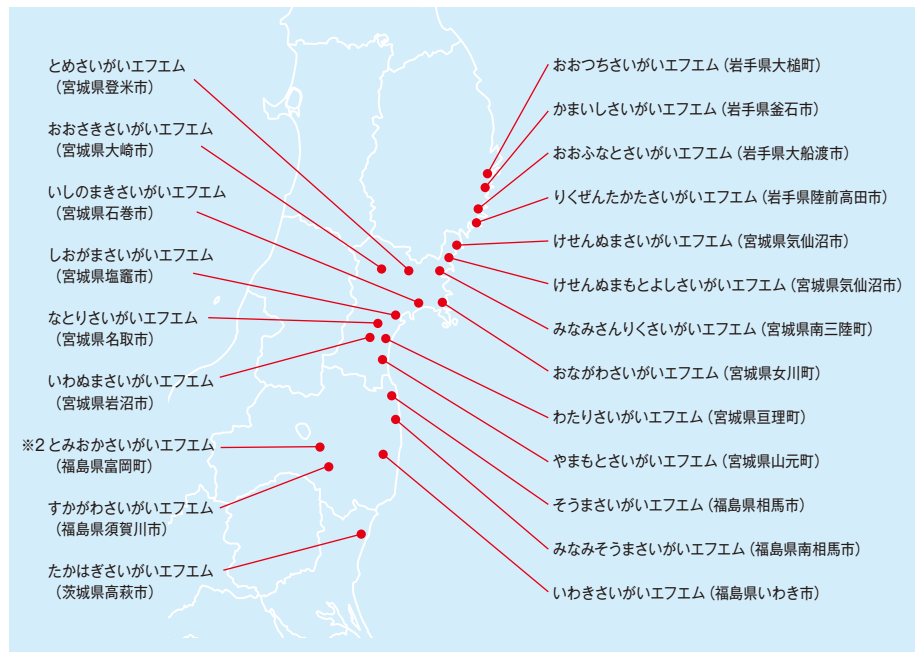
やがて1回あたりの放送時間も延び、役場からのお知らせも「家屋解体意思表示のお願い」や「復興計画の経過と現状」などに変わっていった。また、生活関連情報のほか、在留外国人向け多言語放送（5カ国）などコンテンツも増えた。スタジオも、プレハブ小屋から役場のプレハブ倉庫

を経て、2012年2月にはJR亶理駅に隣接する町立施設「悠里館」の2階に移った。

### 「ラジオが頼り」住民の声

2012年2月、町が全家庭に対して実施したアンケート調査結果によると、「ラジオが頼り」との回答が目立ち、ラジオを聞いて外出する気持ちになれたという人や、地元の情報が流れてくるだけで安心という人もいたという。

「役場の情報、取材した情報、持ち込まれる情報……。放送したい事柄はたくさんあります。被災者のニーズを取材した内容だけでも時間が足りないくらい」（吉田さん）。リスナーの気持ちを「あおぞら」にしてくれる亶理町の“声”は、今日も周波数79.2ヘルツ、出力30ワットで放送中だ。



※1【臨時災害放送局（臨災局）とは】  
災害が発生した場合に、その被害を軽減するため、地方公共団体等が開設する臨時かつ一時の目的のためのFMラジオ放送局。東日本大震災を機に設置された臨時災害放送局は、被災当初の給水・炊き出し等の救援情報等から、地域の復興情報や住民を元気づける情報へとシフトしながら、被災者に役立つ情報をFM波で放送している。（総務省HPより抜粋 [http://www.soumu.go.jp/menu\\_kyotsuu/important/kinkyu03\\_000013.html](http://www.soumu.go.jp/menu_kyotsuu/important/kinkyu03_000013.html)）

※2 郡山市富田町の仮設住宅にて開局



# 被災造船関連事業者への再生支援プロジェクト



## MISSION

被災地の造船および造船関連事業者が事業を再開できるようにする。雇用の受け皿を整備する

## D A T A

規模  
(金額・リーチ)

13億4998万円  
被災地域の造船関連事業者で構成する地域造船協議会5カ所の計約100事業者

期間

2011年7月～2012年5月

場所

青森、岩手、宮城、福島 の4県

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

造船および造船関連事業者の多くが操業中止に追い込まれたが、単独での事業再開が困難。漁船の新造、修理もできない。

### 〈支援〉

当面の事業再建に必要なクレーン、溶接機などの共有設備の購入を支援。

### 〈結果〉

漁船の新造や修繕の受注が可能になった。造船所や関連事業者の建造・修理能力は、被災前の5割程度以上に復旧。

## 課題

地盤沈下により作業に支障が出ている。関連地区の土地のかさ上げ、あるいは集団移転が必要。

東日本大震災で津波被害を受けた南北300キロにわたる沿岸部は、日本有数の水産業、漁業の盛んな地域。多くの人が直接的に、あるいは間接的に海に関わる仕事で生計を立ててきた。こうした人々が海と関わる生活や文化を維持し、あるいは取り戻すことを目指し、日本財団は、被災地域の海に関連する事業者に、事業再開に向けた支援を行うことにした。

## 裾野の広い造船業に支援

このうち、被災造船関連事業者への再生支援プロジェクトは、壊滅状態となった造船所とその関連事業所の再生に焦点を当て、震災後4カ月が経過した7月から実施。裾野が広い造船業の復興を支援し、復興への希望の明かりをともすことが目標





気仙沼市内の造船所。地盤沈下などの問題がある中で、支援を受け早期の事業再開を果たした。

となった。

造船業は部品製造業者も含めると、雇用の受け皿としての役割も大きく、支援対象エリアでは、造船所で37社約2100人、船用工業で150社約2200人に上る雇用が見込まれた。造船業はまた、漁業、水産業を下支えする産業でもある。被災地域の漁業関係者から、漁業を早期に再開したいとの声が上がっており、漁船の新造、修繕の需要が高まっていた。

しかし、沿岸部はその時点でも、建築制限などがあることから復興の方向は定まっていなかった。既存事業者の中には、復興に向けた取り組みも始まりつつあったが、被害規模が大きく、また被災した造船所や関連事業者の大半は中小零細事業者であったため、単独で事業を再開したり、事業再生に向けたプランを描いたりするのが非常に困難な状況だった。

## 支援後3カ月で5割復旧

そこで、日本財団では当面の事業再開に必要な設備整備を支援することにした。まず、被災地域で新造船や修繕のニーズの調査を実施。その上で、被災地域の中でも中核的な造船拠点である八戸、大船渡、気仙沼、石巻、いわきの5カ所で、事業者による「造船及び造船関連事業協議会」を組織し、協議会ごとに必要な設備を挙げてもらった。本来はライバルである同業者が協力して支援を受け、事業を展開することになった。

9月より順に、支援設備・機器の贈呈を開始。3カ月後の2011年12月時点で、各地の製造能力は、被災前のおよそ5割にまで復旧したという。

このうち、5カ所の拠点のトップをきって9月2日、機器類の贈呈を受けた気仙沼地区の協議会（29事業者）では、申請数131台に対し、震災後1年を迎えた時点で計約90台が納入された。

同協議会副会長の小野寺卯征さんは「おかげで気仙沼の造船・造船関連業は8割方稼働している状態です」と語る。「国の補助を受けようと思えば、費用の3分の1は自腹となるほか、まずは全額を自分で支払う必要があります。ところが、この度の支援は全額の助成。これによって、早期に思い切って操業再開に踏み出せました」。

## フル稼働の場所確保が急務

このように、支援が早期復旧に非常に

効果的であったと評価は高い。しかし、津波被害の傷は深く、再開された操業が暫定的なものにとどまっているのも事実だ。

目立つのは、かつては沿岸部に集中していた造船関連業者の工場の多くが津波で流されたため、それぞれが内陸部に移転していることだ。海岸から車で30分ほどかかる山あい、家族で手作りの仮設工場を設け操業を再開した、この道40年の造船関連業者、澤井淳さんは「支援を励みに、3年をめどに海のそばに工場を戻して本格復興したい」と意気込む。

沿岸部に残る造船所も、地盤沈下のため船台が10~20%浸水し、大型船の製造は受注できない状態が続いている。小野寺さんは「支援によって復興の第一歩は踏み出せました。しかし、地盤沈下の問題を解決しない限り本格的な復興は望めません。造船所がフル稼働でき、内陸に移った業者が戻ってこられる場所を確保することが、重要課題です」と話している。



このたびの支援によって、以前使用していたものより高性能の機器が届き、労力を大幅に削減できました」と話す澤井淳さん（左から2人目）。



# 水産業再生のためのフォークリフト支援事業



## MISSION

### 必要なタイミングで水産業再生のための フォークリフト配備を支援

#### D A T A

規模  
(金額・リーチ)

9032万円(事業費総額約1億  
8065万円、補助率50%)  
宮城県内の3カ所計76台

期間

2011年10月

場所

宮城県漁協表浜支所、同漁協石  
巻市東部支所、牡鹿漁協

#### プロジェクト概要

##### 〈ニーズ〉

水産業復興のために欠かせないフォークリフトが  
流失。2012年3月収穫予定のワカメの種付けに  
向け、2011年10月までに配備が必要。

##### 〈支援〉

現地の使用に適した機能「ヒンジ」付きフォーク  
リフトの配備を支援。

##### 〈結果〉

2011年10月にワカメの種付け作業が可能になり、  
無事収穫時期を迎えた。フォークリフトはその他各  
種運搬作業に活用。

#### 課題

早期の岸壁のかさ上げ。

宮城県・牡鹿半島において学生ボランティア  
の派遣を行っていた日本財団の職員は、  
漁業者との対話の中で被災地沿岸部の水産  
業復興のために欠かせない機器への支援  
が、非常に限られていることに気づいた。

#### フォークリフトが復興の鍵

それらの中でもフォークリフトの配備を  
望む声が強かった。これがなければ、漁  
に出ることができても、収穫物を陸揚げし  
て運ぶことができない。また、地盤沈下  
などの影響で、震災前に使用していた岸壁  
近くの作業スペースが使用不可能となり、  
漁具などを移動させる距離が長くなって  
いた。フォークリフトは、運搬の動力として  
今まで以上に頼られる状況になっていた。

ところが、そのほとんどが流失。国の支





「ここでは、復旧ではなく復興が進んでいます」と話す木村さん（左端）。右2人は関西からボランティアにやって来た学校関係者と高校生。



援がいつ実施されるのか見通しが立たず、関係者は心配を募らせていた。そこで、日本財団では8月、フォークリフトを水産業再生の要と位置付け、配備を支援する検討を開始。十分な活用が見込まれる地域として、宮城県漁協表浜支所、同漁協石巻市東部支所、牡鹿漁協を選定し、配備経費を助成したフォークリフトを組合員で共同利用してもらうことにした。

### ワカメ収穫目指し緊急配備

これらの地域ではワカメ養殖が盛んで、関係者からは「仕込みが始まる10月中旬までに何としても手に入れたい」との切迫した要望が届いていた。その時期に種付けができなければ、翌年春の収穫はできないからだ。

しかし、配備支援は決まったものの各被災地からの発注が急増していたことによりフォークリフトが品薄となっていた。日本財団では、メーカーなど多方面の業者と交渉。なんとか必要台数を確保し、「悲願」とされていた10月中旬までに全3カ所に対し計76台のフォークリフトを届けることができた。

### ワカメ収穫、復興に弾み

宮城県漁協表浜支所では、震災前に約70台あったフォークリフトのすべてが流失。このたびの支援で45台の支援を受け10月、ワカメの種付けを行い、2012年3

月、待望の収穫時期を迎えた。支所前の岸壁では、収穫されたばかりのワカメをゆでるラインが所狭しと敷かれ、湯煙が上がった。一時に300人近くが黙々と作業する現場で、同支所運営委員会委員長の木村千之さんは「まさに猫の手も借りたい忙しさ。この繁忙期を迎えられたのも、10月のタイミングで支援をしていただいたおかげです」と動き回るフォークリフトに目を細めた。

支所内の組合員を束ねる立場にある木村さんには震災直後、「フォークリフトがなければ、操業を開始できない」と悲痛な声が続々と寄せられていた。資金が調達できたとしても納品が困難な状態で、八方ふさがりだった。正直、すべての事業者が

廃業に追い込まれてしまうと思ったこともあったという。

「そんな時に、日本財団職員に出会い、窮状を訴えました。その時に私たちに耳を傾け、実際に動いてくれなければ、現在の状況は120%あり得ませんでした」（木村さん）。フォークリフトは、カキの陸揚げ作業など年間を通じて活躍する見通しだ。

同支所によると、今後の課題は、1.40メートルも地盤沈下した岸壁のかさ上げ。それが実施されない限り、恒久的な作業場を設置できず、本格復興もままならない。木村さんは「こればかりは個人ではどうにもならない。各方面に支援や協力を呼び掛けていきたい」と話している。

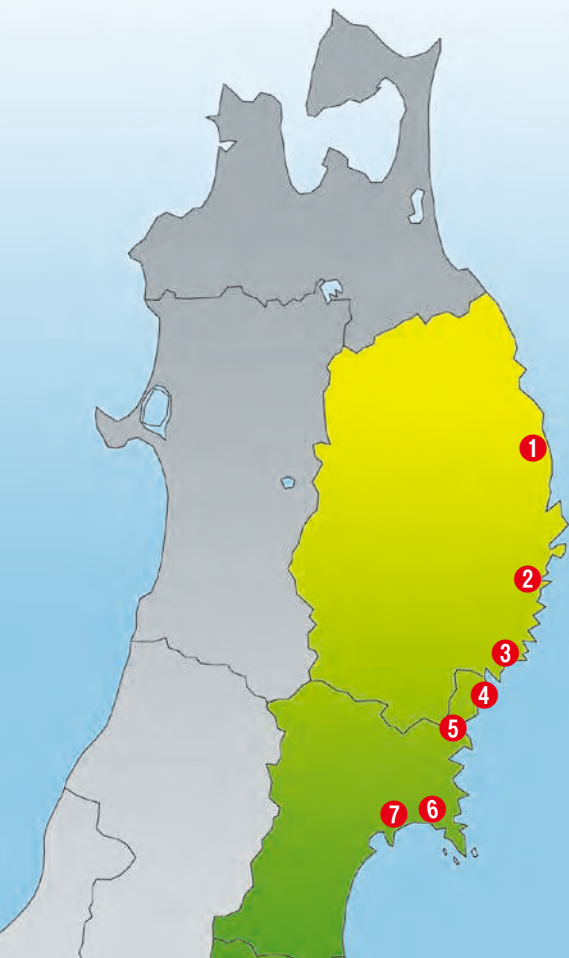


ワカメ収穫の最盛期を迎えた宮城県漁協表浜支所前の作業場。



# 被災小型船舶再生支援プロジェクト

## 被災小型漁船の修理



|       |     |    |    |    |    |    |
|-------|-----|----|----|----|----|----|
| ① 宮古  | 32  | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ② 釜石  | 104 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ③ 大船渡 | 180 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ④ 気仙沼 | 34  | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ⑤ 志津川 | 63  | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ⑥ 石巻  | 54  | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| ⑦ 東松島 | 28  | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |

### MISSION

「自分の船で再び海に出たい」  
という漁師の思いに応える

### D A T A

規模  
(金額・リーチ)

1億7190万7000円  
計約500隻の修理

期間

2011年6月~12月

場所

岩手、宮城両県の計8か所  
(仮設修理場)

### プロジェクト概要

〈ニーズ〉

津波により漁船の大多数が破損、あるいは流失し、漁師が操業できない状態になった。



〈支援〉

仮設の修理拠点の整備と、そこでの小型船舶の修理。



〈結果〉

漁師の操業再開を後押ししたほか、地元の技術者の短期的な雇用も創出。

課題

共同所有となっている修理後船舶の取り扱いなど。

被災直後から現地入りしていた職員が、漁船のほとんどを流失した漁港の被害を目の当たりにしたのがきっかけだった。海上に浮かぶ船も散見されたが、船がなければ取りに行けない状況。命の次に大切な漁船を失い、漁に出ようにも出られない漁師が、呆然と海を見つめている姿を何度も見かけた。

### 船流失、修理さえできれば

調べてみると、今回の震災で流失などの被害を受けた漁船は約2万隻。このうち被害数の大半を占める小型漁船については、5%の1000隻程度は被害も軽度であり、「破損して残った船を修理すれば、早期に使用を再開できるのでは」と支援の方向性を探った。

これを可能にするため、全国漁業協同組合連合会をはじめ、地方自治体とのパイプを持つ水産庁や、漁業活性化の取り組みを進めている海洋システム協会にも呼





南三陸町志津川の修理拠点で行われた修理艇第1号のお披露目式。3カ月ぶりに船のエンジン音が港に響いた。



修理艇第1号に乗船した関係者は、慰霊の祈りをささげた。

び掛けて準備を進めた。その結果、地元  
の造船関係業者と漁協、自治体、舟艇メー  
カーが連携して進めながら、仮設の修理  
場を設置し、被災した1トン程度の小型漁  
船を中心に修理することが決定された。

修理に必要な機材（運送用大型トラック  
や発電機）は、日本財団からの助成金で手  
配し、材料および作業員の人件費は水産庁  
からの補助金が活用されることになった。

### 地域ごとの独自仕様で修理

2011年6月上旬から、岩手県漁連と宮  
城県漁協が、修理希望船舶の受け付けを  
開始。漁業再開を心待ちにしている関係  
者から修理希望の声が続々と上がった。両  
県内の宮古、釜石、大船渡（2カ所）、気仙沼、  
志津川、石巻、東松島の計8カ所で修理場  
も設置され、震災後、操業が途絶えて静  
まり返っていた港周辺で機材のモーター音  
などが再び響く光景が見られるようにな  
った。

3カ月間をめどに、仮設修理場1カ所につ  
き100隻、合計1000隻程度を修理するよ  
う計画。ところが修理は、当初の想定通り  
にははかどらなかった。

搬送されてくる船の大半が、想定以上の  
激しい損傷を受けていたからだったが、漁  
船は地区によって、例えばひもの結び方な  
ど、潮の流れといった独自の環境に合わせ  
て船の仕様が異なっていることも影響した。  
それぞれのオーダーを踏まえた修理には、

その分長い時間が必要となり、2日とみられ  
た修理が、1週間かかったケースもあった。

また、エンジンが調達できず数カ月待  
ちになることもあった。こうしたことから、  
修理受付期間を当初の3カ月から6カ月に  
延長して対応した。

修理場の設置場所の一つ、宮城県漁協  
志津川支所では、津波により所有の約  
1000隻のほとんどが流失。残ったもの  
の中でそのまま使用できると認定されたの  
は、わずか50隻余り。新造しても部品が  
品薄になっているため、調達には長い期間  
を要することが予想された。

そこで、同支所では今ある船を可能な限  
り修理して使っていこうと考えたが、設備  
が喪失し修理事業者も不足。復興への見  
通しが立たず、関係者の間で焦りが募った。  
『「材料も、設備も、修繕業者も集めてきま  
す』という支援の知らせは、そうした中で

届きました。光が見えたと思いました」と  
同支所勤務20年の高橋一実さんは語る。

### 被災港にエンジン音再び、復興へ

6月10日に行われた修理艇第1号のお披露  
目式では、3カ月ぶりに響いた漁船のエンジ  
ン音を聞きつけ、漁港にいた多くの関係者  
が集まった。以前は当たり前だった、船が海  
に浮かぶ光景。高橋さんは「言葉は交わさ  
なかったが、表情でみんなの気持ちは十分  
に分かった。関係者全員が、復興の第一歩  
を踏み出した瞬間でした」と振り返る。

支援により、同支所では2011年度末現  
在、使用可能な漁船が計200隻弱まで回  
復。共同所有となっている修理艇の今後の  
メンテナンスの問題など調整課題は多いと  
いうが、同支所では動き出した船に力をも  
らいながら活気を取り戻しつつある。



壊れた船の修理作業。



# 海洋関連高校への教習艇等の支援



## MISSION

被災地の漁業の後継者育成に必要な  
海洋高校での小型船舶免許取得教習や  
養殖実習を速やかに再開させる

## D A T A

### 規模 (金額・リーチ)

7301万9450円  
教習艇8艇、養殖実習船5艇の贈呈。無償貸与された教習艇2艇の整備・修理、運送費等

### 期間

2011年8月～10月(教習艇等の納入日の期間)

### 場所

青森、岩手、宮城各県の計6校の海洋系高校

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

津波により海洋系高校が保有する教習艇や実習船が破損、または流出。卒業までに免許取得や実習が間に合わない可能性が出てきた。

### 〈支援〉

岩手県、宮城県の5高校に、必要な教習艇8艇と養殖実習船5艇を贈呈。青森県の1校には、ボートレース関係者等からの2艇を無償貸与。

### 〈結果〉

支援を受けた各校で、教習、実習に活用。

### 課題

港湾復旧作業が当初予定より遅れた地域の学校では、教習艇・実習船の係留場所や実習実施場所の確保が難航。教習艇・実習船の活用が限定された。

三陸地方は沖合に日本有数の漁場をもつだけでなく、リアス式海岸によって天然の良港にも恵まれており、昔から漁業、水産業が盛んだった。この地域で漁業、水産業へと進む人材の育成を担ってきたのが、水産高校などの海洋系高校だ。卒業生の多くが、家業を継いで漁師となったり、水産会社や船会社に就職して船乗りへの道を歩んだりしている。

## 東北地方の漁業を守る人材を絶やさないために

海を生業として生きていくに当たり、まず必要となる資格が、小型船舶操縦士免許だ。取得のためには、規定の実技教習を受けた上で、学科試験に合格しなければならない。しかし、震災の津波により、実技教習で使用する教習艇のほとんどが破損または流失してしまい、生徒の免許取得が難しい状況が生まれていた。また、





同様に養殖実習で使用されていた和船も流失、破損。実技を学べずに卒業を迎えることも危惧される状況に陥った。東北地方の漁業の未来を担う人材が途絶えてしまうことも懸念される状況だった。

日本財団がこの状況を知ったのは、2011年5月、岩手県の宮古水産高校の金野仁校長(当時)からの「このままでは、3年生が決まりかけていた就職先に進めなくなってしまう」という相談から。三陸沖は、冬季の天候が荒れることが多いため、地域によって差はあるものの、生徒たちが実際に海に出ることができるのは、12月初旬くらいまでが限界。夏から教習を始めなければ間に合わないため、速やかな支援が必要とされていた。

支援先については、先述の金野校長を中心に、被災各県の海洋系高校の被災状況を取りまとめた。その結果、岩手県、宮城県の5校に新造の教習艇8艇と養殖実習

船5艇を贈呈するとともに、教習艇2艇が全壊した青森県立八戸水産高校に対しては、多摩川開発(ボートレース多摩川の施設所有者)と、東京パワーボートセンターからそれぞれ1艇ずつが無償貸与されることが決まった。

全体の仕組みはこうだ。船の製造はヤマハ発動機に依頼し、納入は各高校近隣の地元のディーラーに任せることにした。それは地元で直接お金が入る方が、復興支援という観点からも被災地にとって有意義だと考えたためだ。また、地元のディーラーの方が高校とのつながりもあり、メンテナンスなどの協力も得やすいとの考えからだ。

### 船名は「きぼう」と「みらい」

納入第1号となったのが、宮古水産高校。8月18日、3.2トンの真新しい教習艇2艇

が学校に届いた。当日はあいにくの雨だったが、贈呈式と進水式が行われ、この日に合わせて生徒たちから公募した船の名前は「きぼう」「みらい」となった。

同校では、海洋技術科の3年生16人が「2級小型船舶操縦士教習」でこの2艇を使用したほか、6人の生徒は「課題研究」でも教習艇を使って漁場調査を行った。また同科1年生の37人が「操船体験実習」で操船の第一歩を学んだ。12月までに延べ132時間の使用となった。

2012年度は5月中旬から教習艇の使用を始めた。同校では「今年の3年生は、地元の水産業界への進路希望者が多く、例年になく免許取得希望者が増えています。震災後の本当に早い時期に教習艇の支援が決まった成果だと思っています」と述べている。

他の高校にも2011年10月までに新しい船が届けられた。

### 支援対象高校と支援内容一覧

| 校名      | 被災状況           | 支援                      | 納入日              | 船名                    |
|---------|----------------|-------------------------|------------------|-----------------------|
| 宮古水産高校  | 教習艇1艇流失、和船2艇流失 | 教習艇2艇(台車付き)             | 2011年8月2日、18日    | 「きぼう」「みらい」            |
| 久慈東高校   | 教習艇2艇流失、和船2艇流失 | 教習艇2艇(台車付き)、和船1艇(船外機付き) | 9月20日、30日、10月13日 | こはく2号「こはく3号」「しおかぜ2号」  |
| 高田高校    | 教習艇2艇流失、和船2艇流失 | 教習艇2艇(台車付き)、和船1艇(船外機付き) | 9月15日、10月18日     | 「蒼天」「北斗II」「新つばき」      |
| 宮城県水産高校 | 教習艇1艇流失、和船1艇全壊 | 教習艇1艇(台車付き)、和船1艇(船外機付き) | 10月21日           | 「ベガ」「あさなぎ」            |
| 気仙沼洋高校  | 教習艇1艇全壊、和船2艇流失 | 教習艇1艇(台車付き)、和船2艇(船外機付き) | 10月31日           | 「けやきII」「はまなすII」「海洋II」 |

※青森県立八戸水産高校については、教習艇2艇を無償貸与し、8月23日の新学期開始をもって進水。同年11月30日まで利用。





# 医療の専門家による被災地支援



避難所で支援活動にあたる看護師。  
©Atsushi Shibuya

## 要介護者に対する避難所巡回診療および在宅診療プロジェクト



支援が届きにくい被災者への医療サービス提供  
疲労する現地の医療関係者への負担軽減

### D A T A

|                |                      |
|----------------|----------------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 3000万円<br>医師約560人を派遣 |
| 期間             | 2011年5月～2012年1月      |
| 場所             | 岩手、宮城、福島の3県          |

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

公衆衛生などの視点を持った医師が被災地で不足。地元の医療関係者が疲弊。



#### 〈支援〉

医師らを派遣し、避難所や仮設住宅を巡回した。地元医師が担っていた検視も派遣医師が引き受けた。



#### 〈結果〉

避難所などにおける公衆衛生面や介護環境の改善。地元医療関係者の休息時間を確保。

### 課題

被災地は、従来医療過疎地域。サポートは継続課題となる。

震災支援に欠かせない医療支援。日本赤十字社などの多様な組織・団体が震災直後から活動を続けている中で、日本財団では、支援から漏れがちなスペシャルニーズを持っている人に焦点を絞った事業をサポートすることとした。

医師、理学療法士、作業療法士、看護師などから成る専門家チームを派遣し、要介護者を中心に巡回医療を行ったプライマリ・ケア連合学会（PCAT、東京都）。日本財団は、震災直後から活動を展開していた同会に対し、要介護者に対する避難所および在宅診療プロジェクトのパートナーとして支援を決定した。

同会は、震災直後の3月17日、調査・支援隊第一陣として医師一人を岩手県に派





避難者に声をかける医師。

# 在宅診療体制の構築

## MISSION 2

### 在宅医療サービスの体制構築

#### D A T A

|                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 4024万円<br>延べ107人の診療（2012年3月末現在） |
| 期間             | 2011年9月～                        |
| 場所             | 宮城県石巻市                          |

#### プロジェクト概要

- 〈ニーズ〉  
通院場所、通院手段の喪失。避難所などでの生活環境が原因で、身体的機能が今後、低下していく心配あり。
- ▼
- 〈支援〉  
在宅医療サービスの提供、生活状況とニーズの調査。
- ▼
- 〈結果〉  
在宅患者とその家族の心身の負担軽減、行政機能の補完。

#### 課題

被災地では被害を免れた病院に患者が殺到。長期入院を受け入れられない状況が続いていることから、在宅医療の拠点を増やす必要がある。

私たちが行うべき事業を担ってくれありがたい」と言葉をかけられるという。武藤さんは「地域との連携を深めながら、在宅診療の充実を目指したい」と話している。



石巻市内で在宅診療を続ける武藤さん。

遣。現地では医療者が自らも被災者であるにも拘わらず、休みも取らずに避難所で医療活動を続けていたほか、遺体の検視にも従事していた。「疲弊しきった被災医療者」への支援も緊急課題と分かり、早速、交代要員として医師の派遣を決定した。

ニーズ把握のため、その後も複数の医師らを派遣したところ、ニーズとサプライのギャップも明らかになった。時間の経過とともに、負傷した被災者への対応から、避難所で過ごす要介護者へのサポートなどへとニーズが変化していた。ところが、現場では支援者のほとんどが救急医療の専門家で、公衆衛生や在宅医療の見地から対応できる要員が限られていた。そこで、専門家チームの派遣を行うことになった。

同会専従コーディネーター・支援医師の林健太郎さんは、在宅医療専門家の視点をこう説明する。「例えば、外科的な見地だと、治療後は床に寝かせておけばOKとなります。しかし、在宅医療の見地からは、問題点と改善点が見いだせます。床で横になると、高齢者や体の弱い人は立ち上がることが困難になり、寝たきりになるリスクが高まります。介護者も抱えるのが大変。そこで、段ボールなどでベッドを作るという対応をしました」



医療スタッフが手作りした段ボールベッドの並ぶ避難所（石巻市の遊楽館）。

同会は、変化していく現地の状況に合わせて支援にあたったが、プロジェクト内の支援だけでは対応しにくい問題も浮上した。被災地の多くが、従来医療過疎地域であったが、このたびの震災により、介護施設や、緩和ケアや急性期医療を担える病院が著しく減少していたからだ。

そこで、介護施設や病院ではなく、仮設住宅などにおいて医療介護と緩和医療を提供できるようにしようと、在宅診療普及に取り組む高齢先進国モデル構想会議（東京都）と協働し、医療サービスを開始することになった。

日本財団は拠点整備費を支援。同会議理事長で医師の武藤真祐さんを院長として、宮城県石巻市に9月、拠点となる「祐ホームクリニック石巻」が開所した。当初、医師の任務は院長の武藤さんとPCATからの派遣医師が担った。その他、看護師など約10人の診療所スタッフは地元で雇用した。

医療チームは毎朝、拠点で打ち合わせを済ませると、診療に出かける。カバーするエリアは、車で30分圏内の石巻市が中心。2012年3月末現在、延べ107人の診療にあたり、80人を超える患者をみつめている。

武藤さんによると、石巻市内では、急性期病院の一つである石巻市立病院が被災したことから、市内の病床数が激減、末期がんの患者も含め退院してくる患者の受け皿としても在宅診療体制の構築は急務だ。

「祐ホームクリニック石巻」は、集会所として使えるコミュニティーホールも併設して地域住民に開放しているほか、津波の被害を受けながらも自宅で暮らす世帯の調査とフォローを行っている。

同月末までに被災地外からの応援も含め延べ約5000人日の人手により、約9000世帯を訪問。行政からは「本来は



# 東京里帰りプロジェクト

## 妊婦と産前産後の母子を支援

鈴木聡子さん（左）のお腹の中で被災し、6月に東京で誕生した漣君（右）。震災から1年、自宅のある福島県いわき市ですくすくと成長している。



被災地の妊婦さんが里帰りするような気持ちで東京に避難し  
産前産後を安心して過ごせるようにする

### D A T A

|                |  |
|----------------|--|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 1億5000万円<br>80組が利用、東京で出産したのは23組（2012年3月末現在）        |
| 期間             | 2011年4月～2012年6月（当初計画より3カ月延長）。東京での受け入れは2012年3月末で終了。 |
| 場所             | 東京都、被災地  |

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

妊婦が安心して体を休め、出産に備える環境がなかった。妊婦はケアの対象とはされにくく、体への負担が心配された。

#### 〈支援〉

妊娠中から産後1年までの被災者が対象。出産までの世話や産む場所の紹介と産後入院、助産師によるケア、出産費・退院後のホームステイ滞在費に関してサポート。

#### 〈結果〉

妊婦が安心して出産、子育てに臨める環境を提供。出産に限らず、子育てや住まいのことなど、生活全般の相談にも対応した。

#### 課題

被災地の母親、妊婦の置かれた環境は、ようやくマイナスからゼロに戻ろうとしている。支援はここからが正念場。長く支援できるかが課題。

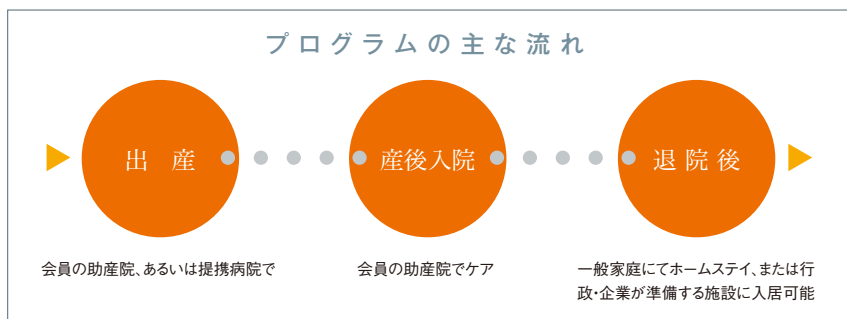
被災地では、妊産婦へのケアを十分に行いにくい状況が続いた。けが人でも病人でもないことから、支援の優先順位が下がってしまうためだ。災害弱者である彼女たちを守るため、日本財団では、そうした妊産婦の状況を憂慮し取り組みを始めていた東京都助産師会と宮城県助産師会に対して、活動を支援していくことを決めた。

### 妊産婦を東京で支援できないか

このうち東京都助産師会は、震災直後に支援を開始。「東京里帰りプロジェクト」と題して走り出していた。

震災当日、後に同プロジェクトの代表となる宗祥子さんは、猛威を振るう津波の映像を目にし、一番に現地にいる妊産婦の状況に思いをはせた。「妊婦さんが冷えて





しまう」。妊娠時期の体の冷えは大敵とされている。被災地は、まだ春の遠い東北地方。津波で水をかぶり、暖を取れないとなれば、胎児に影響を与えかねない。つわりの時期にあたる妊婦にとって、口にできるものがほとんどない状況も予想された。

宗さんが翌日、メンバーに呼び掛けたのを機に、同会で支援体制づくりが始まった。現地に入ることがままならないため、妊産婦に東京に来てもらい、会員となっている助産院が協力し合ってケアにあたることにした。各助産院が経費を負担して受け入れるべきとの意見もあったが、助産院の多くが零細事業者。しかも、地元である東京の妊産婦も抱えている。そこで、当面は会員からの寄付を活動にかかる経費に充てることにした。

ところが、当時、被災地は孤立しており、妊産婦に支援の情報を速やかに知らせることができなかった。なんとか東京にたどり着き、出産を終えていた産婦が産後入院を希望し、3月31日に都内の助産院に入院。これが受け入れ第一号のケースとなった。

### 多様な対応、支援金で可能に

支援活動が本格化したのは、4月に入ってから。NHKが支援プログラムの情報を被災地で放送したのがきっかけだった。放送直後から問い合わせが殺到、数日は電話が途切れない状態が続いた。

この高いニーズに応えられたのは、早期に資金を調達できたからという。「資金調達をいかに行うかが大きな課題でした。そ

うした中で日本財団を紹介され、幸いなことに多額の支援金を4月の早い段階で得ることができました。これにより十分な支援を行えるようになりました」（宗さん）

日本財団からの支援金は、助産院での出産費のほか、退院後にホームステイを受け入れる家庭、付き添うボランティア、訪問する助産師への経費などの支給に活用した。妊婦の多くが幼児を抱え、同時にその子の世話も必要となるなど、走りながらいくつもの課題が見つかったが、資金を活用しながらメンバーやボランティアの協力で乗り切っていた。

### プロの支え「精神的にも助かった」

プログラムを利用し、6月に東京で長男

漣(れん)君を出産した鈴木聡子さんは、自宅のある福島県いわき市で被災。辛うじて津波の難は逃れたが、福島第一原子力発電所の事故後、放射能の影響を心配し、出産予定日が近づく中、埼玉県の親戚宅など避難先を転々としていた。第1子がまだ幼いため避難中に心苦しい思いもしたといい、鈴木さんは「プロの方に面倒を見てもらうことができ、精神的にも助かりました。私のことを心配してくれていた家族も、安心したと思います」と振り返る。

東日本大震災から1年が経過し、支援の対象だった妊婦の出産の時期は過ぎた。日本財団から支援を受けたプロジェクトは終了するが、これを引き継ぐ形で、同会の有志らが、被災地の妊産婦と子育て中の母親への支援を新たに始めている。



東京里帰りプロジェクトを利用した親子と支援メンバー（大人前列左から2人目が鈴木さん、3人目は宗さん）。



# ハタチ基金

被災した子どもたちを寄付・募金で支援

MISSION

被災した子どもたちの  
ニーズに即した支援を行う

D A T A

予算規模  
(金額・リーチ)

2億3526万7756円

期 間

2011年4月～2011年3月  
(一部2011年6月まで)

場 所

主な活動場所は岩手、宮城、福島、  
東京

ハタチ基金は、東日本大震災で被災した子どもたちが、  
震災の苦難を乗り越え、社会に羽ばたく人材になることを目指して、  
日本財団とNPOカタリバ・チャンス フォー チルドレン・トイボックス・フローレンスの  
5つの団体が、協力して立ち上げた基金。

それぞれの得意分野を活かして被災地を中心に活動を続けている。

## NPO法人NPOカタリバ 子どもの学習環境づくりを支援

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

震災によって子どもの学習が遅れをみせ、また避難所や仮設住宅での生活で勉強をする環境が悪化。

#### 〈支援〉

学習環境が十分ではない児童に学びの場を提供し、大人たちと触れ合うキャリア学習も提供。

#### 〈結果〉

女川では全中高生の1/3以上が通学。またスタッフに地元の人を採用し雇用を創出。

#### 課題

支援の形を固定化せず、街の復興や子どもたちの成長を見ながら、支援の形を柔軟に変化させたい。

震災で学習環境が悪化した子どもたち。授業の遅れ、学習塾の休業、自習環境の悪さ…。そこで立ち上がったのが「NPOカタリバ」だ。まず宮城県で被害が大きかった女川町で支援を開始。避難所だった校舎で小中高生約230人が通学する放課後のコラボスクールを開講した。送迎バスを運行して通学の利便性を高め、また仕事をなくした地元の塾講師を採用して雇用の創出も図って

る。その後は岩手県大槌町にもコラボスクールを開校。さらに同じ震災を経験した高校生同士が絆を結び、東北と自分の未来を考えて欲しいと合宿企画も行っている。代表の今村久美さんは「支援は街の復興や子どもたちの成長に合わせて変化します。皆さんにはもっと現場に来てもらって支援の重要性をさらに感じて欲しい」と口にした。



女川町のコラボスクール  
(photo by yasuko furukawa)



## 一般社団法人チャンス フォー チルドレン 習い事を諦めないで将来に夢を

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

被災によって塾や予備校・習い事など、学校外教育を受けられなくなった子どもたちが多数存在。



#### 〈支援〉

教育サービスに利用できるクーポンを発行し、無償で子どもたちに提供。協賛する教育施設を発掘。



#### 〈結果〉

被災地の150名の児童にクーポンを発行。1000軒以上の教育施設からの協力取り付け。

#### 課題

子どもたちの心に寄り添う大学生ボランティアの募集とクーポンのさらなる発行・教育施設の開拓。

被災による生活の不安定さから、これまで通っていた習い事を断念せざるをえない状況に陥った多くの子どもたち。彼らの教育機会を補償しようと支援をしているのが「チャンス・フォー・チルドレン」だ。現金の代わりとなるクーポン券を発行し、習い事の費用をサポートするというシステムで、子どもたちにヒアリングしながら、彼らが通

いたいと希望する教育施設に賛同と協力を呼びかけるなど、子どもたちに寄り添った支援を展開している。子どもたちからは「希望の道に進むために利用します。また大変なことが起きたときは私も子どものために協力できる人になりたい」などの前向きな声が上がっている。



チャンス・フォー・チルドレンのクーポン贈呈式。

## NPO法人トイボックス 発達障害児支援を官民一体で

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

環境の変化に慣れない発達障害児たちへのサポートの薄さが、震災後、次第に目立つようになってきた。



#### 〈支援〉

発達障害児が安心して学習・活動できるスペースを提供。発達障害児に関する専門支援員を派遣等。



#### 〈結果〉

市との協力関係が構築でき、空間の提供により、子どもたちが落ち着きを取り戻しつつある。

#### 課題

職員等に地元の人を採用したいと考えているが、人材が不足している。

発達障害のある子どもたちは、周囲とのコミュニケーションがうまく取れないことが多く、そのため避難先での生活が困難になるなど、家族を含めたサポートの必要性が顕著に見られていた。そこで障害者支援に一日の長がある「トイボックス」が南相馬市役所と連携し、子どもの見守り体制を構築した。福島第一原発の影響で、多くの支援者が去ったため、専門知識を持ったスタッフの養成に力を入れた。現在は、市内の全学童保育所と連携している。また、彼らが安心して学習したり体を動かすことができるスペースを創設した。今後は人材の育成をしながら、発達障害支援のモデル都市となるように、地域との密接な関係の中で活動を定着させて行く予定だ。



発達障害児を対象にしたラーニングセンター

## NPO法人フローレンス 子どものためにできることをすべて

福島県内の子どもたちは、放射能線量の高さへの不安から外で遊ぶことが激減している。そこで「フローレンス」は、郡山市のショッピングモール内にインドアパークを設置した。久しぶりに思い切り体を動かした子どもたちの顔には笑顔が広がる。被災地の中高生のためには、ベネッセコー

ポレーションとコラボして「進研ゼミ」を無償提供し、学校の空き教室などを利用した無償学習室を提供し学習のサポートを行っている。また同団体は長年病児保育を行ってきたため、東京都に避難している、乳幼児がいる家庭のために、一時保育の支援も市町村と連携して行っている。



郡山市のショッピングモール内のインドアパーク。

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

- ・福島県内では放射能へのおそれから子どもたちが外で遊べない。
- ・東京に避難した母子の孤立など。



#### 〈支援〉

- ・郡山市に遊び場を提供
- ・一時保育サポート
- ・無償学習室の提供と進研ゼミの無償提供。



#### 〈結果〉

- ・子どもたちの思い切り遊ぶ姿が戻る。
- ・昨年中に72名の一時保育引き受け。

#### 課題

支援の周知が支援が必要な方に行き渡らせることが団体広報のみでは限界があり、いかに周知するかが課題。



# 障がいを抱えた被災者への生活再建支援

日本財団では災害弱者と位置づけられている障がい者やその家族への支援を重点課題の一つに据えた

## D A T A

- ①「日本財団ホーム 小国の郷」の設置
- ②「日本財団ホーム 東洋育成園」の設置

規模  
(金額・リーチ)

- ①1億7590万円40世帯  
単身者含め80～100人入居
- ②1億5962万1000円  
入所者約50人

期間

- ①2011年6月(開所式)
- ②2012年3月(開所式)

場所

- ①宮城県石巻市
- ②福島県田村市

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

- ①避難所生活は障がい者にとって精神的・肉体的負担が大きい。その家族も健常者家庭への気兼ねから、落ち着いて暮らせる場所を必要としていた。
- ②福島県富岡町の福祉施設利用者が原発事故により県外避難を余儀なくされ、施設職員も利用者のケアのため家族と離ればなれになった。故郷での恒常的な生活の場確保が急務になった。

## MISSION

## 障がい者施設の建設支援

- ①被災障がい者とその家族に健常者家庭への気兼ねなく生活できる場を提供する
- ②被災障がい者の恒常的な生活の場を提供する

### 〈支援〉

- ①石巻祥心会による障がい者とその家族のための仮設福祉ハウス「日本財団ホーム 小国の郷」(世帯用40棟、障がい者単身用2棟(7人/棟))の建設を支援。
- ②福島県福祉事業協会による恒常的な障がい者施設「日本財団ホーム東洋育成園」の建設を支援。

### 〈結果〉

- ①避難所から仮設住宅へ、早期に転居。落ち着いた生活環境を確保し、恒常的な生活の場を探す基盤を創出。
- ②遠方で避難生活を続ける施設利用者の故郷への帰還、および精神的不安の軽減。家族と離れ離れになった職員の生活の安定。

### 課題

- ①恒常的な住まいの設置。
- ②故郷の福島県内に戻れたとはいえ、以前とは異なる地でのスタート。まずは利用者が環境に慣れることが肝心。

支援の要請が寄せられるのを待たず、被災各県内で大規模に事業を行っている代表的な福祉関連法人にニーズ調査を行った結果、石巻祥心会(宮城県石巻市)と福島県福祉事業協会の二法人に対し、それぞれが計画した障がい者対象の施設の建設を支援することにした。

石巻祥心会が計画したのは、障がい者専用の仮設住宅。震災直後に避難所で聞き取りを行い、石巻市内の障がい者の多くが避難所での生活にハード、ソフトの両面で課題を抱えており、その家族も周囲への気遣いから精神的に負担を抱えていることを把握していた。

他の仮設住宅に先駆けて建設が実現し、瞬間に予約がいっぱいになった「日本財





団ホーム「小国の郷」は、震災から1年の2012年3月、開所から9カ月を迎えた。同会事業本部長の鈴木徳和さんは、「いい意味で見守り合う生活が続いています。障がい者とその家族を集めたことで、ノーマライゼーションの流れに反するのはとの葛藤はありますが、入居者から『気兼ねが減って楽になった』との声を聞きます。恒常的な住まいに移るためのステップとして活用してもらいたい」と話している。

福島県福祉事業協会は、運営していた重度知的障がい者のための福祉施設「東洋育成園」（福島県富岡町）の代替施設の建設を計画。原発事故後、警戒区域に指定され、入居していた利用者約50人とケアに当たる職員が、千葉県などへの避難を余儀なくされていたからだった。環境の変化による利用者への過度な負担が心配されていた。

2012年3月の開所式では、支援者への感謝の言葉を述べながら、涙で声を詰まらせる関係者の姿も見られ、施設長の石黒修市さんは「利用者はもちろん、面会に来られるご家族、ケアに当たる職員にとっても、ようやく以前の生活に戻る一歩を踏み出せた日になりました。利用者へのケアに力を注いでいきたいと思います」と話した。

## 聴覚障がい者の生活支援

障がい者の中でも、聴覚や視覚などに障がいのある人は、災害そのものに加え、情報が得られないことから二重苦を抱えやすい。こうした視聴覚障がい関係の事業に、かねてより力を注いでいた日本財団では、特に聴覚障がい者は生活再建に向け困難を抱えやすいと判断し、集中的支援を行う方針を決めた。

震災後1週間の3月18日、まず全日本ろうあ連盟の関係者らでつくる「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部」に支援を表明し、被災地への手話通訳者の派遣が始まった。また、震災半年後の9月には、岩手、宮城、福島3県の聴覚障がい者に対し、ファクスやテレビ電話を活用して、遠隔手話・文字通訳と代理電話サービスを行う事業を開始。2012年3月末現在、利用登録者は194人に上り利用回数は925回となっている。

聴覚障がい者の中には、手話通訳をつけても自分で問題解決していくことが困難な人がいることから、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会を通じ、被災地の聴覚



聴覚障害者への訪問調査。困っていることを聞き取り、内容によって市町村・県の福祉サービスにつなげている。



## 災害弱者である 聴覚障がい者の生活支援

障がい者を対象に、心のケアと生活支援を行う事業も開始した。2011年8月からは宮城県内に現地コーディネーターを配置し、同会は「今回の大震災で、津波を見てショックを受けたり、仕事を失って生活が困難になったりした聴覚障がい者が多くいますが、本人のコミュニケーション手段で意思疎通しながら、大震災前の普通の生活に戻ってもらえるように側面支援していきたい」としている。

### D A T A

- ①聴覚障がい者に対する支援拠点の強化
- ②聴覚障がい者の心のケア・生活支援
- ③聴覚障がい者の情報コミュニケーション遠隔支援

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <b>規模</b><br><small>(金額・リーチ)</small> | ①750万円<br>②2160万円<br>③2447万9987円                                   |
| <b>期間</b>                            | ①2011年3月24日～2012年3月31日<br>②2011年8月～2013年3月(延長)<br>③2011年9月～2012年8月 |
| <b>場所</b>                            | ①宮城県、②③岩手、宮城、福島の3県   |

### プロジェクト概要

#### 〈ニーズ〉

従来、地域や家庭内で行われていた聴覚障がい者への見守りの態勢が、震災後、著しく脆弱に。ニーズを適切にくみ取れる専門家による支援が必要になった。



#### 〈支援〉

東日本大震災聴覚障害者救援中央本部(①)、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会(②)を通して、多様な生活課題に対応。



#### 〈結果〉

聴覚障がい者のコミュニケーション支援、心のケア、生活支援が彼らの生活再建の一助となっている。

|  |
|--|
| <b>課題</b>  |
| 支援内容を、災害を受けた救援に限定せず、情報バリアフリーに関する新しい社会システムとして発展させる。 |



# 地域伝統芸能復興基金

人々の絆をつなぎとめる芸能・まつり



## MISSION

被災地の象徴的な芸能や祭りの復活を支援し  
絆をつなぎとめ留めてコミュニティの崩壊を防ぐ

## D A T A

規模  
(金額・リーチ)

11億6871万6322円

期間

2011年6月～

場所

主として岩手、宮城、福島  
の被災地域沿岸部

## プロジェクト概要

### 〈ニーズ〉

津波による流出などで、祭りの山車や太鼓を消失し、祭りが開催できない。

### 〈支援〉

山車や太鼓、面や衣装などの道具類購入の資金援助。

### 〈結果〉

物品が購入でき、伝統芸能の継承及び祭りの開催が可能となった。

## 課題

福島県でのニーズ・情報調査。

故郷の暮らしの中で、土地の人々が長い年月をかけて磨き、受け継いできた“祭り”。特に「伝統芸能の宝庫」といわれる東北地方では、個性的な祭りが数多く行われ、地域の人々が心を通い合わせる場として重要な役割を持つ。

しかし、東日本大震災の津波により、東北地方沿岸部では祭りに必要な神輿や山車、太鼓などが多数流失・損傷してしまった。そこで日本財団では、「各地の象徴的な芸能や祭りの復活を支援することによって、絆をつなぎとめ、コミュニティの崩壊を防ぐ」ことを目的として、「地域伝統芸能復興基金」を設立した。

## バイオリン売却資金で基金創設

ストラディバリウスは、17～18世紀にイタリアの名工・ストラディバリによって作り出されたバイオリン。音色の美しさや骨董的価値などから、収集品として高額な値で





大槌町郷土芸能保存団体連合会



石巻日高見太鼓

取引されることでも知られている。

そのストラディバリウスを多数所有し、数々の演奏家たちに無償で貸与してきた日本音楽財団は、東北復興支援のために、1721年製のストラディバリウス「レディ・ブランド」をロンドンのオークションに昨年6月に出品。ストラディバリウスとしては過去最高額の1589万ドル（約11億7000万円）で落札された。日本財団に寄付されたこの資金を元に、新たに創設されたのが「地域伝統芸能復興基金（通称：まつり応援基金）だ。

「その頃は、被災地での“生きるか死ぬか”という緊急的な支援がひと段落したところでした。また原資がストラディバリウスなので、文化的な事業に役立てたいという思いもあった」と、公益・ボランティア支援グループの枡方瑞恵は基金創設当時の動きを振り返る。

当時、新聞各紙には『東北で芸能がピンチ』や『祭りの復興で鎮魂の祈りを』などという記事が散見された。これまで東北各地に受け継がれて来た伝統ある祭りが、被災による祭具類などの消失によって

開催できないことを知った日本財団は、これまでに各地の芸能を次世代に伝える事業を積極的に展開してきた経験を生かそうと、現地に調査に入った。

### 地域の絆を結ぶ祭りを支援

基金では、被災地で伝統芸能に関わっている団体や大学の教授などにヒアリングを実施。また、本当に地元の人々が祭りを復活させたいと願っているのかといった点にも留意して調査を行った。その結果、各地方の中核的な年中行事や芸能・祭りに関わる芸能団体をサポートすることに決定した。

最初に支援したのは、岩手県釜石市にある釜石虎舞保存連合会だ。虎舞とは簡単に言うと、獅子舞の獅子が虎になった舞踊のこと。釜石だけでなく、三陸の沿岸部に多く伝わっており、踊りやかけ声などは場所によって独自性を見せる。地域の祭りで披露されるほか、祝い事の際にも踊られているものだ。

「釜石に住んでいるから虎舞を踊っているのではなく、虎舞があるから釜石にいるん

だ』という声を多く耳にしました。だから、このまま虎舞が復活しなければ、多くの人がこの地域を離れてしまうのではないかといった焦燥感も伝わってきたんです。私たちは単にお祭りをしてほしいのではなく、お祭りを開催する過程でコミュニティ（あらゆる世代）が繋がっていくという、お祭りがもつ副次的な面も支援したいと考えていたので、まず、この虎舞への支援を決定しました」（枡方）

虎舞に使われる山車は、ともすれば製作に2年間もかかってしまうため、急ぎの支援が行われ、現在、2013年の夏祭りをめざして製作が進められている。

その後も基金では、数々の伝統芸能の継承のために必要となる物品購入を支援。伝統芸能に使われる物品は地元で製作されることが多く、被災地の手工芸の活性化にもひと役買っている。

現在は支援策も充実してきた。基金では今後、神社本庁などと協力しながら支援を進めていく。また、まだまだ情報が入ってきていない福島県でも、さらなる活動ができないかと考えている。



釜石虎舞保存連合会。



第2章



情報をつかみ、適切な支援を

日本財団は緊急支援策の一つとして、100万円を上限としたNPO・ボランティア団体への助成を発表した。甚大な災害に対しては、多くのボランティアによる被災地での支援活動が不可欠であると判断。なるべく早く活動資金を提供するため、原則書類審査のみで迅速に多くの団体を支援する枠組みを作った。助成の審査も公募締め切り後に一斉に行うのではなく、いち早く現地に足を運んでもらえるように随時行った。4月11日に第1弾の33件を発表後、19日に47件、26日に67件、5月13日に101件、31日に68件、6月13日に84件、24日に71件、30日に79件、8月10日に145件の助成決定を発表した。

3月29日の記者会見での支援発表から5月末までの期間

# NPO・ボランティア 651団体695事業に緊急助成

MISSION

被災地において緊急支援活動を行う団体に、活動の資金を迅速に助成する。

規模（金額・リーチ）

6億5730万8462円  
（上限100万円の支援金を  
651団体695事業）

期間

2011年4月1日～6月30日  
（公募期間）

場所

岩手、宮城、福島の3県を主な活動拠点とする団体へ支援

ニーズ

被災地の復興に必要なNPOやボランティア団体の活動を支援する。

【審査方針】

- 記者発表～5月末まで

緊急的な対応。とにかく一人でも多くのボランティアに被災地に向かってもらう

変わりゆく被災地のニーズを受けて審査方針を変更



は、とにかく多くのボランティアに被災地に向かってもらうことに重点を置いて助成先を決定した。6月に入り、変わりゆく被災地の状況を受けて審査方針を以下のように変更。①被害の大きな3県（岩手、宮城、福島）を主な活動拠点とする団体が実施するもの。②中長期的な視野に立ったもの。③新たなコミュニティの形成につながるもの。④障がい者・高齢者に対するものや、被災者の心のケアに関するもの。

4月1日から6月30日までの公募期間で、支援数は651団体695事業、助成金総額は6億5730万8462円であった。今回のNPO・ボランティア支援で心苦しかったのは、限られた予算の中で審査方針に基づいて支援する事業を決めるため、支援できない事業が数多くあったことである。2000を超える事業の申請をいただき、公募締め切りの6月30日には1日約400件もの申請を受けた。支援できなかった

た団体でも、担当者と話をする、「被災者のために何とか役に立ちたい」という思いが伝わってきた。

助成団体へのアンケートの結果を分析すると、今回の東日本大震災では明らかにこれまでと違う傾向が見て取れる。「ボランティア元年」といわれた17年前の阪神・淡路大震災との比較をするならば、この間の非営利セクターそのものの成長以上に、社会全体の変化、つまり非営利的なるものに対する人々の認識がより身近なものになったことが見いだせる。いわば東日本大震災を通じた「ボランティア革命」が起こっている。さまざまな民間団体が被災地に駆けつけ、中長期的な活動を展開するケースも多いことから、中長期的な支援活動を行うための助成金のニーズが高くなっていることが伺える。そのため緊急期の活動支援だけではなく、これからの支援のあり方が問われている。

# 団体への緊急活動助成



支援

結果

課題

一事業に対して、上限100万円の活動資金を助成。審査は提出書類のみで迅速に決定。

多様なNPO・ボランティアが持つリソースと志を、いち早く被災地に届けることができた。

中長期的な支援活動を継続的に支えるための助成金のニーズが高い。

- 6月
- 下記を中心に活動する団体
- ①[岩手、宮城、福島] 被害の大きな3県を主な活動拠点とする
- ②中長期的な視野に立ったもの
- ③新たなコミュニティの形成につながるもの
- ④障がい者・高齢者に対するものや、被災者の心のケアに関するもの

審査風景





# 支援先団体アンケート結果 回答率82% (536/651団体)

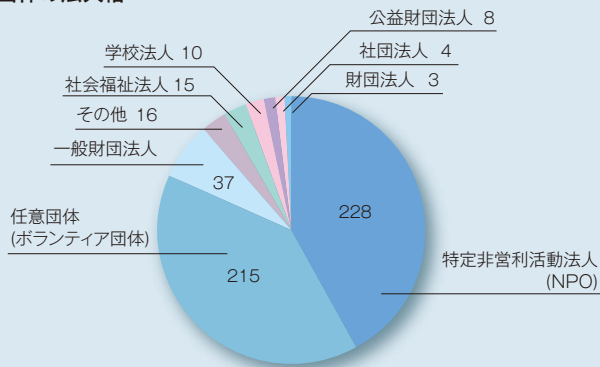
助成財団である日本財団が、最も強みを発揮できることは何か——。発災から間もない緊急期において被災地支援に求められていたのは、多様な善意の支援者が持つリソースと志を、何よりいち早く現場に届けることだと考えた。「NPO・ボランティア団体等に対する緊急助成」は第1弾の支援策として4月1日より募集を開始し、2週間前後の書類審査で随時決定するという、我々にとっても未知のスピードで展開された。

今、この支援制度を見つめなおし、次に生かすために、支援先団体からのフィードバックとして、アンケートを実施。本編ではその結果と、そこから見えてくる傾向の一部を紹介する。

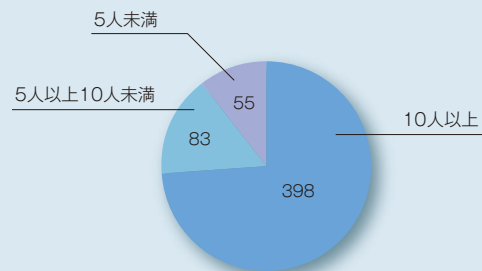
※支援先団体にはアンケートと別に報告書の提出を義務付けている。アンケート実施期間は2012年2月下旬から3月上旬。

## part.1 緊急助成した支援団体の概要

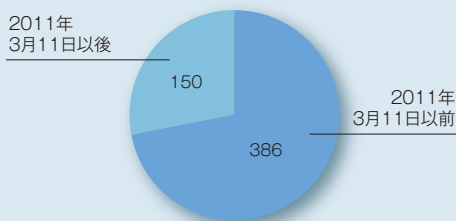
### Q1. 団体の法人格



### Q2. 団体の構成人数

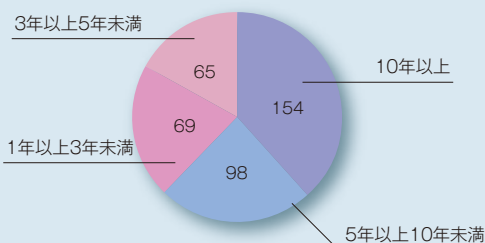


### Q3. 団体の設立時期

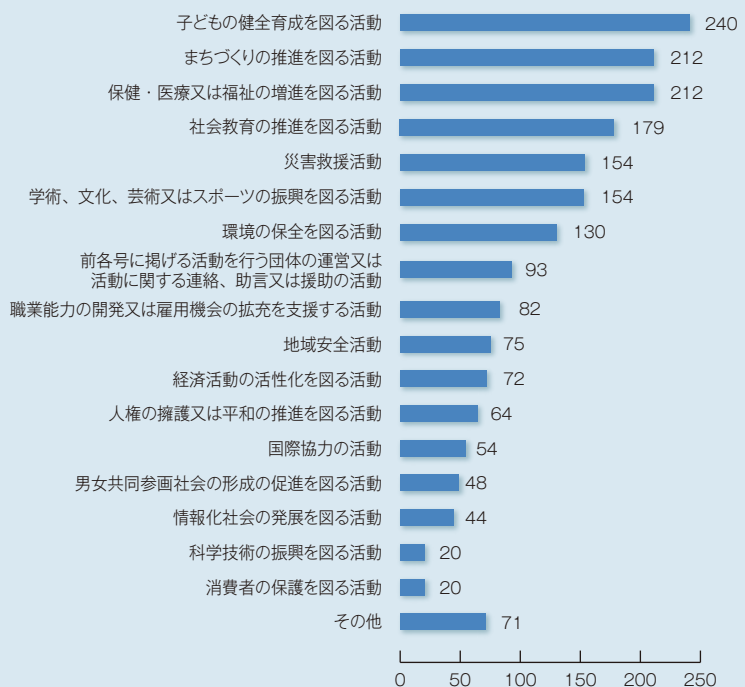


### Q4. 活動実績期間

※東日本大震災以前に設立の場合



### Q5. 平常時の活動内容 ※複数回答可





## 【アンケート分析】

今回の緊急助成の支援先団体は、これまで日本財団で助成実績のあるところばかりではなく、新規の団体がほとんどであった。

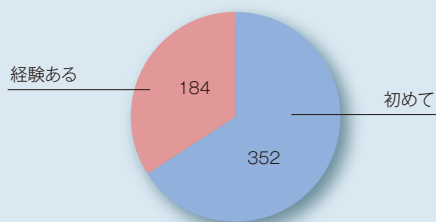
まず、Q1から分かるように、全体の4割もが法人格を持たない任意団体であることが予想外だった。このうち3月11日以降に設立された団体は、実に120団体で56%を占める。つまり震災後に支援を決意し立ち上がり、助成金を受けた任意団体がそれだけあったということだ。

また、Q6によれば災害支援活動が初めてという団体は全体の実に66%にもなる。その平時の活動については、Q5に見られる

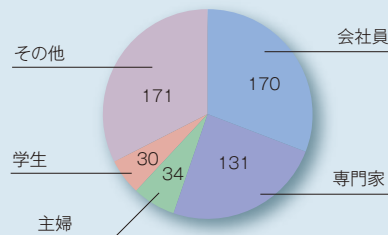
全体の傾向とほぼ同様で、子どもの健全育成やまちづくりを推進している団体が順に多いようである。

Q7では、主な構成メンバーが何かしらの専門的な資格を有する団体が多いことが分かった。「専門家」の定義はここでは一義的に言えないが、Q5の回答から保健や医療、または福祉の分野の専門家が顕著に多かったことが分かる。つまり、平時から困っている人を助ける仕事に関わっている専門家たちが、被災地でも多く活動していたことになる。

Q6. 災害支援経験



Q7. 構成メンバー内訳



## 支援ボランティア団体の活動報告①

団体名：ケアプロ東北支援プロジェクト

- 構成人数：5人以上10人未満
- 設立時期：震災以後
- 主な活動エリア：宮城県石巻市
- 活動概要：医療支援

せっかく助かった命を失わせたくない。

震災直後、被災者の方々が身を寄せる避難所での暮らしは、助かった命をつなぎとめるにはあまりに過酷で、医療の絶対的な不足は明らかでした。

東北の復興を考えたとき、私たちが被災者の方たちを支えることをスタートに、彼らが自分たちで立ち上がることをゴールとして見据えながら活動することが重要だと考えました。「自分たちの健康は自分たちで守る」「病気を予防していくことができる」よう後押ししていく。それがワンコイン検診など予防医療を実践する、

私たちの強みを生かせる支援なのだと確信しました。

3月下旬、私たちは被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト『つなプロ』の一員として、宮城県石巻市で看護師による生活習慣病の早期発見と予防のための検査活動を始めました。避難所生活では、不眠や栄養の偏り、運動不足などによる高血圧や慢性疾患の進行が懸念されます。私たちは、手軽に素早く検査ができるキットを用いて検査を実施。検査結果は『つなプロ』が行うさまざまなアセスメントデータとともにデータベース化され、医療機関と共有することにより、スムーズに次の支援へとつないでいきました。

5月以降は「チャリティー巡回検診」と題し、石巻市の他、南三陸町、気仙沼市、登米市、福島県南相馬市、相馬市に活動範囲を広げ、避難所巡回により、延べ1000人を超える被災者の方へ検査を実施しました。

検査を受けられた方からは、「定期的にやっ

てほしい」「数値が高かったから食事に気をつけなくちゃ」というような声が聞かれ、健康への意識の高まりを確かに感じることができました。このことは、大きな成果だと感じています。被災地の復興には労働の問題、住居の問題など多くの課題が残ったままですが、私たちのプロジェクトが被災者の方たちにとって、自分の健康ひいては自分自身のことを考えるきっかけとなり、さまざまな課題を乗り越える力になればと願っております。

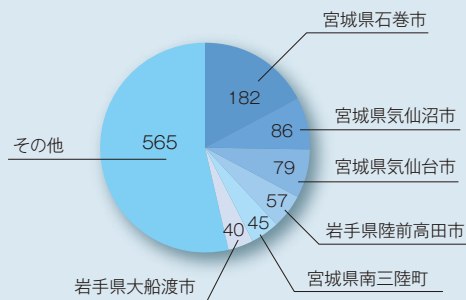




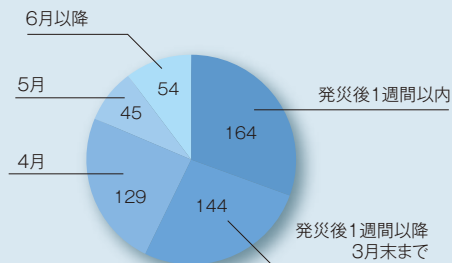
## 支援先団体アンケート結果

### part.2 支援活動の内容

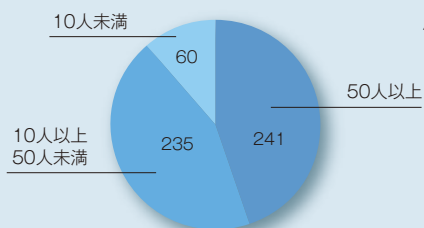
Q8. 主な活動場所 ※複数回答可



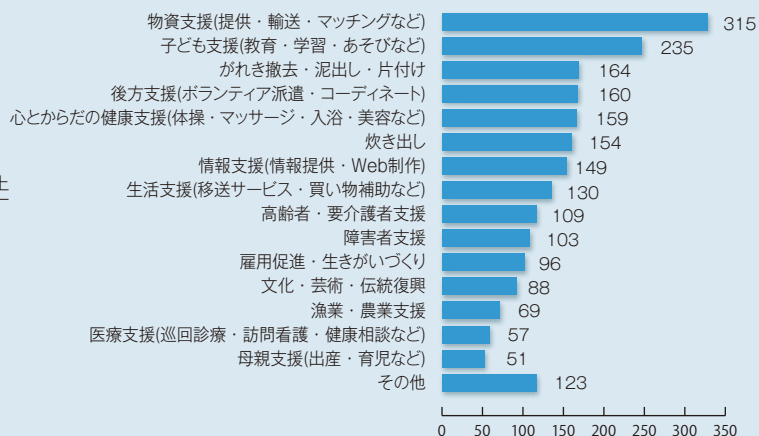
Q9. 活動開始時期



Q10. 活動参加人数



Q11. 活動内容 ※複数回答可



### 【アンケート分析】

東日本大震災の特徴の一つに、被害地域の広さがある。それゆえに、実に多くのNPOやボランティア団体等が、自分たちの助けを必要とする被災者と地域を見だし、何かしなければという思いに駆られ、被災地に向かったと言えるかもしれない。Q8のグラフから分かる通り、実際に活動が最も多かった宮城県石巻市は、2番目に多かった気仙沼市の2倍強である。これは石巻の被害規模が最大であり、それがメディアを通じて一般に広く浸透していたため、ある意味必然的な結果であった。しかし、被害規模の大小だけでなく、現地の外部支援を受け入れる体制も、支援者の参集を得る重要なファクターであったし、報道と相互に影響し合っている結果であるということは添えておきたい。

また、Q9の活動開始時期に注目してみると、一つの事実が浮かび上がる。本助成制度は3月29日に発表して4月1日募集開始。つまり、発災後1週間以内と3月末までを合わせて実に6割の団体が、資金手当てのない中で活動を始めたのだ。

さらにQ5とQ11の回答をクロスさせると、発災後、比較的早

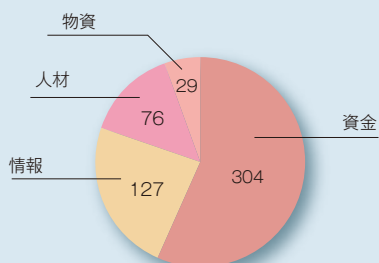
い時期における活動内容についてもある傾向が読み取れた。

専門家で構成される団体は、平時は保健・医療または福祉分野で活動するものが最も多かったのに比べ、緊急支援フェーズでは物資支援や子ども支援などを行っているケースが最も多かった。つまり、専門職としての出動ではなく、あくまでボランティアベースで、まずは現場で必要とされることから活動を始めたということ。むしろ、団体の持つネットワークや知見がそこに活かされていると見ることができ、この傾向は他の専門職についても言えるのではないだろうか。





Q12. 活動当初、最も不足していたもの



【アンケート分析】

Q12では6割が資金の不足を選んだ。一般的なNPOやボランティア団体等にとって、災害支援のための予算などあらかじめ確保されているはずもない。法人格がない団体を対象とする助成制度は総数として少なく、上限額などの面で条件も厳しい。かといって、これだけ一斉に多くの団体が活動をするとなれば個別のファンドレイジング（寄付金などの活動資金集め）もそれだけ難しくなる。急を要する災害支援だからこそ、法人格を問わず、適切な審査の上で団体の支援活動を支える仕組みが必要である。この意味で、「義援金」とは違う「支援金」のファンドレイジングの重要性も明らかになったと言える。

一方で100万円の助成を受けても十分ではないという意見（次ページQ12-2）も多くあった。ある程度安定的に支援活動をするとなれば、専従のスタッフを雇う資金も必要となる。資金だけでなく、現場を任せられるコーディネーターや活動を引き継いでくれる地元のリーダー的人材の不足も多く聞かれた。情報の不足を選んだ団体の意見としては、発災後の混乱期における行政や社会福祉協議会の機能不全に起因するものが大方である。しかし現場を見る限り、それら公的機関も広く一般に向けた情報発信をある意味であきらめ、直接関係している支援者向けの情報整理に注力していた面もあり、一概に情報発信機能が麻痺していたともいえない。適度なエリア設定やターゲット設定の上での情報集約と発信が肝要である。



団体名：メックス（NPO MEX）

- 構成人数：10人以上
- 設立時期：震災以前
- 主な活動エリア：福島県南相馬市
- 活動概要：がれき撤去・泥出し・片付け、物資支援、子ども支援、障がい者支援、心とからだの健康支援、医療支援、後方支援、雇用促進・生きがいつくり、健康運動教室

昨年の4月下旬、私たちは東北地方の大船渡市、仙台市、南相馬市を見て回った後、福島県南相馬市で支援活動することを決めました。なぜならここは放射能汚染への恐れのためか、支援の手がほとんど入っていなかったからです。物資輸送支援活動では、震災直後、東北地域の輸送網が寸断され、また放射能汚染もあって、当初は輸送可能地域が限られてしまいました。必要とされる物資は、それぞれの時点で、また地域や対象者で異なるため、

支援ボランティア団体の活動報告②

まずは調査を行いました。物資を手配した後は、津波や崖崩れで寸断されたままの道路もあり、冬期には道の凍結も考えなければならぬので、輸送方法を考えて整理しました。自社便やチャーター便での輸送が中心となるなかで、日本財団を通して無償貸与されたタイムラー AGのウニモグ（多目的作業車）の存在は大変ありがたかったです。

予算は当団体だけでは成り立ちませんので、提供してくださる方々の情報は重要でした。また「これはうちには無いが、別な場

所では余っている。しかしここでは、あれが足りない」といった面があって、それらの調整も必要になりました。不思議なことに必要だと思って物資を溜めておくと、他の必要な物資が入ってこなくなったりする。そのため交流のある拠点間でやり取りをしつつ、お互い補うように活動しました。

これらが成り立つてようやく物資は適正に動いたわけですが、届けた時の被災者の方々からかけていただいた「ありがとう」の声は何事にも替えがたかったです。





## 支援先団体アンケート結果

### Q12-2. 活動当初に不足していたもの ※具体例

#### [資金]

財源確保／絵本を被災地に届けるために必要なコンテナ購入資金／提供する花苗やプランターなどの資材の準備費用／専従スタッフの人件費／被災地までの旅費／交通費・宿泊費・物資購入費など活動に関わるすべての資金が会員の持ち出し／現地での事務所設営も私有地が多く、土地の借用資金／高速料・乗船料に関し、行政では災害地移動時の優遇処置があるが、NPOは適用外だった／事前に資金準備ができておらず、資金調達の活動（募金活動）ができなかった／ガソリン、電話代／交通費・人件費・会場費など／遠方のため旅費の捻出が困難／寄付収入／事業所自体も被災したため、事業所立て直しのための資金／車の修理代／任意団体は助成金を受けづらい

#### [情報]

放射能の正確な値と体と与える影響の情報／ライフラインの有無の情報、またない場合の補完できる場所の情報／安否確認とニーズ調査の際、障がいのある方の所在の情報／ネットにアクセスできる環境／物資供給の際に、他の団体の動きが分からずだった／被災地でのニーズや被災地の団体との連携／要支援高齢者の介護施設への受け入れや避難所での活動に関して縦割り行政の弊害を感じる／地震だけでなく津波、放射能の被害地域が大きく、正確な情報やニーズがつかみづらかった。放射能については、情報があふれており、正しいものを把握することが難しかった／障がい者がどのような状況であるのか、あまりにエリアが広く情報把握が難しかった／被災者の方の直接的なニーズを聞き取る術／マスコミ報道にない、変化する被災地の現状とニーズの発信が少ない／社協を通してボランティアの受け付けや支援の仕方が不明／自宅にいる被災者のニーズ把握が困難／被災地の子育て家庭の状況、特に産前産後の妊産婦、新生児、子どもたちの状況／森林作業技術などの専門性を生かす情報

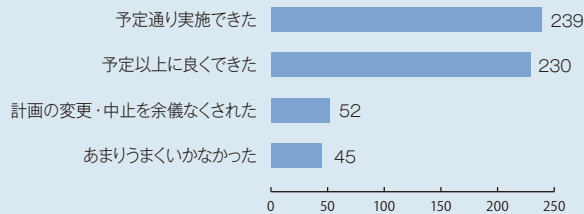
#### [人材]

ボランティアスタッフ集め／現場のコーディネーター／定期的に被災地に入る人材／保育士など子どもに慣れている専門家／自殺防止活動というボランティアが集まらない／常駐のスタッフがおらず、役割分担などがスムーズに行えなかった／相談スタッフとなる臨床心理士の採用／ボランティアを受け入れる側の体制の整備／住宅の応急修理で専門家でしか触れない作業も多々あり、無償では、なかなか専門家が集まらなかった／災害ボランティアの育成が不十分で、現地で手伝う体制が整わなかった

#### [物資]

物流が厳しかったことで物資がうまく行き届かなかった／健全な食料、生野菜、継続的なサポート／軽油、ガソリン／バスをボランティアで提供してくれる企業・学校／船のエンジンの修理に必要なエンジンオイルや工具類／高齢者向けの拠点づくりのために借家を得たが、古い空家のために修繕や改修工事などが必要だった／撤去や大工仕事をするための道具

### Q13. 予定していた支援は実施できたか ※複数回答可



### Q13-2. その理由をお聞かせください

#### [予定以上に良くできた]

協力支援団体の連携によるボランティアの確保が出来た／活動を続けていくにつれて、現地の小さなNPOや団体とのネットワークが形成され現地化することができ、継続性が担保されつつある／活動に賛同してくださる方がメディア掲載などの影響によって増えた／震災前から活動していたため、被災地への連絡や関係なども前もって構築できていたので、信頼関係が築けていたため／専門職が多く、適材適所にボランティアを配置することが可能であった／平時からのネットワークを生かすことができた／日本財団からの支援が大きく役立った／阪神淡路大震災の経験が生きたため／他団体との協働により活動が進展した。現地の市民団体や個人と深いつながりができた／動員規模が小さい代わりにフットワークよく動ける事を生かし、大規模なボランティアが入りにくい半島奥部などでの支援を行った／被災者からのハラスメント、団体内のハラスメントなど浮上していない問題に気が付くことができたから／地元キーマンと連携が取れた／行政、専門家との連携、学生ボランティアの確保がうまくできた／他団体ではできない電力供給の活動だけでなく、心のケアまでできた／町や災害対策本部関係行政機関との信頼関係がうまくできた

### 支援ボランティア団体の活動報告③





### 【予定通り実施できた】

人件費、燃料費、雑費等をすべて助成金により賄えた／地域の人と手を組み、活動が現地に根付くことへの足かけが形成された／連絡系統の確立、責任者を配置すること／被災地の施設を窓口にしたことで地域に必要な支援を調整、計画できた／地元住民との信頼関係を作り、現地のニーズと支援体制がマッチするようになった／スケジュールや予算配分を計画的に行った／地元の社会福祉協議会と連携し、避難所での活動がスムーズに行えた／現地のコーディネーターがうまく被災者との間をつないでくれた／口コミやSNS、HPを通じて募集を行った

### 【計画の変更・中止を余儀なくされた】

外国人看護師、介護福祉士候補者を派遣するのは、各病院や施設から許可を得たり、訪問先の了解を得たりと難しいアレンジだった／復興期を活動のターゲットとしているが、現地の動きは非常に流動的／良い意味で計画が発展した／目標を高く取りすぎた／資金力の低さから現地派遣人数が減った／現地の体制が整わなかったこと、ボランティア団体が重なったこと／短期間ではPRが思うように進まなかった／学生主体だったため、学業との両立や活動場所での安全や時間の確保の調整が難航

### 【あまりうまくいかなかった】

放射能の問題で、海洋関連の復旧が遅れている／現地との意識の違いがあった／人手不足／助成金がなかなか受けられなかった／二重の困難を抱える障がい当事者の状況は予想以上に厳しく、支援が追いつかなかった／日々変化するニーズに向き合うのが真の支援だと思い内容を変更／支援担当者間での意思疎通上の相違／被災地が広すぎて手が回らなかった／情報、ガソリン、物質不足／設立して間もない団体でゆとりがなく、他団体との連携が難しかった／個人情報保護法で被災者（ろう者）の情報が得られなかった

### 【アンケート分析】

Q13では計画した支援活動を予定通りかそれ以上に良く実施できたとの回答が大半であった。定量的には計れないが、記述回答による具体的な理由とエピソードによると、現地の関係機関などとの連携や他の団体との連携がうまくいったことを理由として挙げる団体が多い。特に現地の連携先としては社協の災害ボランティアセンターや行政、漁協などが見受けられる。これらとの連携は、ニーズに基づいた支援や、現地支援活動の持続的展開にとって重要なカギとなっているケースが多い。実際のところ、助成金の審査段階で、地元の連携先が明確になっている団体を優先的に支援した経緯もあり、助成財団としては意義深いフィードバックを得たものと考えている。

反対に、あまりうまくいかなかった理由としては、現地の団体間や大手支援団体との活動のバッティング、個人情報保護の壁（特に障がい者を対象とした活動）、連携不足が多かった。

連携がうまくいった団体ほど、支援活動も臨機応変に形を変えながら継続している。Q14のグラフ（64ページ）が示すように、震災発生から1年が経つ時期に、実に95%の団体が活動の継続を考えていた。



団体名：OPEN JAPAN  
（ボランティア支援ベース絆）

- 構成人数：10人以上
- 設立時期：震災以降
- 主な活動エリア：宮城県石巻市
- 活動概要：炊き出し・がれき撤去・泥出し、片付け、物資支援、生活支援、高齢者・要介護者支援、心とからだの健康支援、後方支援、漁業・農業支援

石巻での避難所・炊き出し場所・住居・店舗等での、がれき撤去・泥かきに一区切りを付け、4月になり遅れて入った牡鹿半島。沿岸部の家屋や作業場、建物の多くが津波の被害を受け半壊または全壊し、漁港内そして海上に流出し漂流していました。

がれきが浜沿い魚港内に漂い、船が離着岸するにはたいへんな状況でした。その他にも作業場から流出した漁網を含む漁具や碇が切れた養殖筏等が家や柱や自動車等に絡み、その回収や撤去には途方もない労力が必要なのは一目瞭然でした。漁網等が絡みつき、船外機での航行が不自由であるため、我々は持っているカヌーを使い、がれきと漁具を手拾いで回収し始めました。漁網を鎌やナイフで切り、柱等はチェーンソーで玉切り、家屋等を海上で解体しがれきをつつひとつカヌーに載せて陸に上げます。時には陸場に横付けしたユニックと連携し、トレーラーや海底に沈んだがれきを回収しました。初めは「そんな、カヌーなんかで何ができる」と笑っていた漁師さんも、多くのカヌーと人員できれいに片付いていく浜を見て、「たいたいもんだな」と一緒に活動をしていただけるようになりました。

そして、『カヌーデー in 石巻』というイベントを催行し、全国のカヌーイストなどに呼びかけました。多くのカヌーイストとボランティアが集まり、カヌーを使っでの短期集中での一斉清掃・漁具回収作業により、漁師さんにも船が出航・着岸がしやすくなったと喜んでいただきました。イベントは、合計7回の浜で行いました。地元漁師さんや他ボランティア団体とも協働した沿岸部の清掃作業により、多くのがれきや漁具を回収することができました。浜によっては漁師さんが漁船を出してカヌーに積んだ大量のがれきを引っ張るなどの協働作業も生まれました。

しかし、波や風のため流れつくがれきは絶えることはありません。2012年も継続して、船外機等が近づけないような場所に手漕ぎのカヌーで近づき、一つひとつ手で拾っていきたいと思います。



## 支援先団体アンケート結果

### Q13-3. 具体的な事例があれば教えてください

#### [予定以上に良くできた]

イベントに1000名以上の住民が集まった／被災者が積極的にボランティアに参加してくれるようになり、そのメンバーがグループになり新たな活動を始めようとしている／VC（ボランティアセンター）と連携が取れたため、VCから多くのマンパワーを提供してもらえた。VCが団体受け入れをしなくなってからも、他団体と連絡を取り合い、現地活動のコーディネートをすることができた／地域住民と仮設にいる方々との交流をつくることができた／良質な木質がれきを薪にして販売した「復活の薪」事業は、被災者にとって次への展開の資金を確保でき、その資金にて、自伐林業方式に

よる仕事づくりへとステップアップした。現在3人の専業雇用、10人以上の副業雇用が実現されつつあり、全国の注目を集めている／回数を重ねるごとに子どもたちの表情が柔くなり、笑顔が増え、行動にも落ち着きが見られるようになった／震災前から活動の実績があった、地元地域おこしグループのキーマンを支援することで、復興の後押しをしていただく存在になってもらった／ミニコミ紙で募集すると反応が高かった／木造船の造船など、災害によって新たに需要が生まれた伝統技術があり、その聞き取り調査と記録を進行中

#### [予定通り実施できた]

障がい者、高齢者家屋の応急処置などを迅速に行うことができた／トラブルやクレームなどでも外部団体との連携を図ることで回避できた／ウインチを修理すると漁師さんががれきを清掃するようになり、集めたがれきを地元の方々が浜で焼却するなど、地域一体となった活動が行えた。船舶や機器を修理し、漁師町の復興に貢献できた／東京で説明会や活動報告会を定期的に開催し、ボラン

ティアや活動の広報の機会を設けた／災害FM局の立ち上げ／東北では塩害のデータがないため、専門家からデータをいただいて、それらを参考にして農地復興を行った／臨時災害FM局16局中10局にインターネットのシステムを設置／学生ボランティアが自主的に活動できるように、資金や車の提供を行った神戸の被災経験者やボランティアの経験者が集まってくれた

#### [あまりうまくいかなかった]

「緊急時における障がいのある方の所在の開示」の要請文を直接持参したが、個人情報保護条例により開示されなかった／待っていても学生から連絡がない、集まらない、行けない、などの返答

が多かった／支援物資の送り先が定まらなかった／沿岸へ行くまでの距離と時間が負担で、仮設住宅が広範囲のため、回るのに時間がかかり、とても効率が悪かった

#### [計画の変更・中止を余儀なくされた]

活動メンバーが一斉にフェードアウト／支援物資として要望が出たものが当初予定したものと変わっていった／当初、幼稚園の支援を中心に想定していたが、ユニセフなどからの子ども支援により充足してしまった／他団体でも同じような支援を行おうとしているこ

とを知らず、内容がバッティングした／被災地の船大工を支援して漁船の修復プロジェクトを開始したが、日本財団が大規模な支援を開始したので中止／とにかく毎月の資金が足りない

### 支援ボランティア団体の活動報告④

団体名：男塾

- 構成人数：5人以上10人未満
- 設立時期：震災以後
- 主な活動エリア：岩手県山田町
- 活動概要：がれき撤去・泥出し・片付け、子ども支援、漁業・農業支援、主にご遺体の探索活動

私たちの活動は岩手県山田町におけるご遺体の探索です。震災後に元海上自衛隊、ラフティングガイド、ライフセーバーなどが集まってできた寄せ集めのチームでしたが、自分たちが

持つ技術や知識を駆使し、町からの依頼に基づき探索に当たりました。地元の漁師さんに船を出してもらい、毎日海での探索活動をしていました。探索の情報を聞きつけて、ご家族を探している方が港で私たちの帰りを待っていたり、「お疲れさまです」と、その日配布されたであろうご自分のお弁当を渡したりしてくださいました。あのお弁当の味は今でも忘れられません。

当時は探索だけではなく、他のボランティアにも協力した方がいいのではという思いもありましたが、被災者の方と多くは関わらない中で見えてきたものもありました。被災地の方の服装が徐々にきれいに新しくなり、がれきが撤去され町が綺麗になり、悲しみがある中でも笑顔

が増え、被災地独特の臭いの中にも所々で炊き出しの匂いが混じり、徐々に復興していることを感じることができました。それは町、ボランティア、何より被災者の方が努力した結果だと感じました。その時に自分にできること、自分がしなくてはいけないことをただ実直に前向きにやるのが被災地のためになると感じました。それからはただひたすらに探索を続けました。

力不足のために、できるはずのことができませんに時間だけが過ぎてしまった部分があるのではないかと。そのように悔やまれるときもあります。ただ、被災地に生きる方が笑顔を取り戻す道のりにおいて、少しでも誰かの心の支えになることができたことを、今は素直に受け止めたと思っています。



## 支援ボランティア団体の活動報告⑤

団体名：特定非営利活動法人  
キッズドア

- 構成人数：10人以上
- 設立時期：震災以前
- 主な活動エリア：宮城県仙台市
- 活動概要：がれき撤去・泥出し・片付け、子ども支援、心とからだの健康支援、後方支援、情報支援、雇用促進・生きがいづくり

震災で将来の夢を諦める子どもを一人も出さないために

キッズドアは、「すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現」を活動理念に2007年に設立。親の経済的困難が子どもの学力や進学・就職に影響を与え、貧困が連鎖する輪を断ち切るために、学生ボランティアを組織化して無償で学習支援を行う『ガクボラ』を展開。自治体や企業、他のNPOと協働しながら、経済的困難を抱える学生への無料高校受験対策や、児童養護施設・母子生活支援施設等での学習支援を実施してきた。

震災後は、支援金を頂き、甚大な被害を受けた地域と東京都内避難所の2地域において「学習支援の企画・運営」「ボランティアへのメンタルケア研修」「専門機関連携のためのシンポジウム」の3つの事業を行った。

### ◆南三陸町戸倉地区の事例

同地区は住宅8割が全半壊し、小学校も中学校も水没した。本来なら学校に行っている4月中旬に避難所でテレビを見るしかない生活を送る子どもたちを見て、保護者から「学校が再開しても困らないように、規則正しい生活をさせてやりたい」という要望があった。算数・数学、国語、英語、音楽、体育等を含んだ時間割りを作り、他の避難所にいる子どもをバスで迎えに行って「あおぞら教室」を開講。「ここでは、遊びも勉強も全力でやろう」と声をかけて行った。参加した児童生徒からは、「震災後、初め

て友達に会った」「久しぶりの勉強だったので、本気でやった」などと楽しんでもらった。

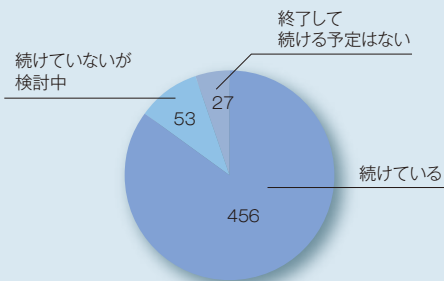
5月中旬から学校が再開。小学校の校長先生から「津波で大きな被害を目の当たりにした児童の心のケアを、今年度最も力を入れてやりたい」という要望を受け、避難所で「あおぞら教室」に参加した大学生などのボランティア数人と共に定期的に訪問して、放課後の学習支援（自習補助と苦手克服）として継続している。顔見知りのお兄さん・お姉さんが寄添い、個別に話を聞くことで、先生や親等縦の関係では聞けない話を拾い上げ、学校と連携して心のケアに当たっている。





## 支援先団体アンケート結果

Q14. 現在も活動を継続していますか



Q15. 終了済みの方：活動終了はいつごろですか



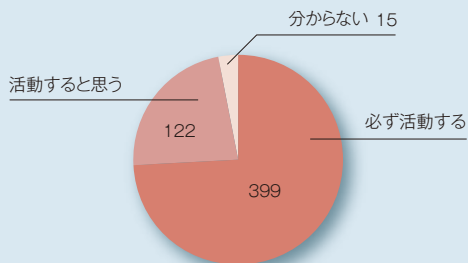
Q16. 継続中の方：活動の課題を教えてください

水害特有の被災地格差／放射能課題／専門スタッフの確保／活動スタッフを募集したいが、募集方法が分からない／人件費・事務経費・車両燃料などの経費がほとんどない／長期的な支援活動を行うに当たり、資金の調達、現地ニーズの情報収集／現地でのカウンターパートナーの来年以降の体制が大幅に変更になることが予想される／仮設の方々をもっと参加してくれればと願う／各自仕事をもちながらの活動のため、活動時間に制約があり思うように活動できない／現地での子どもの支援依頼活動があまりない状況／県復興局から出される情報を、点字化し広報している／活動拠点の確保／軽作業により収入が得られるような仕組みを導入している／引き続き住宅修理／仮設住宅住民の健康増進と住宅環境の

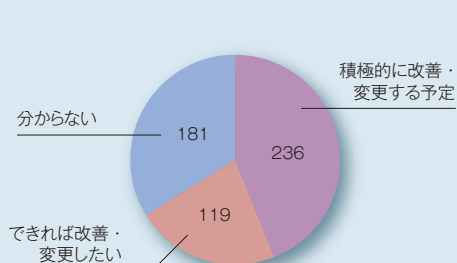
整備／声を出して、もっともっと支援が必要なことを伝えていくこと／人材育成／漁業従事者の生活再建／津波による流出物（拾得物）の所有者への返還活動。除染活動／自立支援・コミュニティ形成／情報が入りにくくなってきている／雇用支援／「スポーツで健康促進」活動／水中でのご不明者捜索 がれきの撤去、引上げ作業／子どもたちを中心とした被災家族の支援と未来の支援者の育成、啓蒙活動／終わりが見えない／記録保存／冬期間の路面の凍結等による活動の休止など／視覚障がい者のための防災・避難マニュアルを作成中／被災地医療支援／地元事業者の活動を圧迫してしまうことを懸念／継続していくこと

### part.3 今後の活動の見通し

Q17. もし、また震災があったら活動しますか



Q18. 震災を経て、活動内容を変えますか



Q19. 活動内容を変える方：どのような変更や改善を行いますか？

平常時のネットワークの構築／女川町だけでなく沿岸地域全域に対するケア／法人化／他団体との連携／専門家同士のネットワークの構築／行政との連携の強化／家族理解の下で高校生ボランティアの参入／有事の際の連携方法を決めておく／現地との意識の統

一化／NPOの体力強化／回数、中身の充実／活動拠点を増やす／活動分野に「緊急支援」を追加／人材育成／障がいのある人たちの震災時の対応の改善／貧困問題への取り組みを重視／他団体との協力を積極的に行う／支援のスピード化



## 【アンケート分析】

ここまでの分析から今般の支援活動の全体を俯瞰すると、いくつかの新しい潮流が見えてくる。

Q17では次の災害が起きてしまったとしたらという問いに対して、全体の98%が「支援活動を必ず行う」または「行うと思う」と回答していることに注目したい。職業や平時の活動にかかわらず、

これだけ多くの割合で災害支援の担い手が見込めることは心強いことだ。また、次の活動の際に改善を考えているという団体の間でも大きな共通点があった。それは現場でのノウハウの積み上げや向上すること以上に、平常時の在り方に言及した意見が多かったことである。

## 支援ボランティア団体の活動報告⑥

団体名：ホップ障害者地域生活  
支援センター

- 構成人数：10人以上
- 設立時期：震災以前
- 主な活動エリア：宮城県石巻市
- 活動概要：がれき撤去・泥出し・片付け、物資支援、生活支援、高齢者・要介護者支援、障がい者支援、後方支援

当団体は支援の第1陣として3月15日に札幌を出発し、3トントラックをレンタルして東京・赤坂にある日本財団から宮城県仙台市へ物資を運んだ。第2陣からは、石巻市に入りニーズ調査をスタートした。被災地での障がい者団体、支援学校など聞き取りを行い、困っている事、足りない物資等がないか聞き取り調査を行った。その中で、中間サイズ(赤ちゃん用と高齢者用)の紙おむつ、消毒液、紙テープ等、障がい者が使用する物品が物資として入ってこないことが分かった。私たちは、ブログでこれらの提供を呼びかけ、集まった物資を施設や支援学校などに届けながら、困っている事などの聞き取りを引き続き行っていた。ただ、障がい者施設などでの支援体制は現地の職員でできているということで、「私たちが何かお手伝いを」といっても支援が広がらなかった。

そんな時、石巻ボランティアセンターに集まる、各団体から上がってきた意見にはある共通点があった。「通院する足がない」「お薬を病院に取りに行って届けてほしい」など津波で車を流されてしまった被災者から、「送迎」というニーズが多く上げられている事が分かった。早速、



全国の移送サービス関係者に周知し、移動支援ボランティアReraは石巻に拠点を構えた。当初は活動の周知がうまくいかず利用者を増やすことが出来なかったが、避難所や人が集まるところにポスターを貼り、ラジオで放送。現在では平均1日40件・80名ほどの利用者送迎を行うようになった。

現在の課題は、利用ニーズが増えていくが、地元を引き継げるだけの体制が整っていないことだ。現在行っているReraの運営は、金銭面では助成金や当団体からの持ち出し、他団体からの協力により成り立っており、人員も当団体・他団体職員、全国のボランティアの協力の下に成り立っている。ボランティアの力も大切であるが、将来のことを考えると地元の方々の支えが重要になってくる。地元の方にどのように引き継いでいけば良いかが今後の課題である。

## 支援ボランティア団体の活動報告⑦

団体名：山形県新規就農者  
ネットワーク

- 構成人数：10人以上
- 設立時期：震災以前
- 主な活動エリア：宮城県石巻市
- 活動概要：炊き出し、がれき撤去・泥出し・片付け、物資支援、漁業・農業支援

私たちは山形県で新しく農業を始めた若者の団体です。日頃から農産物の直売等で交流のある隣県宮城県で食事の提供およびひまわりの種の配布を行いました。活動当初は避難所での炊き出しを中心に食事の提供を行い、農業者らしい支援の形として自ら生産した農産物を食材として提供し、調理を行ってきました。

活動地域は宮城県全域(南三陸町、石巻市、東松島市、仙台市、亶理町、名取市など)に及び、活動内容も、大小避難所でのそば、芋煮、ご飯(おこわ)、具だくさん味噌汁などの炊き出しや、復興市でのふるまい(餅つき、リンゴジュース)、仮設住宅のイベントへの食材提供および調理(パン菓子、冷たい肉そばなど)、住民参加のイベントへの食を基本にした支援など多岐にわたっています。

私たちの支援活動の基本は、ただ単に「モノ」を提供するのではなく、被災地の皆さんに「食を通じて元気になってもらいたい」との願いを込めて、地域住民を含めた方々と話し、触れ合う機会をなるべく多くつくるようにしてきました。そのことにより、山形県を身近に感じてもら

えるように心がけ、同じ東北の人間として、一緒に頑張っていくという姿勢で活動に取り組んでいます。

被災者の置かれている状況はまちまちですが、現場で調理をしていると感じるのは、有り合わせでない「本当の食事」を提供することは、人間の活力を取り戻させるということです。

心のこもった食べ物は人を幸せにします。また、途中から被災者の方にも調理に参加してもらうようにしたことで、「与えられた食事=支援物資」ではなく、「自分たちで作った食事=家庭や地域コミュニティ再現のアイテム」としてもらえることに気がされました。そして、一方的に与える・配るという活動からの脱皮を図っています。「いまさら炊き出しなんて」ということを口にするボランティア団体も多いのですが、私たちは、「食を通じた元気づくり」にシフトしていくことで、被災者の人たちが少しでも元気になれる機会を、これからも提供していきたいと考えています。

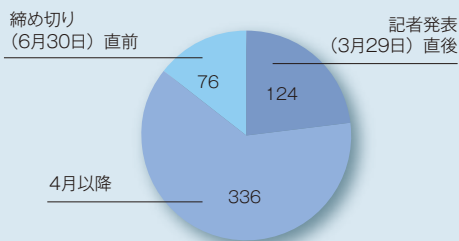




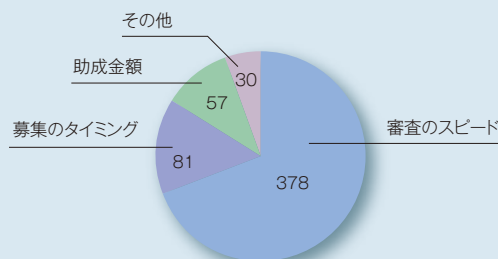
## 支援先団体アンケート結果

### part.4 助成制度に関して

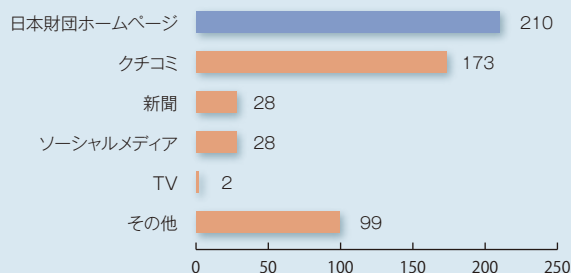
#### Q20. 支援金制度を知った時期



#### Q22. 緊急助成の良かった点 ※複数回答可



#### Q21. どのメディアを通じて知りましたか ※複数回答可



#### Q23. 緊急助成について改善を求めたい点

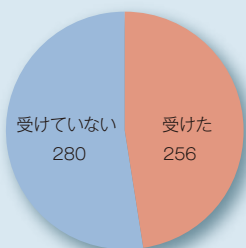
震災直後の助成が決定する前の活動についても、助成金を充てて良いというルールだと、より動きやすかった／今回の審査の期間は2週間と早く、素晴らしかった／項目の柔軟性／納車までに時間がかかり過ぎ／窓口とのやりとりがスムーズにできなかった。各自治体に出先窓口があると良い／助成金額の上限UP／追加助成／NPO同士をつなぐ仕組みを担っていただきたい／助成の継続／防災のための活動に関しての助成があるといい／年度をまたぎ申請できるよう2カ月に1回程度の定期的助成がほしい／継続の必要を感じれば、期間や金額の延長、増額を検討いただきたい／申請の仕方が複雑／他にどんな団体がどんな活動をしているのか、といったような情報をできる範囲でHP上などで公開して頂ければ／審査のスピードと助成金額について改善頂けるといい／できるだけ早い段階で助成金をいただければ／個人の生活支援にも使えるような助成／人件費にも使えると良かった／被災地で活動している、もしくは被災地に本拠を置いている団体などにも迅速に助成を行っていることが知れ渡るような広報の仕方をしてもらえると良い／悩みを相談できる専門家がいるとありがたい／万が一、当初の計画で実行できない場合の、計画変更手続きやその対象が、応募時から明確な方が良い／コーディネート支援の活動もボランティアの実施には重要な要素なので、助成の対象にしてほしい／一程度の管理費を含められるようにしていただきたい／提出書類などの期限内に余裕を持たせてほしい／法人格以外の団体にもどんどん支援して頂きたい／直接的な支援だけでなく、人材育成や外部からの人材投入も助成に含んでいただきたい／毎回審査を行うのではな

く、団体をしっかりと見極め、必要な団体に継続的な支援を行っていただければありがたい／他の団体がどのような支援をやっているのか情報が欲しかった／報告をベースとした活動の実情に合った金額であれば、なおよかった／事業の広報を、ホームページだけではなく、一般の新聞などでも掲載することによって、より多くのボランティア団体が知ることができ、小さな草の根的な活動を支援することができるのではないのでしょうか／ウィンドウズ、Mac、両キャリアにご対応いただけるとうれしい／いい加減な活動をしている団体があったが、チェック体制が未熟だった気がする／年度をまたぐ助成方法を検討してほしい／ボランティア同士の情報交換の場やコラボレーションができる活動を支援していただきたい／一律の金額ではなく、内容で決めていただけたら／活動内容を厳しく調査した上で、継続的あるいは段階的支援を望みます／助成金の使用目的(事務所使用料・ガソリン・職員給料・レンタカーなど)を具体的に示していただければありがたい／募集の時に募金箱、シール等がはじめてあると良かった／受付後、結果が出るまでどのくらい要するかを一報いただけるとうれしい／商工業者に対する支援メニューの充実

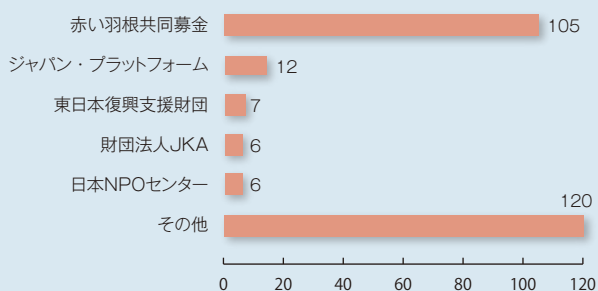




Q24. 日本財団以外から支援金（助成金）を受けましたか



Q25. 支援を受けた助成団体名



【アンケート分析】

この緊急支援助成は、日本財団にとっても初めての取り組みであり、未知の領域であった。

「いかに早く届けるか」に最も意識を注ぎ、制度設計、公表、公募開始、審査、送金を行ったわけだが、実際に支援活動を行う団体にどのように認知されていたのか。

記者発表日を含む3日間（3月29～31日）で約23%の124団体がこの制度のことを知ったと回答した。このうち57団体は日本財団のホームページから、27団体はクチコミによって情報を得て、新聞やソーシャルメディアはごく少数と募集期間全体を

調べたQ21と同様の傾向が読み取れた。

「その他」には行政機関や地域の中間支援組織のホームページなどが含まれている。ソーシャルメディアについては、今回の支援活動を通じて支援者同士をつなぐツールとしてもユーザー数を伸ばしているため、今後有力な情報メディアになる可能性は十分にある。

また、Q24で支援金を受けたと回答した団体のうち、圧倒的に多かったのは赤い羽根の共同募金であったが、「その他」にあるように、企業財団や地域の財団、個人寄付など、各団体ごとに多種多様な資金調達を行っている実態がある。

支援ボランティア団体の活動報告⑧

団体名：にこにこサポート

- 構成人数：5人以上10人未満
- 設立時期：震災以前
- 主な活動エリア：宮城県仙台市
- 活動概要：炊き出し、がれき撤去・泥出し・片付け、物資支援、生活支援、子ども支援、母親支援、高齢者・要介護者支援

私たちの託児所は仙台市にあります。避難所である小松島小学校の目の前にあり、避難所に入ることができずに困っている人たちであふれていました。高齢者、子どもはもちろん優先的に場所が提供されましたが、二十歳前後と思われる人は困っていてもなかなか「助けてください」とは言えず、閉店しているコンビニの前で何日も過ごしているような状態でした。私たちが行ったことはボランティアでもなく支援活動でもなく、ただお互いに助け合ってライフラインが復活するまで過ごしたという感じです。お米がある人はご飯を炊き、キャンプ道具がある人は火をおこし、体が動く人は水を運ぶ。そしてわずかの食料を煮炊きして手の届く範囲で困っている人に提供する。そのように3月いっぱい過ごしていました。

その後子育て支援ボランティアとして、震災の次の日から働かなければならない女性（医師や看護師、施設の職員教職員など）の子ども（主に小学生の学童）を震災から1カ月にわたり、

無料で預かりしました。狭い託児所だったので、子どもが多い日には自宅を開放して預かりました。通常では小学校中学年頃になると自宅で留守番できるのですが、震災後は余震も多く、子どもを一人おいて仕事していたのでは安心して働けません。震災直後から復興に向かって働く女性がいたということに、自分たちも何かしなくては考えました。ごく普通の主婦である私たちにできることは、子育ての経験を生かして忙しく働く子育て世帯のお子さんを託児する、家庭的な環境で子どもたちが安心して過ごせる場所を提供するという事です。

震災後さまざまな生活の変化で、仕事を求めている女性がたくさんいます。にこサポートでも津波で夫を亡くした女性が働いています。そんな事情を抱えた人たちが立ち上がり、生活していくためにはやはり仕事が欠かせません。被災し

た女性の就労支援は、簡単ではありませんが、主婦の経験を生かし、社会活動に参加して収入を得られるようににこにこサポートのシステムが、少しでも被災した女性の支えになることを信じて活動を続けて行きます。私たちのような法人格もない任意団体をサポートして下さった日本財団の支援活動に心から感謝申し上げます。

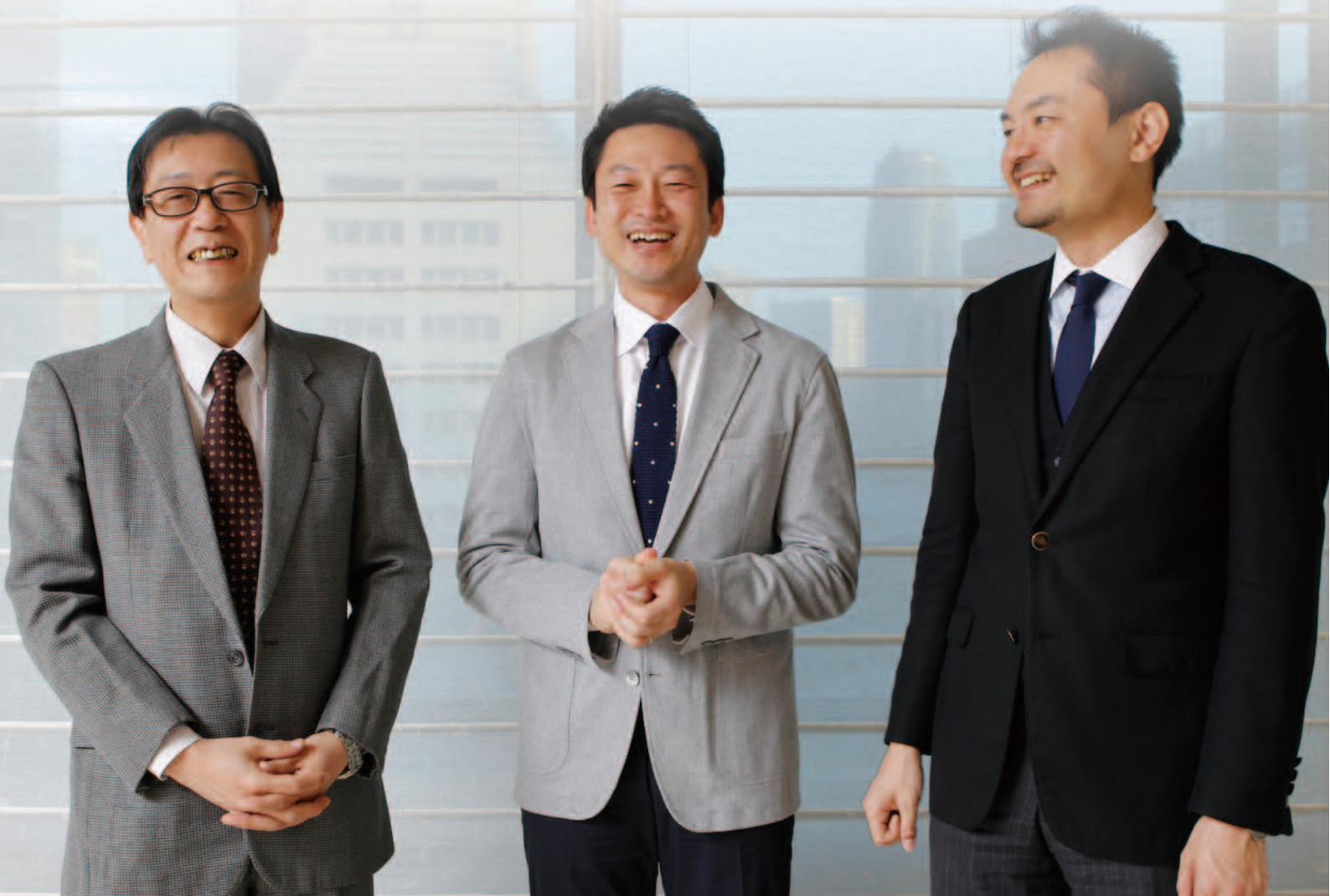




鼎談

# 支援金活動のこれまでと未来

「被災地や被災された方への支援活動をしている団体に資金を援助したい」との思いが詰まった支援金。多額の寄付が集まった中央共同募金会、ジャパン・プラットフォーム、そして日本財団では、どのように支援金を配布し運営してきたのか。震災後初めて3団体が集まり、忌憚のない思いを吐露した。



## 阿部 陽一郎 (左)

社会福祉法人中央共同募金会 企画広報部長

## 椎名 規之 (右)

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム 事務局長

## 青柳 光昌 (中)

公益財団法人日本財団  
東日本大震災復興支援チーム チームリーダー

## 多額の金額と思いが寄せられた支援金

**青柳**：これまで私たち3団体は、被災地で支援活動を行っているさまざまな団体へ「資金の面で活動をサポートしたい」と考えるドナーの皆さまの意志あるお金を、ドナーの皆さまに代わって提供してきました。東日本大震災から1年が経過し、これを一度総括したいと考えて、今回お集まりいただいたわけですが、それぞれ支援の仕方に対する基本的な考え方や課題などがあつたかと思います。簡単にご説明いただけますか。

**阿部**：赤い羽根で知られる中央共同募金会は47都道府県に社会福祉法人という独立した法人があって、地域で集めた募金は主に募金をいただいた地域で使われています。ですから阪神・淡路大震災の時は、兵庫の共同募金会に寄付された募金の一



部しか活動支援金を助成することができませんでした。その後、政府に働きかけて法律を変えてもらい、被災した県に対して他の県があらかじめストックした赤い羽根の共同募金の一部をボランティア団体の活動費となるように支援する災害等準備金という仕組みをつくりました。

それが今回の震災に当たって機能し、被災した3県に対して、今年の4月現在で約7億円の支援をすることができています。そしてもう一つ「災害ボランティア・NPO活動サポート基金（以下ボラサポ）」というのを立ち上げました。去年3月の時点で、災害ボランティアセンターだけでも100カ所を超えていたので、ここに来るボランティアとかNPO、NGOの皆さんの活動資金が不足するだろうということで立ち上げたものです。ボラサポには33億円を超す金額が集まり、これまでに6回助成をして、累計1500以上の団体に18億円超の助成をしています。

## 企業や個人から多額の寄付金が集まる

**椎名：** ジャパン・プラットフォーム（以降JPF）は、2000年の8月に海外の緊急人道支援のためにできた組織です。その後、国内の災害にも対応することとなり、2007年の新潟の中越沖地震の時に初めて国内で活動しました。しかし本格的な活動としては、今回が国内の災害に対応した初めてのケースといえるかもしれません。今回の震災に当たり企業、個人の方などから68億円以上の寄付をお寄せいただきました。これはJPF史上類を見ない大きい金額です。そこでまず被災地を少なくとも3年間支援し続けようという方針を立てましたが、3月中に集まったお金だけで30億円以上もありました。これは寄付をお寄せいただいた方の「今すぐ被災者のために使ってほしい」という期待の表れだと判断し、今すぐ使えるものは使おう、JPFの強みはスピードだろうということで、現在までに80%以上の資金を支援に充てさせていただいています。

それともう一つ、JPFは本来、JPFに加盟しているNGOへの支援をしていますが、JPFに加盟していない被災地のNGOの方にも寄付金を使っていただける仕組みとして「共に生きるファンド」を立ち上げて、68億円の中の10億円を割り振っています。1件当たりの助成額は小さいのですが、加盟NGOと比べて団体の審査が十分にできないこともあり、リスクがなきにしもあらずということを慮って始めました。まずは事業期間3か月という短い期間で区切り、活動の様子や成果を確認することで、JPFとしてはここに助成しても大丈夫と認識できて、被災地のNGO側もJPFの資金の使い勝手を確認していただくようにしました。

**青柳：** 日本財団の災害支援の活動については、まず神戸の震災時の成功体験が挙げられると思います。緊急のボランティア活動支援としては、規模でいうとおよそ100団体へ総額1億円くらいでした。ただし、このときは現在いわれるところの「支援金」ではなく、我々の場合はモーターボート競走の交付金による「助成金」として拠出しています。すぐに職員が被災地に入って、ボランティアで集まっている方々の下に何って必要を聞き出して一緒に簡素化した申請書を書きました。そして東京のオフィスで即座に決裁し、数日後には助成金が振り込まれるというようなスキームで約100件の支援をさせていただきました。

ですから、今回もそれをやるんだというイメージで、3か月間公募して、651のNPOに1件上限で100万円の支援をいたしました。申請の数が2200件を超えていたので、だいたい3分の1弱になります。ただし、これまでの災害支援活動と違った点は、支援の規模もそうですが、中央共同募金会さんやJPFさんと同じように、財団としても今回初めて一般の個人や企業から多くの寄付を頂く、集めるということをさせていただいた、という点です。寄付金を集めながらの支援活動でしたので、そこはやりながら、仕組みを整えていくところがありました。

寄付金全体では、今日までに約50億円をお寄せいただき、このNPOへの100万円支援活動の他にも、被災者への弔慰金・見舞金の給付や避難所のアセスメント、看護師の派遣、臨時FM災害局への支援、伝統芸能の復興、海洋・造船関連への支援など、我々のネットワークを駆使して、その時点で必要な、で



Mitsuaki Aoyagi



き得ることを、まさに「総動員」して行っていました。

## 支援金配分でできた事、できなかった事

**青柳：**今回の震災では、3団体共に、これまでの自分たちの活動の枠を超えたことをしてきたように思いますが、悩んだ事や想定外の事態などはありませんでしたか。

**椎名：**私たちの支援はこれまでに150件くらいですので、お二方と比べると、数的にはまだまだ小さい支援であると感じています。短い時間の中で審査をして結果を出すということで、少しリスクを考え過ぎたかもしれません。その点、中央共同募金会さんはあれだけ多くの案件をさばいて相当大変だったのではと思います。すごいですね。

**阿部：**確かに職員、スタッフ総出でやっているという感じがですね。今回配分委員会を立ち上げる際にまず初めにやったことは、NPOやNGOの方々に審査委員になっていただくことでした。そうすると活動をする際に必要なお金の種類って何だろうという中身の部分まで入っていただけますから。そしてこだわったのは公開性です。配分委員会で議論したことは、今もまとめて公表していますし、問いかけられたことに関しては必ず議論しています。そしてなぜ応募が却下されたのかという疑問にはきちんと答えを出して発表するようにしています。ただ基本的には性善説のスタンスに立っていて、リスクな面が見えたとしても、何とか助成できないだろうかというのが、審査員の皆さんのスタンスではあります。

**椎名：**JPFはあまり名前が知られていないこともあって、なかなか



かご応募いただけないところがありました。そこで現地に入っているスタッフがNGOの方と相談したりして、じわじわと知られてきましたが、それでもまだ10億円のうちの半分しか使えていません。今後は福島でもう少し活動できないかということで、スタッフが福島に行って、NGOのミーティングなどで「ファンドがあるので使ってください」と話したり、「こういうふうにやってみませんか」と提案したりして案件にまで持っていくなど、発掘の努力もしていきたいと思っています。

**青柳：**日本財団は名前は知られていますが、継続して今回のような震災支援を専門とする人数は限られています。そのため随時支援金の要望を受け付け、何度も審査委員会をやり、支援決定をするというところまではなかなかいけないのが実情です。そういった課題もあって、現在、公募で支援金の配付という従来のスキームではない形で、2年目以降は活動をしていきたいと考えています。例えば、我々が重点テーマをあらかじめ決めて、それに沿った現地リサーチと案件形成を行い、それを企業からの寄付などへつなげていけるようなことを考えています。

## 未来のあるべき姿に向けての課題とは

**阿部：**今回の震災はあまりの被害のひどさと広域にわたっていたということで、行政の機能が一時期麻痺しました。公が本来やるべき公助の部分がかなり後退した。それをカバーしたのが、海外から駆け付けたNGOを含めたNPOや他の地域のボランティア、そして地元の市民たちでした。例えば避難所の炊き出しなどに副食をつけたりするのは、これまでもボランティアがやっていたのですが、今回は主食の提供までボランティア団体や婦人会などがやった地域もありました。

それが3県共にあると、そうすると我々のボラサポにも食料費という申請がたくさん来るわけですよ。でもこれは本来税金から



Youichirou Abe



出すべきものも一部含まれていると考えられるわけです。その辺をもう一度、「公助」と「民助」の境界を検証しなければいけないと思っています。次の大きな災害のときに「どうせここはNPOとかNGOの皆さんがやってくれるだろう」というようなゆがんだ関係になってくると良くない。こういうことをこれから一つのテーマとして、次の震災に向けて考えていくべきではないかと思っています。

**椎名：**例えば、こんな話を聞いたことがあります。現地で良いアイデアを持っているNGOがあって「そこは良い団体だからどんどんお金をつけよう」ということで、(ドナーの意向もあって)いくつかの助成団体が資金助成を行ったそうです。ところがこの団体に急に多額の支援をしたことでキャパオーバーになってしまい、活動自体を駄目にしてしまう可能性があったとのこと。助成する側もどういうところにどういう方針を持って支援していくかは、情報共有をしてよく考えないといけないということが、反省点として強く印象に残っています。

### 中間支援組織のさらなる情報交換を

**阿部：**一番認識しなければならないのは、今回の支援がバブリックだということです。助成を受けた団体が一般的に日常的な助成活動をするときに、設立されてから1週間とか1カ月とかの団体に100万単位の助成をするなんて絶対にあり得ないことです。ただこれは復興のためということで、通常であれば2年ぐらい時間をかけて団体が成長していくプロセスを短縮してやっているところがあると思うので、そこをこれからどう地元の関係団体はじめ皆さんと共に育ってってもらえるかというのが、非常に大きな課題だろうと思います。

**青柳：**助成先の見極めでは、我々も石巻の自称医者が代表を務めるボランティア団体に助成をしてしまったということがありました。

**阿部：**あれは、日本財団さんがやっていなければ、我々にも応募があったかもしれない案件でした。地元の評判を含め地域の皆さんは肯定的に受け止めていた団体でしたから。他人事ではなく、真摯に見極め、目利きの難しさを改めて考えさせられたケースでした。

**椎名：**海外の緊急人道支援でもそういう危険性はあって、支援活動はいつもスピードとクオリティーのせめぎ合いです。ドナーと支援実施団体をつなぐ我々のような中間支援組織は、どこを押さえておけば良い活動ができるのか、リスクを取りながら支援をしていく中で、落ち着いたところで改めて検証してノウハウを



Noriyuki Shiina

蓄積していかなければならないでしょうね。

それとこちら側も全力を尽くすけれど、短い時間の中で支援をして間違ってしまうこともあると、支援者の方々にもご理解いただくようご説明し、「緊急支援は100%うまくいくことはないから、間違いがあったら教訓とし次は直す」という対応をしたいと思っています。またこれまでも共同募金会さんと情報を共有したりしたのですが、中間支援組織同士でもっと情報をやりとりした方がいいようにも思いました。

**青柳：**確かにこの3団体でもっと情報交換を密にやっていると良さそうですね。災害時の支援が共通のテーマになると思いますが、スキームはそれぞれ違って、どういうタイミングでどういう規模でやるか、後の情報交換はこうしようか決める。そして「一緒にやっている」と公言してしまって、後はお好みのところに寄付をどうぞと促す、そういうことをしてもいいかもしれません。

そうすれば義援金もあるけれど、支援金を出すなら、情報公開しているところに出そうかというように、もっと意志のある寄付が集まってくるんじゃないでしょうか。それは我々にも良いプレッシャーを与えてくれそうですね。

**阿部：**3つの団体に共通しているのは、寄付金を使って助成をして助成先を育てていくということです。その循環の仕組みを「こういうスタンスで支援していくんだ」と示し、国内でコンセンサスを得て重複を避け、適正な支援が行われるようにしていくことが大切だと思います。循環の具体的なメニューをもっとお互いに共有したり、良いことはまねしたり、時には意見も言い合いながらやっていければ、この国にも寄付の文化がもっと定着するのではないのでしょうか。



# 弔慰金・見舞金の緊急

## 第3章

## いますぐ被災者に現金を！

### MISSION

#### 被災地に現金を運び

震災で死亡・行方不明となられた被災者の遺族・親族に速やかに弔慰金と見舞金を贈る

#### D A T A

|                |  |
|----------------|--|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 8億6645万円<br>(2012年3月31日時点)                           |
| 期間             | 2011年3月29日の緊急記者会見で実施発表。4月4日に石巻市から配付開始。2012年3月30日受付終了 |
| 場所             | 死亡者・行方不明者を確認できた84自治体の全てで実施                           |

#### プロジェクト概要

##### 〈ニーズ〉

ご家族を亡くされた被災者の方にいち早く現金を渡す。



##### 〈支援〉

ご遺族またはご親族の代表者に死者、行方不明者1人当たり各5万円の弔慰金、または見舞金を贈る。



##### 結果

配付人数:  
**17329名**  
**18940名**  
 (警察庁発表の東日本大震災による  
 死者・行方不明者)  
**充足率:91.5%**  
 (2012年3月31日時点)

日本財団は2011年3月29日に緊急記者会見を開き、東日本大震災による死者・行方不明者の家族に対して一人当たり5万円の弔慰金・見舞金を贈ることなどを盛り込んだ緊急支援を実施することを発表した。

会長の笹川陽平は「2500カ所にも及ぶ避難所で暮らしている人たちに可能な限り具体的な声を届けたいと考えた。過酷な暮らしを続ける人たちへの支援を一日でも早く始めるのが民間の責務。これが緊急支援の第1弾だ」と述べた。

#### 明日の10万円より今日の5万円

理事長の尾形武寿は3月26日早朝に笹川からの電話を受けた。

会長は「東京大空襲の焼け野原を母と二人でさまよった時、現金がなく食べ物が入らなくなった。幼少でただただ心細かった」と自らの体験を語った。そして、「阪神・



# 日本財団 The Nippon Foundation ボランティア



## 配付

淡路大震災の時、ある金融機関が封筒に1000円分のコインを入れ被災者に配った。これは大変役に立ったと好評であった」と、現金を被災者に手渡すことを検討するように指示をした。

尾形を中心として、週明けの28日に緊急会議を開催。「現金をどのように被災者に渡すのか」「悪質な人間が来た時にどう対処するか」など議論になったが、「明日の10万円よりも今日の5万円の方が被災者にとっては必要。被災自治体には負担や迷惑がかからないように日本財団はじめポートレース業界挙げて実行しよう」という結論を得て、弔慰金・見舞金を支給することが決定。翌29日には支給について被災者の方たちに周知するため、緊急記者会見を開催した。

### 日本財団が単独で速やかに行動

この支給事業を外部から見たときに透明性を確保し、公平性が保て、安全性が担

保できるかが課題であった。透明性と安全性には地元行政が保持する名簿を入手し、名簿に応じて支給すれば問題ない。課題は緊急時なので申請者の身分確認や添付書類をいかに最小限に留めることができるかであった。公平性の担保は、時間をかけて支給を継続することにより後日に公平性を調整することで可能であると判断した。

すぐに実行に移すべく、尾形は3月31日から被災自治体を訪問し、支給への説明にあたった。

石巻の亀山紘市長と面談したが、最も被害の大きい石巻の職員は3分の1近くが死亡・行方不明で、協力要請は難しい状況。そこで、日本財団が全責任を持って実行することを約束し、死者・行方不明者の名簿の提供、被災者への周知活動、そして東京から派遣する職員は当然地元事情に疎いため、被災自治体からの職員を1人提供してほしい旨も伝え、実行することとなった。

また、気仙沼市では国からの義援金に乗せて支給したい旨の要請があったが、

国からの資金がいつになるのが見えない状況もあり、日本財団の責任のもと単独で速やかに行うことを伝え理解を得た。

### 大金の準備にも苦勞

実際、大量の現金を用意するのにも大変な苦勞があった。

複数の取引先金融機関に相談するが、被災地の支店自体が被災し、支店業務自体も混乱していることから、現地支店で現



大量の現金をスーツケースに入れて、ガードマンなしで日本財団職員が運んだ。

### 第3章 弔慰金・見舞金の緊急配付

金を引き出すことは断念。日本財団と取引のある銀行に現金を用意してもらうことになった。

しかし、現金を財団まで届けてもらえるわけもない。そこで、「億」という現金を大型スーツケースに入れて、警備員もつけずに若手職員の護衛のみで運んだ。

この作業を3日に分けて行った。金融機関がすぐに全額を現金で用意できないという事情もあるが、一人5万円の封筒詰め作業が一気に終わらなかったためだ。ここでは、銀行出身の嘱託職員などが活躍してくれた。

そして、当初は4月7日からの支給開始で調整していたが、繰り上げて4日に石巻から実施することとなった。4月2日時点

の新聞報道では、石巻市の死亡者数2341人、行方不明者数2698人であった。単純計算で5000人×5万円とすれば最大2億5000万円の現金が必要となる。結局、一人が5万円を数え、もう一人が確認して封入し、第1弾として封筒5000セットを用意した。

#### 前日まで議論が続いた配付方法

4月3日、2億5000万円の現金を段ボールに入れて、チャーターしたバスの座席の上にガードマンなしで積み込んだ。それに同乗した20余人の職員たちは、大金を所持することから緊張した面持ちで石巻に入った。

そして、対象者に速やかに、しかも正確に配れるかも課題であった。死亡者のデータは、県警が公表しているものの、居住地までは特定できない。宮城県下の全データを石巻に持ち込んだとしても、照合作業は非常に手間を取る。しかも行方不明者は、そもそも正確なデータがない。日々更新されるデータは、持ち込んだリストに反映しきれないタイムラグの問題もある。さらに、受け取りに来る被災者の多くは家財を流されており、本人確認ができないケースも相当数あるだろうし、続柄や親族の代表であることの確認も難しいなど、前日の現地での議論は深夜にまで及んだ。

しかし、こうした苦労と試行錯誤を重ねた結果、4月4日からの3日間で、石巻市

#### 弔慰金・見舞金の配付現場 二重払いを返却

走りながら考えたミッションだけに、当初はトラブルも心配されたが、問題はまったく発生しなかった。周知活動も不十分かと思われたが、石巻での配付初日には長蛇の列ができ、配付開始時間を繰り上げたほどであった。

実際、何も持ち出すことができなかったため、照合のための身分証明書類を提示できない被災者の方もいた。しかし、そういった方こそ受けた被害が大きく、当然現金も持ち出せずに墓前に供える花も買えない、まさに配付の対象者である。ある方は、身分を証明するものが「何もありません」と言う。日本財団職員がふと足元を見ると、靴に片仮名



で名前が書いてある。本来は靴の名前が身分を証明するはずがないし、公的機関の審査であれば絶対に認められない。でも、津波に追われながら何も持ち出せず、身に付けていたものがすべての人もいる。そのような方にも今回は配付し

た。そして、その状況を悪用した人は発覚していない。

オンライン処理ができないため、二重払いも発生した。違う配付所でそれぞれ弔慰金を受け取った遺族が、家で二重に受け取ったことに気付いたのだ。しかし、その方は5万円を返却するために、がれきの道をわざわざ引き返してきてくれたのだ。

笹川自身が率先し、日本財団が全責任を負うことで、迅速な配付ができた。しかし配付現場を思い返せば、このミッションを支えたのは日本人の清らかな心だったと思わざるを得ない。





役所、湊小学校、女川町役場などでの配付は約3100件、支給額は1億5000万円を超えた。

### 91.5%の方に現金が届けられた

4～5月には、気仙沼、陸前高田、釜石、大船渡、花巻各市など、多くの避難所などでも弔慰金・見舞金を配付。

安全管理に関してはALSOK総合警備

保障株式会社に業務を請け負っていただき、夜間の現金の保管も被災地の地方銀行の協力が得られた。また、支給業務に関しては、ポートレース施行自治体や関連団体からの職員派遣がとて大きな力となった。

6月末までに、死亡者・行方不明者を確認できた84自治体のすべてで実施し、合計1万4861件で7億4305万円を遺族に届けた。

その後も、日本財団復興支援コールセンターなどで手続きを続行し、2012年3月末まで受け付けを続けた。その結果、警察庁発表の東日本大震災による死者・行方不明者1万8940名のうち1万7329件に弔慰金・見舞金を配付することができた。

ご遺族に5万円をお贈りする事業であるが、被災者の方々に支えられてきた支援ではないかと思う。



皆様のご厚意に感謝です！  
1日も早く、元の、そして新しい宮城になるよう頑張ります！！  
ありがとうございました！！  
(宮城県松島町 男性)

このたびの震災に対して、お心遣いありがとうございます。  
まだまだ心は晴れませんが、多くの方々の優しい援助で少しずつ前を向いていけるようになれると思っています。  
(宮城県 女性)

# 日本財団に届いた声

ROADプロジェクトの1年間の活動中に寄せられた  
被災者からのたくさんのお手紙や感謝の声。  
その一部をご紹介します。

今回の震災におきまして、私の郷里であります宮城県南三陸町にてさまざまなご支援を頂き感謝申し上げます。とりわけ損傷した漁船の修理は復興を後押しする一歩となりますし、避難所となっておりますホテル観洋においての海水淡水化装置の設置は、避難者およびホテル従業員の皆さまにとって格段の生活利便性の向上が図られ、非常にありがたい次第です。

津波による壊滅的な被害を受けました当町ではありますが、海と付き合いながらの復興は不可欠であり、今回のご支援は、漁業、観光業に大きく貢献するものと信じております。

一町民として、今回のご支援に対し厚く御礼申し上げます。  
(2011年6月 シンガポール 男性)

自宅にて介護中、地震により呼吸器が破損・停電のため5～6分で死亡。悔いは残りましたが弔慰金で線香とお花をしばらくの間買わせていただきます。  
年金生活なので、花まではなかなか手が届かないでいました。ありがたくお受けいたします。  
(2011年5月 福島県福島市 男性)

ご本人は耳が遠いので、代理のご親族からのお電話でした。  
「本当にありがとうございました」  
(2011年5月 埼玉県ふじみ市 男性)

弔慰金・見舞金の受領者の方々から、「何の関係もないのに支援を頂きありがたい」旨のお話を頂きましたことをお知らせいたします。  
(青森県某被災市町村職員 男性)

弔慰金頂けるとのこと誠にありがとうございます。  
何一つ持ち出さず、妻ともども家屋流失してしまいました。妻のとむらいのために使わせていただきます。  
本当にありがとうございます。乱筆にて失礼いたします。  
(宮城県 女性)



私の母が、今でも行方不明だということが本当に信じられず、3月頃は気合で探していたのですが、段々と悲しみと落胆で元気をなくしていました。

息子から日本財団さまの事を聞き、たくさんの人たちが私たち被災者のことを懸命に考えてくださっているんだなあと同時に、元気も少し出てきた次第です。

もう二度とこの様な災害がありませんように、心から祈るばかりです。

(宮城県松島町 女性)

3月11日に発生した東日本大震災により、岩手県釜石市にいる父を亡くしました。偶然にも当日朝に、3月15日の父の80歳の誕生日を祝うカードを郵便ポストに入れたばかりでしたが、ついにそのカードは父に届くことはありませんでした。津波から16日後に父は遺体で発見されましたが、私に会えてホッとしたような寝顔でした。

このたび貴財団から弔慰金を頂けるとのことで、必要書類を送付させていただきます。

返信用の封筒に切手を貼っていただき、ありがとうございました。切手一枚のささやかなことかもしれませんが、落ち込んでいるときにはこうした細やかな配慮が、本当にうれしく、ありがたく感じるものです。

父が亡くなり、実家は津波で全壊となり何も残っていませんが、文部科学省には岩手県沿岸部に震災孤児のために小・中一貫校をつくる計画があるとのことで、教育関係者の一人として私も故郷の復興に尽力したいと考えております。

(2011年5月 愛知県名古屋市 男性)

今回の大津波で母を失いましたが、翌日の午前中に発見され、火葬と葬儀を執り行うことができたことは幸いでした。

母を失って3カ月が経ち、いまだに受け入れられないでおりますが、このように手を差しのべてくれる方々がおられるということが心に深くしみております。

このお見舞金は今後の母の供養に充てさせていただきます。本当にありがとうございました。

(2011年6月 女性)





## 日本財団に届いた声

お見舞い金ありがとうございました。

同じ津波で両親とともに流され、その後健康を害した私には大変ありがたい支援です。

本当にありがとうございました。

(2011年6月 宮城県塩竈市 女性)



このたびの大震災で亡くなりました亡姉に対して心温まるお言葉やお悔やみの金子を頂き厚くお礼を申し上げます。7月1日にささやかながら供養の会を開くべく考えております。

本当にお気遣いありがとうございました。

(2011年6月 福島県 女性)

弔慰金ありがとうございます。

息子に先立たれてしまい毎日悲しい思いをしていました。日本財団さんの温かいご厚情に心からお礼申し上げます。

(2011年7月 岩手県 ご夫婦)

このたびはたくさんのお見舞金を頂きましてありがとうございました。皆さまのご援助が私の毎日の生活を支えてくださっています。

(2011年5月 宮城県 女性)

私事で何ですが、私も今回の震災で被災し、家も全壊、車も漁業施設および備品もすべて流失いたしました。

日本財団さまのような慈善団体のご支援は、亡き父を心より弔う糧とさせていただきます、ありがとうございます。

(2011年6月 宮城県 女性)





## 第4章

# 企業からの支援

今回の復興支援のプロセスにおいて、我々のような中間支援組織やNPO、ボランティアの活動に民間企業から多大な支援が寄せられている。自社の本業をベースにした支援から、独自の哲学をもった社会貢献活動まで、我々非営利セクターにはない資源やアイデアを提供していただいている。



ドイツから世界最大の輸送機アントノフで空輸され、成田空港に到着したダイムラーAGの特殊車両。

# 災害復旧支援車両の寄贈 イノベーターブリーダー基金の創設

ダイムラーAG



足場の悪い海岸で、がれきの処理に活躍したゼトロス。こののぼりが舞う5月にはすでに被災地で使用されていた。

## 震災1カ月後に被災地で不足の 大型車両がドイツから届く

「地震と津波の脅威を目の当たりにして、社会のメンバーとして何かしなければならぬと痛烈に思いました。それは本国も同様で、即座にトラック部門の特別な車両が被災地で必要になるだろうと判断、緊急支援を行うことを決定しました」と、ダイムラー AG東京代表事務所のフリーデマン・ブリュール代表。

ダイムラー AGは、震災からわずか1週間後の3月18日に、200万ユーロの初動支援を、4月12日には、車両50台の無償貸与を発表した。4月15、16日には、世界最大のロシア製航空輸送機「アントノフ」で、日本の地を初めて踏む「ゼトロス」8台を含む車両20台がドイツから成田空港に到着した。

その後、同グループの日本法人であるメルセデス・ベンツ日本(株)と三菱ふそうトラック・バス(株)の車両合わせて計50台が、被災地の自治体やそこで活動するNPO等27団体に貸与され、がれきの処理や港の整備、土木資材の運搬等に活躍した。



被災地のがれき処理や土木作業に必要な車両を寄贈  
復旧・復興の促進を支援する

D A T A

|                |                                |
|----------------|--------------------------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 約4億8000万円(空輸代含む<br>車両価値相当額として) |
| 期間             | 2011年4月から2年間                   |
| 場所             | 岩手・宮城・福島・茨城の各県                 |

| ダイムラーAG支援車両50台の内訳         |     |
|---------------------------|-----|
| オフロードトラック「メルセデス・ベンツ ゼトロス」 | 8台  |
| 多目的作業車「メルセデス・ベンツ ウニモグ」    | 4台  |
| オフロード車「メルセデス・ベンツ Gクラス」    | 8台  |
| 三菱ふそう小型トラック「キャンター」        | 30台 |

### プロジェクト概要

〈被災地側ニーズ〉

がれき処理やがれき等に埋もれた漁場整備のための大型作業車両や人員輸送車両が不足。

〈企業側の支援方針〉

ドイツの本国は被災地復旧・復興時においては上記車両が必要との判断をし、緊急支援を即決。車両を補修部品と共に寄付。

〈マッチングのポイント〉

・復旧に不可欠な車両を即時に判断、空輸で一気に20台を輸送するスピーディーさ。  
・車両整備窓口を現地に置き、メンテナンスや現地のニーズに沿った車両改造等をワンストップで実現。

### 成果

被災地の車両不足に加え、大量のがれき等で道なき道が多い中、悪路をものともしない車両は各地で大活躍。がれき処理以外にもイベントや地域の見回りに活用された。日本初上陸の車という珍しさも手伝い、被災地に勇気と元気を与えた。



## 日本政府も迅速な協力体制で 特殊車両の受け入れを可能に

贈呈された車両のうちメルセデス・ベンツの20台には、国内排ガス規制や車両の規制に適合していないものもあった。しかし、世界一悪路に強いといわれるウニモグや、水深1.2mまでは水中でも難なく走行できるゼトロスは、被災地で役立つことは明らか。そこで、貿易管理を担当する経済産業省、車両の基準や道路を管理する国土交通省に関係者が通って交渉。災害支援を目的とした2年間の期限付きで特例として輸入が認められた。

「当初は車両登録を行うことを考えていたのですが、そうすると認証を取るのに最低でも1年かかることが分かりました。それでは被災地の支援になりません。なんとかすくすくということで国交省に相談し、基準緩和の認定手続きを取ることにしました。この手続きについて担当運輸局は異例の早さで審査を行ってくれ、臨時運行標を発行。これらのご協力により、早期に日本の道路で活動することが可能になりました。また、ゼトロスは全幅が基準オーバーのため、特殊車両通行許可申請が必要となりましたが、運行許可手続きも国や県等が迅速な審査をしてくれ、早期投入が実現しました」と、三菱ふそうトラック・バスの本多通弘さん。

提供から1年を経た現在、車両の所有者となっている日本財団では、被災地のがれきの撤去状況や要望を見ながら、さらに最適な場所への車両の貸与を考えているところだ。

## 未来の豊かな東北をつくる 東北人のリーダーを育成

ダイムラー AGは、被災地への緊急支援をする一方で、長期的な視野に立った支



赤い斜線の入った仮ナンバー。ダイムラーAGの支援に国も異例のスピードで対応、被災地で迅速に活用された。



4月15日、ドイツから成田空港に到着したダイムラーの支援車両。ダイムラーAG東京代表事務所のフリーデマン・ブリュール代表から日本財団の笹川陽平会長にキーが手渡された。



## 2015年までに被災した地域の 創造と変革を担うリーダーを育成し 被災地で新しい雇用環境を創出する

援も併せて行うべきとの考えから、被災地の人材育成と雇用の促進に対する金銭的援助を行った。

被災地の復興に欠かせないのは、地域に根を下ろしたリーダーの存在。災害からの復興という難題を前に、豊かな創造力と揺るがない信念を併せ持ったリーダーを育成し、また協力し合える人的ネットワークをつくるために、ビジネススクールとして実績を持ち、東北で唯一となるMBAビジネススクール「グロービス経営大学院仙台校」とタッグを組んだ。

同社からの資金は、3年間に合計110名の特別奨学金として、また特別講座の設置と、卒業後の新規事業立ち上げのスタート資金として1事業につき上限500万円の助成に使われることが決定している。前出のブリュール代表は「この支援以外にも、授業の中で講義したり、工場見学に招いたり、できる限り成功に向けた貢献をしたい」と話している。

### D A T A

|                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 2億円                   |
| 期間             | 2012年4月～2015年3月       |
| 場所             | 学校法人グロービス経営大学院<br>仙台校 |

### プロジェクト概要

〈被災地側ニーズ〉  
被災地を立て直すだけでなく、飛躍させるような創造力ある事業を創出する、地元を根を下ろしたリーダーの存在が必要。

〈企業側の支援方針〉  
未来の東北の発展を担う人材を地元で育成することによって、被災地の復興に寄与する。

〈マッチングのポイント〉  
震災から1年が経った今でも、将来の町の姿やビジョンが見いだせていない被災地において、新しくビジネススクールを開校する企業とタッグを組むことで、人材育成・雇用の創出を図る。

|                  |
|------------------|
| 成果               |
| 2012年4月、第1期生が入学。 |

# クルマを届けよう!プロジェクト

株式会社リクルート「カーセンサー」



MISSION

被災地支援団体（NPOなど）への  
車両提供を通じて、被災地の復旧や  
復興を継続的にサポート

D A T A

規模  
(金額・リーチ)

45台 (2012年3月31日現在)

期間

2011年8月1日に第1号車を納車。現在も継続中

場所

岩手・宮城・福島県

## プロジェクト概要

〈被災地側ニーズ〉

地震と津波で24万台の車両が喪失。その後の中古車の不足や価格高騰により、支援団体の活動が困難になった。

〈企業側の支援方針〉

被災地の中古車ビジネスへの影響も配慮しながら、支援団体に車両を無償提供する。

〈マッチングのポイント〉

主に日本財団のネットワークを通じて被災地支援団体のニーズを調査。被災地のニーズをくみ取り、「適車適所」で車を届ける。

成果

地元のボランティア団体、特別養護老人ホーム、在宅避難世帯への支援団体などに提供。震災から1年以上を経た現在も支援を継続できるスキームを確立した。

## 情報誌の立場から一歩踏み込んだ カーセンサーの車両支援

リクルートの中古車情報誌「カーセンサー」の「クルマを届けよう!プロジェクト」は、被災地支援団体への車両の無償提供を行い、被災地の復旧や復興を支援している。

プロジェクトは、カーセンサーの支援趣旨に賛同した中古車買取・査定会社JCMや日本財団、NPOなどが協力して運営されている。車両の調達や譲渡に必要な手続きはJCMが行い、日本財団は支援先の選定をサポートするほか、輸送や車検などの諸費用を負担している。当初は、カーセンサーが車を買上げる形で始まったが、プロジェクトの認知度が上がるにつれて、企業や個人から寄付される車両も増えていった。

「カーセンサーでは、被災地で営業している中古車店の情報をネットで提供するなど、メディアとしての支援を行っていましたが、中古車に関わる者として、もう一歩踏み出そうと思いました」と自動車事業本部 グループエグゼクティブの長尾吉祐さん。ただ、カーセンサーには実際の中古車取引や災害支援の経験はなく、実現には、車両の調達から提供までのスキームを新たに構築する必要があった。その際には、被災地の中古車ビジネスを阻害しないように注意する必要もあった。

車両の品質には細心の注意を払っている。「震災後の初期段階では、粗悪な車を販売する悪徳業者や、支援車両の車両トラブルが多発していたことから、日本財団とも協力して入念な整備と検査を実施しました」と、自動車事業本部 MP統括部 商品企画グループの山本祐介さん。上記のような背景から、提供車両は第三者の検査機関AISによる検査を経た、カーセンサー認定車となっている。

「支援が実現したのは、JCMや日本財団の他にも、各分野の専門家が集まって協力してくれたおかげです。JCMは自ら被災しながらも、進んで協力を申し出てくれましたし、輸送業者の協力もありました。企業単体では難しい支援が、皆の力を合わせて可能になりました」（山本さん）。

## 現地NPOとの接続がスムーズに

「日本財団と一緒に活動することは、多くのメリットがありました。財団のネットワークによって、具体的な支援先とつながりましたし、支援のプロが加わることで、支援先とのやりとりもしやすくなりました」（長尾さん）。

届けられた車両は、被災地のボランティア団体や特別養護老人ホームなど、さまざまな支援に使われている。「現地の変化に合わせて、やり方は変わってくるでしょうが、被災地から"もう要らない"と言われるまで続けたい」と長尾さん。カーセンサーのプロジェクトは2012年4月現在も継続中である。



被災地の空き地には津波で使えなくなった車が集められている。



# 中古車1000台寄付プロジェクト

株式会社ガリバーインターナショナル



MISSION

被災地の自治体や、復興支援活動を行う団体に  
中古車1000台を寄贈することで、東北の復興をサポート

D A T A

|                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 規模<br>(金額・リーチ) | 中古車1000台<br>(うち、日本財団経由13台) |
| 期間             | 2011年3月14日~2012年2月29日      |
| 場所             | 岩手・宮城・福島県                  |

## プロジェクト概要

〈被災地側ニーズ〉

多くの車両が被災し、交通機関もまひしたため、現地での支援活動や外部から支援に向かう車両が不足した。

〈企業側の支援方針〉

中古車買取・販売会社ならではのスキルや資産を活かしたスピーディーで責任ある車両支援。

〈マッチングのポイント〉

ツイッターなどのネットメディアを活用して、幅広く支援要請を受け入れた。日本財団からの情報を基にした車両提供も行った。

成果

1000台の車両が400を超える自治体や復興支援団体に提供され、幅広い支援活動に使用された。日本財団経由の支援では、主に被災地で障害者支援や医療支援を行っている団体に寄付された。

## 中古車のガリバーだからこそできる支援を

中古車買取・販売大手のガリバーインターナショナル（以下「ガリバー」）は、2011年3月14日朝の役員会議で、被災地に中古車1000台を送る支援策を決定した。「自ら車両を送ることに決めたのは、中古車のガリバーだからこそできる支援をやるという意識があったからです」と、マーケティングチーム チームリーダー 北島昇さん。

「当初は、車両を現地の行政に渡す計画でしたが、今回は行政機関も大きな被害を受けており、情報収集や車両の受け入れに非常に時間がかかる状況でした。支援方法を模索するなかで、いち早く復興支援活動を開始していたNPOなどが、車がなくて困っているという情報が入ってきました。そこで、一刻も早く支援を行うため、こうした支援団体に直接渡していくことにしました」。

活動の主な窓口となったのはツイッターである。特に初期のころは、ツイッターで寄せられた支援要請や情報を基に、電話やメールで支援先とのやりとりを進めることが多かった。提供車両の利用状況は、逐次、フェイスブックやプレスリリースで開示していった。

車両の譲渡には、さまざまな事務手続き

や輸送も必要だが、これは同社の日常業務の流れで処理することができた。「車両の調達から実際にお渡りするまで責任を持つことは、本業をベースとした支援だからこそ可能でした」。提供車両は4月から順次、支援団体に納車されていった。また、車両の譲渡より貸与の方が利用しやすいという団体も多く、こうしたニーズにも柔軟に対応した。

## 日本財団経由では、障害者支援団体などへ車両を提供

日本財団との協力は、同じく現地への車両支援を行っていた財団の担当者が声をかけたことで始まった。

「日本財団のネットワークには、実際に活躍しているNPOがたくさんあり、信頼して車両を渡すことができました。当社は支援先の詳しい評価まではできませんから、財団とは、良い役割分担ができたと思います」。日本財団を経由した支援車両にかかる諸費用は財団側で負担した。財団経由では、13台の車が障がい者支援団体などに届けられた。

2012年2月29日をもってプロジェクトは終了、1000台の車両は400以上の自治体や支援団体の活動に役立てられた。同社では、本プロジェクトに続く、新しい支援方法を検討中である。

# CIPAフォトエイドプロジェクト

写真と映像の力で過去と未来をつなぐカメラ映像機器工業会の支援基金



写真の修復や、写真や映像の記録  
展示などの活動を支援することで  
被災地の心のケアや交流をサポートする

MISSION

D A T A

規模  
(金額・リーチ)

計18の事業を支援。1事業当たりの上限金額は500万円。総額は非公開

期間

2011年7月25日～10月末日に募集

場所

地域は限定なし。申請のあった支援団体から審査を経て選出

## プロジェクト概要

〈被災地側ニーズ〉

震災で大量の写真が汚損、その復旧と持ち主への返還が課題に。被災状況や支援活動の記録も必要とされた。

〈企業側の支援方針〉

写真や映像で人々の生活を向上させるというCIPAの団体趣旨に沿った支援活動を資金面から支える。

〈マッチングのポイント〉

日本財団との連携で、公募で申請のあった団体の中から、団体の信頼性や事業対象領域のとの整合性、内容・予算の妥当性などを総合的に判断して決定。

成果

写真の修復や返還、被害状況やNPOの活動記録、写真展、写真集の発行など、さまざまな活動を支援。被災者の心のケアおよび、被災地と他の地域との交流の促進にも役立てられた。

東日本大震災では、地震や津波で汚損した写真を修復して返還する活動に多くのボランティアが参加した。また、震災前の町並みの写った写真や映像を保存したり、被災状況や復興の様子を後世に伝えるために記録・発信するといった活動も各地で行われている。今回の震災は、写真や映像の持つ意味や力を再認識する契機ともなった。

CIPAフォトエイドは、こうした写真や映像関連の被災地復興支援活動を支援するためにつくられた基金である。一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA)と日本財団が共同で設立した。CIPAは、カメラや映像機器のメーカー多数が加盟する業界団体。設立資金は、趣旨に賛同したCIPA会員企業からの寄付で賄われた。

「震災後、CIPA加盟の各社は、それぞれ独自に支援活動を行っていましたが、CIPAとしても何か支援をしたいという声が





上がり、5月にプロジェクトを立ち上げ、支援内容の検討を始めました」と、プロジェクトのチーフを務めたソニー パーソナルイメージング&サウンド事業本部 品質オペレーション部門 品質推進部 品質担当部長の鈴木栄次さん。

### 日本財団との連携で短期間に基金の設立と運営をスタート

基金への応募受付や団体の審査、覚書の締結から支援金支払といった業務は、日本財団が窓口となり、CIPAと連携しながら行った。

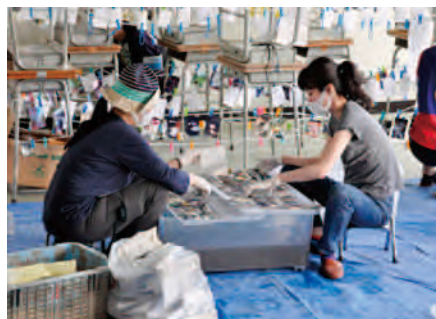
「CIPAでこうした支援を行うのは初めてでした。少人数で運営されている組織なので、どこか支援のノウハウを持っているところと組む必要がありました。日本財団は、こちらの趣旨を素早く理解してくれ、短期間に協力体制をつくることができました。特に、団体の信頼性などの審査や、資金提供後のフォローをしていただいたことは助かりました」と、プロジェクトのサブチーフであるニコン経営企画本部 CSR統括部 社会貢献室長の山崎英雄さん。

公募は2011年7月25日から10月31日までの期間で、インターネット上で行われた。応募申請があったのは59件。審査を経て、最終的に選出されたのが18件だった。選出された団体には、NPOの他、学会や高校の写真部も含まれていた。8月中旬から活動資金の支給が開始され、11月中旬にすべての団体に行き渡った。

### デジタルフォト時代ならではのユニークな支援活動も

フォトエイドプロジェクトの支援を受けた団体は、それぞれの方法で支援活動を展開している。例えば、写真の修復とアーカイブ事業である日本社会情報学会(JSIS)の「思い出サルベージアルバム・オンライン」では、顔画像認識を生かした写真検索を提供し、デジタルフォト時代ならではの手法として注目を集めた。

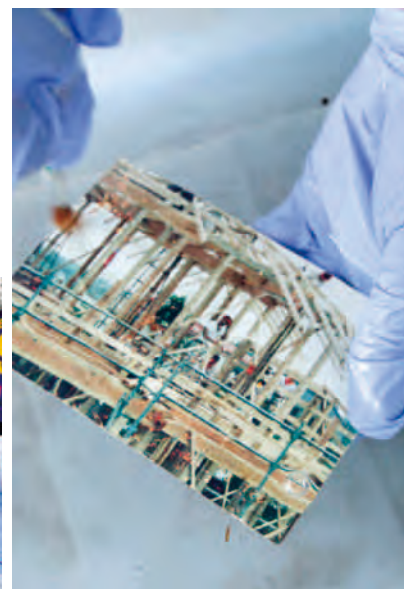
また、「高校写真部による東日本大震災復興応援プロジェクト」は、日本最大のカメラ展示会CP+2012において、メッセージ写真の展示や写真集の配布を実施。会場では写真集を求めて、長蛇の列ができ



た。各団体の活動状況は、CIPAフォトエイドプロジェクトのWebサイトで公開されている。

「今回の活動は、CIPAとしても新しい取り組みでしたので、きちんと記録を残しておきたい」とCIPA事務局の担当者。

CIPAでは、現在、フォトエイド第2期の実施に向けて検討を行っている。



84ページ、および上2点の写真提供：日本社会情報学会災害情報支援チーム(JSIS-BJK)。

| CIPAフォトエイドの対象事業                  |
|----------------------------------|
| ・写真や映像記録の作成・保存・閲覧                |
| ・震災からの復興記録に関する記録者の育成、記録媒体や機材の整備等 |
| ・汚れてしまった写真の洗浄・整理や卒業アルバム等の再制作     |
| ・写真や映像を活用した展示会やイベントの開催等          |

# 中長期的な復興を支える企業の貢献

「民から民」への支援の中核として、企業の力が中長期的な復興を支える。

## キリンビール株式会社

### 水産業支援「絆」プロジェクト基金

支援対象 岩手・宮城・福島の水産養殖業（従事者）

「復興応援 キリン絆プロジェクト」は、「絆を育む」をテーマに、キリングループ各社が一体となって取り組んでいる復興支援活動だ。3年間で約60億円を拠出し、継続的に復興支援に取り組んでいく。

プロジェクトは、大きく「地域食産業の復興支援」「子供の笑顔づくり支援」「心と体の元気サポート」の3つの幹に分かれている。キリンビールと日本財団が協力して取り組んでいるのが、「地域食産業の復興支援」の一つである水産業支援だ。

「我々も飲料で食文化に関わっている会社ですから、同じ仲間として、農業と水産業の復興支援をプロジェクトの幹の一つに挙げました」と、CSR推進部CSR推進担当主査の古賀朗氏。

絆プロジェクトの水産業支援では、東北三県の養殖業の復興を対象としている。岩手県のわかめ、宮城県の牡蛎、福島県の青のりを中心に

支援する。2011年9月から11月末までに実施した「今こそ！選ぼうニッポンのうまい！2011」プレゼントキャンペーンの対象商品について、売り上げ商品1本につき1円を集めた資金などを活用し、初年度は約4億円の基金を日本財団で設立した。

2011年12月から始まった第一段階では、まず地震と津波で大きな被害を受けた生産設備の復興支援を行っている。各地の漁協を通じて集めたニーズを元に、養殖に必要なスカイタンク、フォークリフト、冷蔵庫といった設備への（復旧）支援が行われている。

「漁業に対しては、国からの支援もありますので、そこでの支援が行き渡らない部分をうまくカバーしたいと思います。日本財団は水産業支援に多くの実績があることから、協力して支援を行うことにしました」（同氏）。

2年目以降は、地域ブランドの活性化や後継

者育成など、より将来を見据えた支援活動を展開する予定となっている。



牡鹿漁業協同組合（宮城県）に提供されたコンテナ。ワカメの出荷作業に役立てられている。

## ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

### 仮設住宅におけるコミュニティリーダー支援

仮設住宅団地では、引きこもり、孤立世帯、活用されない集会所、住民の困りごとを解決する窓口の不足などが共通の課題としてあげられることが多い。1995年の阪神・淡路大震災では、震災から10年間に500人以上の孤独死があったが、仮設住宅などでのコミュニティづくりが不足していたことも原因の一つだったことが指摘されている。

岩手県大船渡市の場合、6地区に計約1800

戸の仮設住宅が建設され、約4500人の人々が暮らしている。同市はこの課題に対し、北上市に支援を依頼し、北上市はこれらの課題に対処するため緊急雇用創出事業を活用し、人材派遣会社と協働で「支援員」というスタッフ約80名を配置。地区マネージャー7人とコールセンター専門員4人が支援員の活動を支えるという体制をつくった。これらのスタッフは、仮設住宅の住民を含む被災者が中心となっている。

この枠組みは内陸部で被害の少なかった岩手県北上市と、NPO法人いわて連携復興センター（IFC）が共同支援協定を結び、協働チームとして支援を行っている。

2011年9月には業務を開始。支援員は平日朝8時半から夕

方5時半まで各地区の集会所・談話室に常駐し、1人30世帯ほどの担当世帯を毎日訪問して、声掛けなどを実施。同じ被災者の支援員が仮設住宅を回ることで、住民も要望などを伝えやすくなったという。

しかし、仮設住宅に常駐する「支援員」制度は、仕組みを導入しただけでは適切な被災者支援に繋がらない。住民の方々と接する支援員のスキルアップのための研修、行政やNPOなど外部からの支援と適切に繋ぐ役割や、住宅におけるトラブルの解決などきめ細やかなサポートが必要であり、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会はその部分に支援を行っている。また、大船渡市でモデル事業として始まった「支援員」制度は他の自治体からも評価され、釜石市や大船渡市でも導入され始めており、そのような他市町村への制度の横展開にも支援が活用されている。



岩手県の仮設住宅で見回りを行う支援員。

支援対象

NPO法人いわて連携復興センター、いわてNPO-NETサポート、@リアスNPOサポートセンター等



被災地の復興で大きな力となっているのが、各企業からの支援だ。  
ROAD PROJECTには、200社を超える企業から各社の製品や備蓄などの  
支援物資が提供されたほか多額の支援金も寄せられた。



地域のニーズと企業の支援を  
マッチングして復興を後押しする

## サッポロホールディングス株式会社 東北の未来を担う人材育成支援

支援対象 日本財団「ハタチ基金」コラボ・スクール事業

サッポログループは2011年9月に恵比寿ガーデンプレイスで開催された「恵比寿麦酒祭」や、8月4日「ビヤホールの日」に全国のサッポロイオンチェーンで開催されたイベントなどでの樽生ビールの売上の全額、または一部を日本財団が主管する「ハタチ基金」に約2600万円を支援金として寄付した。

ハタチ基金は、日本財団を含め5つの団体が、東日本大震災で被災した子どもたちが、震災の苦難を乗り越え、社会に羽ばたく人材になることを目指して立ち上げた基金。乳幼児から高校生ままでを対象に、さまざまな支援活動を行っている。(48-49ページ参照)

今回、サッポログループが支援するのは、

被災地の小・中学生、高校生を対象とした「コラボ・スクール」。避難所や仮設住宅での生活で学習環境が悪化した子どもたちのために、学びの場を提供するために開設された“放課後学校”だ。第1校目の「女川向学館」は2011年7月、津波で大きな被害を受けた宮城県女川町の小学校校舎を利用して開校、現在は約230人の子どもたちが通っている。また、被災した塾講師が授業を担当しているのも特徴の一つだ。

サッポログループからの支援を受けた日本財団の担当者によると、子ども向けの支援を考える企業は多く、被災地では文房具など学習道具は行

き届いている一方で、塾の運営や講師の人件費などソフト面での支援はまだ不足しているという。

「コラボ・スクールの運営のために使ってほしいというサッポログループの支援は非常に助かりました」と担当者。

同社の支援もあり、2011年12月には、岩手県大槌町に2校目の「大槌臨学舎」が開校した。



2011年12月に開校した岩手県大槌町のコラボ・スクール「大槌臨学舎」。

## 味の素冷凍食品株式会社 東日本大震災農家応援「3R-Step Project」

味の素冷凍食品株式会社では、東日本大震災による被災地の農業復興支援のために立ち上げた、「ギョーザ」類1袋につき1円を支援金として寄付する『東北に元気を!明日を耕すプロジェクト』を実施している。このうち、700万円が日本財団に寄付された。2012年3月26

日、日本財団で行われた贈呈式には、同社の代表取締役社長の吉峯英虎氏も出席した。

日本財団では同社からの支援金をもとに、NPO法人農家のこせがれネットワークとともに被災した農家の復旧を行うと共に、経営的な自立を目指した商品のブランディングや販路の拡大などを支援することを決定。「3R-Step Project」として活動を開始した。東北地方の農業は、震災以前から高齢化や後継者不足などの問題を抱えていたが、今回の支援は、震災からの復旧だけでなく、東北地方の農業の将来を支える人材を育成することも目的としている。

第一段階の「Recovery」のプ

ログラムで、支援を受けたのは、宮城県亶理町の「鈴木観光いちご園」を運営する鈴木信元さん(36)。

津波によって自宅もビニールハウスも全壊。海岸沿いの畑も、塩害により、いちご栽培を続けることは難しくなっていた。その後、別の土地が見つかり、手作業でハウス設備を建設。震災前の3分の1ほどの規模で、2012年1月21日に観光いちご園を再開することができたという。

2012年夏以降、「Reproduce」「Restart」と支援の段階を進めていく方針だ。

味の素冷凍食品は、『東北に元気を!明日を耕すプロジェクト』で、日本財団のほかに2つの団体にも支援金を寄付している。

支援対象 NPO法人農家のこせがれネットワーク



新しい土地で再建の始まったいちご園。

鼎談

# 被災地に 必要なのは 希望の光



公益財団法人 日本財団 会長

笹川 陽平



株式会社 石巻日日新聞社 報道部長

平井 美智子



一般財団法人

ダイバーシティ研究所 代表理事

復興庁 上席政策調査官

田村 太郎



2011年3月11日の衝撃から1年が過ぎた。さまざまな専門性を有するNPO団体と連携しながら支援活動を展開するつなプロ\*1代表幹事の田村太郎氏、地域に根差して地域の人々と共に復興に向けて歩を進める石巻日日新聞\*2報道部長の平井美智子氏、そして自ら街頭募金を呼びかけ、被災地にいち早く入った日本財団会長の笹川陽平が石巻に集結。支援活動を通して見えてきた課題と、今こそ伝えたい思いを語った。

## 誰もが抱えていた孤独と不安

——東日本大震災から1年が過ぎました。改めて当時の様子を教えてください。

平井 石巻は昭和35年のチリ地震の時に津波を経験しているので、津波対策への意識は高く、防災訓練も行っていました。しかし、実際にチリ地震を体験した人は減りましたし、近年の津波は小規模でしたから、今回の大津波に動揺した人は多かったと思います。

私は地震のすぐ後、情報収集のために市役所へ向かいました。程なく津波で建物内部は胸の高さまで浸水。2日間も水が引かず、ようやく市役所の外に出られたのは13日午後でした。一方、会社に残っていた社員は壁新聞を作成し、歩いて行ける範囲の避難所やコンビニの店頭に張り出しました。どの避難所も千人単位の被災者がいて、情報が寸断した状態で孤立していたため、それぞれが「自分たちだけが被災者」だと感じ、「なぜ救援も支援もないのか」「自分たちは見捨てられたのか」と不安を募らせていたそうです。壁新聞によって石巻地方全体が被災していることを知り、救助や支援が始まりつつあることなどが分かると、徐々に被災者は落ち着きを取り戻していきました。

田村 災害時の救援は、スピードとボリュームが大切です。しかしスピードとボリュームを優先すると、高齢者や障がい者など特別なケア

を必要とする人たちをフォローすることができません。阪神・淡路大震災では避難所での関連死が500人、震災後3年間の孤独死は240人に達しました。このような事態は何としても避けたい。そこで着目したのがNPOでした。普段から特別なニーズに対応する活動を行う団体が地域にたくさんあります。そうした団体のメンバーが避難所を回って細かなニーズを拾い集め、専門性を持ったNPOの活動に結び付けようと考えたのです。

偶然にも14日にCANPANプロジェクト\*3のミーティングがあったので、その構想を提案。日本財団が支援を即決してくれたおかげで、早々に「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（つなプロ）」を発足できました。私は代表幹事に就任し、石巻のNPOと連絡を取り合い、18日には先遣隊と共に被災地での活動を開始しました。

笹川 日本財団では震災直後から募金活動などを行っていましたが、最初に大きな支援策を発表したのは29日でした。きっかけはその2日前のテレビ番組。一人の漁師さんが海を眺めて「自分の人生は終わった。漁船を失って海にも出られない」と悲痛な面持ちで語っていました。それを見た私は「今必要なのは希望を持てるようにすることだ」と直感し、「死者・行方不明者1人当たり5万円の弔慰金・見舞金\*4」「上限1億円の漁船・交通船所有者等向け緊急支援融資制度新設」「100万円以下のNPO、ボランティア活動を書類審査で迅速助成」という3つの支援策を打ち出しました。





5万円の現金支給に対しては不安の声が上がりましたが、いざとなれば私が全責任を取ればいいと考え、4月4日から支給を開始しました。当日、弔慰金と見舞金をお渡しする場所へ行くと、開始予定時刻の1時間も前から待っている方がいたので、予定を早めて支給を始めました。それから半年かけて、対象となる8割の方に支給することができましたが、当初心配していたトラブルは1件も起きませんでした。中には、ご主人と奥さまがそれぞれに受け取ってしまったことに気づき、重複分を返却に来られたご夫婦もいらっしゃいました。また、行方不明者のご家族は見舞金を受け取った後に病院にいたことが分かって、返しに来た方もいました。

## 生きていくための希望の光

**平井** 日本財団に対しては以前から海洋分野に強いイメージがありましたが、さすが専門性が高いと感じたのが、宮城県水産高校への教習艇と実習艇の贈呈です。同校は震災後、農村部で授業を再開したものの、舟艇を津波で流出、破損したために実習を行うことができませんでした。規定に合う舟艇で教習を受けなければ免許を取得できません。最悪の場合、生徒たちの学んだ歳月が無に帰す可能性もありました。それを憂慮しているところに舟艇が寄贈され、先生方は心から喜んでいました。

**笹川** 現状は厳しくとも、将来に希望を持ってもらう。これが私たちの活動のコンセプトです。水中ロボットを使って海の底を撮影した海中状況調査も、支援活動としては地味かもしれませんが、希望につながったと思います。漁協の皆さんは映像を見て「こんなに海がきれいなら、また仕事ができる」と言って笑顔を見せてくださいました。

**田村** 阪神・淡路大震災では居住地と職場が離れていたのに、自宅を失っても仕事を続けられる方が多かったのですが、東日本大震災では自宅と仕事場が一体化しているケースが多く、すべてを一瞬にして失った方も大勢いらっしゃいましたね。

**平井** 漁業・水産業を営む人たちは津波に何もかも奪われ、漁場が痛手を負ってもなお、海がないと生きられません。だから、日本



財団が漁業復興支援として船舶やフォークリフトなどを寄贈してくださったことはまさに希望を与える行為そのものでした。仕事は人間が生きる上で大切なことで、仕事再開のめどがついたことで日々の生活に張りが出たと思います。

**笹川** 石巻日日新聞が発行した壁新聞も被災者に希望を与えたのではないですか。

**平井** 先行きも何も見えない状態でしたから、情報は闇を照らす希望の光になると信じ、意図的に前向きな情報を取り上げました。ペンを枉(ま)げるということではなく、死者・行方不明者の数や被害の状況はいずれ分かることで、急いで伝える必要はないとの判断です。

震災翌日の新聞は情報量が少ないために文字が大きく、今読み返すと誤りもありますが、とにかく書ける範囲のことを書きました。その後は救援隊到着やライフライン復旧、ラジオの安否情報や炊き出し情報など、被災者にとって必要かつ前向きな気持ちになれる記事が増えていきます。文字が小さくなり、内容も充実していきました。壁新聞最終号の3月17日号には電気の復旧拡大を受けて「希望が見えてきた」という女性のコメントを掲載しています。

## 関東大震災でも同じデマが流れた！

——壁新聞のエピソードはドラマ化されたり、記者クラブ特別賞を受賞したり、大いに話題を集めました。

**平井** 輪転機が動かないから仕方なく手書きにただけで、私たちは特別なことをしたとは思っていないので、少し照れくさいですね。今年創立100周年の当社にとって、壁新聞は長い歴史の中のたった6日間の出来事でした。ある人が「避難所で壁新聞を見たときは“何これ？”と思ったけれど、『石巻日日新聞』の題字を見て信じるのができた」と言ってくれましたが、この言葉が何よりの真実で、諸先輩方が営々と築いてきた100年の歴史があったからこそ壁新聞を読んでいたのだと思います。当社では今年目標として「脱・壁新聞」を掲げています。本当に大変なのはこれから。震災後は購読部数が減りましたから、企業としてどう経営すべきか、課題は山積しています。

**笹川** 石巻日日新聞のような地域密着の地域紙に対して、大手新聞を全国紙と呼びますが、常々適切ではない表現だと思っています。首都圏や関西圏の一部では確かに大手新聞がトップシェアですが、そのほかの地域では大抵、地元紙が人気ナンバーワン。全国紙でも何でもありませんよ。福井県では地元紙の福井新聞がシェア76%以上を誇るのだそうです。

**平井** 地域紙に求められているのは現実に即した情報です。全国紙の場合は被災地の様子を伝えるために読み物風の記事も必要ですが、地域紙は読者全員が被災者ですからニーズが異なります。生活する上で必要な、具体的な情報に重点を置いた紙面づくりに努めています。それよりも地域で暮らしていくために必要な情報を



きちんと届けるべきです。今新聞は厳しい時代だといわれていますが、全国紙と地元紙は期待される役割が違いますので、すみ分けができると思います。

**田村** インターネットやスマートフォンなど、これだけ電子メディアが発達しているが、東日本大震災では阪神・淡路大震災の時とまったく同じような内容のデマが、同じタイミングで流れたのをご存知ですか。「2週間後に再び大地震」「〇〇人が強奪行為」といったデマです。調べてみると、なんと関東大震災でも同じでした。いくら媒体が進化しても、デマに翻弄される人間の本性は大して変わらないのかもしれませんが。だからこそ地域の確かな情報を提供する地元紙に価値があるのではないのでしょうか。

## 本当に必要なモノとコトを見極める

**平井** インターネットなどの新しい媒体には助けられた部分もあります。誰かがツイッターで「これが必要」と発信すると、その情報を受けた人たちが全国から物資を送ってくれました。しかし、ありがたいと思うと同時に、難しさも実感しました。被災地では刻一刻と状況が変化するので、物資が届いたときにはもう必要がないことも多かったんです。例えば、前日は食べ物が欲しかったけれど、午前中にどっさり届いたから、今度はおむつが欲しい、次の日は着替えが欲しい、という具合に自分たちでも驚くくらいニーズが変化していきました。

**笹川** 受け手と送り手のギャップを私は“タイガーマスク現象”と呼んでいます。震災の少し前、養護施設に匿名でランドセルが寄贈されて話題になりましたね。美談の報道を受けて、全国各地の施設にはランドセルや雑多な物資が届きました。送り手は善意の行動なのでしょうが、受け手にとって必要なものが必要なときに届かなければ、善行は完結しません。例えば、食料が行き渡っているのに大量のカップ麺が届いても、受け取った行政機関は保管場所に困り

ますし、各避難所に分配するにしても手間と時間がかかるので結局廃棄せざるを得ません。復興支援ではニーズのマッチングという、目に見えないソフトウェアの部分が重要です。お金だけで解決できるものではありません。

**田村** 被災地においてニーズのマッチングを図るには、予測が命です。つなプロはまさにそこを重要視しました。いまだに「被災者に必要なものを聞くのが最良」という考え方が根強いですが、これはぜひ改めてほしい。本当に困っている人は何もかもが不足し、必要なものを挙げることもできません。質問したところで「欲しいものは特にありません」という答えになってしまう。ですから、支援者がニーズを予測してメニューをつくり「この中のどれが必要ですか」「AとBならどちらがいいですか」と尋ねるべきなのです。ニーズは聞き取るものではなく確認するものです。そのためにはニーズ予測の精度を上げることが大切です。これまでの災害で蓄積してきた経験とともに、避難所を回って収集したデータを基に、つなプロではニーズ予測の精度を上げる努力をしました。

## これまでの災害を経て蓄積したノウハウ

——ニーズの予測をもう少し詳しく教えてください。

**田村** 阪神・淡路大震災の時は参考とする先例に乏しく、すべてが手探りで、良くも悪くもワン・アンド・オンリーのボランティア活動だったんです。その後、中越地震や中越沖地震を経て被災地で発生するニーズの比較や活動内容の検証を行うことができました。その検証結果が東日本大震災の支援活動に生かされたと思います。

ただし、経験だけに頼りすぎると判断を誤ることがあるので、今回はデータを重視しました。つなプロのメンバーは宮城県内の全避難所を回り、トイレの数やくみ取りの回数に至るまで、ありとあらゆるデータを収集しています。ボランティアから「トイレを数えるよりも、一つでも多くの物資を届けたい」との意見も出ましたが、そ





れは他の支援団体がやってくれます。つなプロがすべきことは統計を取り、ニーズを予測し、次を取るべき行動を導き出すこと。今振り返ってみると、大変重要な役割を果たしたのではないかと思います。

**笹川** 世界中の支援活動を見渡しても、つなプロの活動は特筆すべきものです。私を知る限り、このような活動を実践した例は他にありません。本来、避難所を回ってデータを収集するような活動は、内閣府の非常災害対策本部の仕事。ところが、今回はすべてにおいてNPOが先を行き、国はNPOの活動を後追いするような格好になりました。つなプロはあまり表に出ていませんが、活動の基礎となる部分で果たした役割は大きい。ぜひとも今回の活動記録を世界に広めて、将来の対策に生かしてほしいと思っています。

**田村** 災害対策や支援活動等のノウハウを共有することは大切なことですよね。実は我々が作成した避難所の評価シートは、国連が難民キャンプ用に作ったものをアレンジしたものです。2011年10月にトルコ東部で大地震が発生した際には、トルコで活動する支援団体に我々が使った評価シートを提供しています。

## 若者人口の激減で懸念される事態

**笹川** 数々の支援活動の中で、一つ気になっているのはボランティアのことで。震災後すこしたってから、ボランティアの来県をけん制するような発言が物議をかもしましたね。あの発言の真意はどこにあったのでしょうか。

**平井** ちょうどゴールデンウィークの前で、ボランティアが大挙して押し寄せることが懸念されていた時期の発言だったと記憶していません。その時はボランティアの受け皿が整っておらず、被災地で混乱が起きることを避けたかったのではないのでしょうか。

**田村** 災害ボランティアの受け皿は各地の「社会福祉協議会」が「災害ボランティアセンター」を立ち上げてコーディネートするのですが、立ち上げには時間がかかりました。今回私は震災1週間後に被災地に行きましたが、想像以上にボランティアの数が少なく衝撃を受けました。少ない理由として「都市部からだ」と被災地が遠い、「原子力発電所事故が心配」などが考えられますが、最も影響したのは少子高齢化でしょう。18歳人口の統計を見ると、阪神・淡路大震災当時と比べて若者が3分の2に減っています。その代わりに目

立ったのが団塊世代のボランティアでした。

私が懸念しているのは10年後です。若者はさらに減り、団塊世代は今度はケアを受ける側に回るでしょう。そこに大災害が起きたらもはや国内だけでは支えきれないかもしれません。海外からのボランティアの受け入れを今から考える必要があります。

**笹川** そのためにも各国との関係性を築くことが大切です。日本財団ではダイムラーグループからオフロード車など50台と200万ユーロ(約2億3800万円)を、カタール政府から最大で40億円を寄付としてお預かりしているほか、さまざまな形で東日本大震災復興へのご支援を賜りました。日本政府なども海外からたくさんの方の支援を受けていることと思いますが、このお礼を通り一遍の謝礼広告や動画配信で済ませてはいけません。総理経験者が使者となって各国を訪問するなど、直接誠意をもって感謝の気持ちを伝えるべきです。そういった活動が今後にもつながっていくのですから。

## NPOの活動資金をいかに集めるか

——今回はボランティアに行けない代わりに寄付をした人が多かったことも特徴的だと思いますが、いかがでしょうか。

**笹川** 以前から日本に寄付文化を醸成したいと考えていましたが、津波の映像を見て「私も何かしなければ」と思った人が多かったようです。日本赤十字(日赤)には早々に5000億円もの義捐金が集まりました。残念だったのは「すぐに役立ててほしい」という人々の善意を生かせなかったことです。公平な配分、というよりは批判を受けない配分を目指した結果、実際に被災者に届くまでに膨大な時間がかかりました。

しかし、それが義捐金と支援金の違いを伝えるきっかけになったことも事実です。日赤が預かる義捐金は被災者に公平に配分されますが、日本財団などに寄付したお金は支援金としてNPOなどの活動資金に充てられます。NPOはボランティアとして支援活動を行うので、交通費を捻出するのも容易ではありません。本来の通常業務もありますしね。しかし、警察、消防、自衛隊の応急対応の後に被災地で活動するのはNPOであり、復旧・復興で最も必要とされているのがNPOの活動を支える支援金なのです。

**田村** その通りです。これまで企業は、他社と横並びで赤十字や自治体へ義捐金を寄付してきましたが、それでは説明責任を果たせません。今後は株主が納得しないでしょう。支援金なら、自社の本業や地域の課題を勘案して寄付する団体を選べます。どこに寄付するのが最良なのか、自社の本業にマッチした寄付行為が求められています。

**笹川** もう一つ問題提起したいのが個人情報保護法です。要介護者や障がい者などNPOの支援が必要な人たちの情報を得るために、役所に協力を要請しても、同法が壁となって資料を提供してもらえなくなりました。情報がないために活動範囲が狭まり、助かるはずの命を助けられない可能性もあるのです。

**平井** 法令順守は大切なことですが、非常時にも四角四面の対応では困りますね。

**田村** 大規模災害の場合、防災計画に指定された避難所では限界があり、指定外避難所が設けられます。神戸と長岡で調査したデータでは、開設された避難所のうち「指定避難所」と「指定外避難所」の割合は6対4でした。これまでの災害では「指定外」避難所にも物資が届いたのですが、今回は届かなかったところが多いようです。どちらも同じ被災者です。事前に決められたルール通りに動くだけでは、機能しないんです。かといって、ルールを完全に無視す



るわけにもいきません。

2012年の2月に復興庁が設置されてから、私は上席政策調査官としても活動していますが、役所とNPOでは共通の言語を持っていないと感じます。役所には役所の論理があり、NPOにはNPOの考え方があり。両者の間に立って理解を深めるような、「通訳」が必要かもしれないと感じています。

## 本物のセーフティネットをつくる

**平井** 被災者の誰もが、復興庁が被災地につくられることを期待したのですが、発足までに1年もかかった上に、またしても本庁は霞が関。被災地にも一応の出張所がつくられたものの、職員と地元住民との対話は不十分です。どうやって地元の思いをくみ取るつもりなのか、菌がゆく思います。

**笹川** 私は1年の4割を海外の現場で過ごしています。なぜなら、課題も解決策もすべては現場にあるからです。特に今回のようなスピードを要する仕事の場合は現地に入り込んで活動する必要があるでしょう。

**田村** 神戸はもともと都市計画に熱心な市で、阪神・淡路大震災の2カ月半後には、役所から復興計画のガイドラインが提示されました。それを見た地元の人たちは「私たちが知らない間に話を進められては困る」と団結しました。役所が早く指針を示したことで、結果として住民が対話を深めるきっかけが生まれたのです。対話の口火を切れれば悪者扱いされるかもしれませんが、誰かがその役目を引き受けなければなりません。国や自治体がみんなに「いい顔」をしていては、話は前に進まないのです。

**平井** ささまざまな課題が噴出する一方で、少しずつ明るい話題も出てきました。例えば、石巻の水産業界は一国一城の主の集まりで、相互のつながりは薄かったのですが、復興のためには力を合わせる必要があると気付き、各自のパイプを生かして連携を図りつつ、仕事を始めています。この関係性が永続的かどうかは別としても、復

興という一つの目的に向かって歩み出したのは事実です。水産業界以外でも、異業種に進んだ同級生が震災を機に交流を再開し、新しい石巻ブランドを構築しようと、コラボ商品を開発したり、通販ルートを作ったりする動きも活発になってきました。

**田村** これからの地域づくりとして、「ヨコのコミュニティー」の強化を提案したいと思っています。地縁を軸にした地域内の交流を「タテのコミュニティー」だとすると、「ヨコのコミュニティー」とは例えば同じ持病の人であったり、同じ課題を持つ人であったり、同業者であったり、一見すると人数が少なくても地域を超えて連携すればまとまった人数になり、「災害時には胃ろうバックがいくつ必要」というような情報も見えてくるはず。地縁を軸にしたタテの連携は議論が進んでいますが、ヨコの連携はこれからです。このタテとヨコの網目を細かくすることが、本当のセーフティネットではないでしょうか。我々はタテ・ヨコの関係性を強化する取り組みを、次に取り組むべき「つなプロ」、つまり「つぎプロ」として取り組んでいければと考えています。

### \*1つなプロ

被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト。被災地の課題を抽出し、その解決のために専門性を持つNPOなどの団体を結び付けるために結成。主目的は要介護者や外国人、障がい者など、特別な配慮を必要としながらも支援活動では見落とされがちな層をフォローすることにある。

### \*2石巻日日新聞

今年100周年を迎える石巻の地元紙。震災直後から6日間、手書きの壁新聞を発行したことで知られる。自ら被災しながらも地域の人々に必要な情報を届け続けるという責務をまっとうした功績は各方面で高く評価されている。

### \*3CANPANプロジェクト

民、産、学の活動を支援し、三者の連携を促進することで、民間主体のより豊かな社会づくりに貢献することを目指す、日本財団および特定非営利活動法人CANPANセンターによるソーシャルプロジェクト。CANPANは、“Can(できる)”と“Panacea(万能薬)”を組み合わせた造語。

### \*4弔慰金・見舞金

弔慰金は、亡くなられた方のご遺族に対して支給される一時金。見舞金は、行方不明になられた方のご家族に対して支給される一時金。

\*文部科学省のデータ。3年前の中学卒業業者数を元にした推計。







**東日本大震災**

# 直後に撮影した大きな傷跡と3カ月後

2011年3月20日。震災直後に被災地入りした日本財団の先発隊は、驚愕の光景を目の当たりにして必死にシャッターを切った。そして、約3カ月後の6月29日に再び撮影地を訪れたとき、今度はがれきやヘドロなどが見事に片付

けられた光景に確かな前進を感じてカメラを構えた。ふたつの写真を見比べると、苦境に負けない日本人の底力が見えてくる。この再生の過程には日本財団ROADプロジェクト、泥かき隊の学生ボランティアたちも貢献している。







# に感じた東北人、そして日本人の底力

短期間で片付けられた石巻の大量のがれきやヘドロ——  
復興にかける意志が、重機やスコップを握る人々の手を動かし続けた







BEFORE



AFTER



東日本大震災

直後に撮影した大きな傷跡と3カ月後に感じた東北人、そして日本人の底力



BEFORE



AFTER





## 資料編

098 収支一覧

104 緊急支援活動助成 支援先団体一覧

123 支援物資一覧

127 弔慰金・見舞金の配付内訳



# 日本財団 ROAD PROJECT 収支一覧 (単位:円)

|     | (1) 一般寄付金<br>(東日本大震災支援基金) | (2) 自主財源      | (3) 事業指定寄付金   | 合計            |
|-----|---------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 収入  | 2,377,683,492             | 2,941,696,680 | 2,588,417,567 | 7,907,797,739 |
| 支出  | 2,239,253,369             | 2,941,696,680 | 680,501,454   | 5,861,451,503 |
| 収支差 | 138,430,123               | 0             | 1,907,916,113 | 2,046,346,236 |

## (1) 東日本大震災支援基金 及び (2) 自主財源により実施する事業 (単位:円)

### ▼収入

[順不同]

| 資金種別                   | 金額            |
|------------------------|---------------|
| (1) 一般寄付金 (東日本大震災支援基金) | 2,377,683,492 |
| (2) 自主財源 (ポートルースの交付金)  | 2,941,696,680 |

### ▼支出

| 事業分野             | 事業名                                | 事業パートナー                              | 金額          | 資金種別                                   |
|------------------|------------------------------------|--------------------------------------|-------------|--|
| 緊急支援             | 遺族・親族に対する弔慰金・見舞金の支給                | 自主事業 (支給人数: 17,329名)                 | 866,450,000 | 寄付金                                    |
|                  | 災害に係る緊急支援活動助成                      | (特) ウヨロ環境トラスト他 計651団体/ 695事業         | 657,308,462 | 自主財源③ 502,818,659円<br>寄付金 154,489,803円 |
|                  | 臨時災害放送局支援及びラジオ配布                   | いしのまきさいがいエフエム他 計22局                  | 174,023,064 | 寄付金                                    |
|                  | 被災地における炊き出し支援                      | yuihands被災者支援炊き出しプロジェクト              | 15,000,000  | 寄付金                                    |
|                  | 避難所の仮設トイレ衛生環境改善                    | (特) Check                            | 10,753,480  | 寄付金                                    |
|                  | 石巻市における生活用水給水支援                    | 戸倉工業 (株)                             | 35,024,283  | 寄付金                                    |
|                  | 南三陸町における生活用水給水支援                   | 戸倉工業 (株)                             | 17,538,717  | 寄付金                                    |
| ボランティア派遣・コーディネート | 被災地におけるボランティア活動拠点の整備及び足湯ボランティア等の派遣 | 震災がつなぐ全国ネットワーク                       | 149,050,000 | 自主財源③ 19,800,000円<br>寄付金 129,250,000円  |
|                  | タイムラー AG寄贈の特殊車両によるがれき撤去・物資運搬支援     | (一社) 石巻災害復興支援協議会                     | 23,600,000  | 寄付金                                    |
|                  | 石巻市における災害ボランティア支援ベースの運営支援          | ヒューマンシールド神戸                          | 5,000,000   | 寄付金                                    |
|                  | 「大学生ボランティア隊」派遣                     | (特) 日本学生ボランティアセンター (Gakuvo)          | 49,975,000  | 寄付金                                    |
|                  | ASEANユース親善キャラバン                    | ASEAN事務局、(特) 日本学生ボランティアセンター (Gakuvo) | 3,528,242   | 自主財源④                                  |
| ニーズ調査            | 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト            | 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト              | 74,500,000  | 寄付金                                    |
|                  | 被災者及び復旧復興の支援に向けたアセスメント             | (株) RCF                              | 10,000,000  | 寄付金                                    |
|                  | 岩手県の仮設住宅アセスメント                     | (特) 岩手連携復興センター                       | 4,040,000   | 寄付金                                    |
| スペシャルニーズへの対応     | 被災した福祉施設の再建                        | (特) 釜石市身体障害者協議会他 計23団体/ 27事業         | 139,118,000 | 自主財源③ 138,118,000円<br>自主財源④ 1,000,000円 |
|                  | 災害支援福祉車両の整備                        | (特) 福祉ネットこうえん会                       | 4,000,000   | 自主財源③                                  |
|                  | 災害支援に係る福祉車両の配備                     | (福) 矢本愛育会他 計79団体/ 132台               | 215,457,000 | 自主財源②                                  |
|                  | 被災地への中古車両の寄贈 [(株) リクルート]           | (一財) ダイバーシティ研究所他 計16団体/ 45台          | 7,220,749   | 寄付金                                    |
|                  | 被災地への中古車両の寄贈 [(株) ガリバーインターナショナル]   | (特) ILセンター福島他 計12団体/ 13台             | 1,781,595   | 寄付金                                    |
|                  | 聴覚障がい者に対する支援拠点強化                   | 東日本大震災聴覚障害者救援中央本部                    | 7,500,000   | 寄付金                                    |
|                  | 聴覚障がい者の心のケア・生活支援                   | 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会                    | 21,600,000  | 寄付金                                    |
|                  | 聴覚障がい者の情報コミュニケーション遠隔支援             | (株) プラスヴォイス                          | 24,479,987  | 寄付金                                    |



| 事業分野         | 事業名                                    | 事業パートナー               | 金額          | 資金種別        |
|--------------|--|-----------------------|-------------|-------------|
| スペシャルニーズへの対応 | 要介護者に対する在宅及び避難所巡回医療支援                  | (一社) 日本プライマリ・ケア連合学会   | 30,000,000  | 寄付金         |
|              | 在宅診療体制の構築                              | (一社) 高齢先進国モデル構想会議     | 40,240,000  | 寄付金         |
|              | 被災妊産婦の産前産後ケア推進「東京里帰りプロジェクト」            | (一社) 東京都助産師会          | 150,000,000 | 寄付金         |
|              | 被災地での母子預かりによる産後ケア推進                    | (一社) 宮城県助産師会          | 32,000,000  | 寄付金         |
|              | 被災障がい者のための仮設福祉ハウス「日本財団 小国の郷」の設置        | (福) 石巻祥心会             | 175,900,000 | 寄付金         |
|              | 恒常的な障がい者施設「日本財団ホーム 東洋育成園」の設置           | (福) 福島県福祉事業協会         | 159,621,000 | 自主財源②       |
|              | 訪問看護による被災地支援                           | (公財) 日本訪問看護財団         | 27,000,000  | 寄付金         |
|              | 被災地のママや子供たちを全国のママたちが支援するプロジェクト         | Stand for mothers     | 2,280,000   | 寄付金         |
|              | 福島県から避難してきた被災児童及び生徒に対する学習支援プログラムの開発と実施 | (特) Teach For Japan   | 2,640,000   | 自主財源②       |
|              | 「東日本大震災 障害者支援活動の現状と復興への課題」の開催          | 日本障害フォーラム             | 663,995     | 自主財源④       |
| コミュニティ形成     | 継続的な医療ケア及び住民を中心とした地域おこし                | つなプロ気仙沼               | 14,394,120  | 寄付金         |
|              | 地域の特色をいかした生きがい仕事の創出                    | つなプロ南三陸               | 5,250,000   | 寄付金         |
|              | 仮設住宅団地8か所における「おちゃっこカフェ」の開催             | しゃべっちゃプロジェクト          | 5,057,500   | 寄付金         |
|              | 地元のお母さん方と連携した仮設住宅団地でのコミュニティ形成          | (特) 石巻復興支援ネットワーク      | 4,837,500   | 寄付金         |
|              | 仮設団地住民と自宅避難者に対する見守りネットワークの構築           | (一社) 復興応援団            | 7,420,400   | 寄付金         |
| 海洋分野         | 海の再生力探査                                | 三井造船(株)               | 22,783,365  | 寄付金         |
|              |  | (株) 東京久栄              | 9,439,800   | 寄付金         |
|              | 海洋関連高校への教習艇等の支援                        | (株) 互洋大船渡マリーナ         | 29,507,250  | 寄付金         |
|              |  | (株) 東京パワーボートセンター      | 1,340,000   | 寄付金         |
|              |  | ヤマザキマリン               | 14,342,200  | 寄付金         |
|              |  | ホクサンマリンサービス           | 17,010,850  | 寄付金         |
|              |  | (株) 野村モータース           | 9,859,700   | 寄付金         |
|              |  | 多摩川開発(株)              | 959,450     | 寄付金         |
|              |  | 漁船等を失った事業者らに対する緊急支援融資 | 東日本船舶(株)    | 100,000,000 |
|              | 漁業者(個人)                                |                       | 30,000,000  | 自主財源⑤       |
|              | 被災小型漁船の再生支援                            | 宮城県漁業協同組合             | 22,740,000  | 自主財源①       |
|              |  | 岩手県漁業協同組合連合会          | 17,931,000  | 自主財源①       |
|              |  | (株) スズキマリン            | 24,381,000  | 自主財源①       |
|              |  | (株) トーハツ              | 12,523,000  | 自主財源①       |
|              |  | (株) ヤマハ発動機            | 74,573,000  | 自主財源①       |
|              |  | ヤンマー船用システム(株)         | 11,912,000  | 自主財源①       |
|              |  | (社) 海洋水産システム協会        | 7,847,000   | 自主財源①       |
|              | 被災造船関連事業者への再生支援                        | 大船渡地区造船及び造船関連事業協議会    | 232,300,000 | 自主財源①       |
|              |  | 八戸地区造船及び造船関連事業協議会     | 71,400,000  | 自主財源①       |
|              |  | 東北気仙沼地区造船及び造船関連事業協議会  | 478,300,000 | 自主財源①       |
|              |  | 石巻地区造船及び造船関連事業協議会     | 490,800,000 | 自主財源①       |
|              |  | いわき地区造船及び造船関連事業協議会    | 60,680,000  | 自主財源①       |

| 事業分野                   | 事業名                             | 事業パートナー                | 金額         | 資金種別          |
|------------------------|---------------------------------|------------------------|------------|---------------|
| 海洋分野                   | 被災造船関連事業者への再生支援                 | (社) 日本中小型造船工業会         | 16,500,000 | 自主財源①         |
|                        | 水産業再生のためのフォークリフト支援              | 宮城県漁業協同組合表浜支所 / 45台    | 57,590,000 | 自主財源③         |
|                        |                                 | 宮城県漁業協同組合石巻市東部支所 / 23台 | 24,670,000 | 自主財源③         |
|                        |                                 | 牡鹿漁業協同組合 / 8台          | 8,060,000  | 自主財源③         |
|                        |                                 | 気仙沼鉄工機械協同組合            | 35,800,000 | 自主財源①         |
|                        | 被災した船舶陸上電源供給施設の新設               | 気仙沼鉄工機械協同組合            | 35,800,000 | 自主財源①         |
|                        | 水産業を中心とした新しいコミュニティ創生のための番屋再生    | (社) 日本定置漁業協会           | 9,940,000  | 自主財源①         |
| 宮古漁業協同組合               |                                 | 50,790,000             | 自主財源①      |               |
| イサダ漁再生支援               | 大船渡水産振興会                        | 19,320,000             | 自主財源①      |               |
| 原発事故に関する情報提供           | 緊急シンポジウム：福島原発事故～"誰にでもわかる"現状と今後～ | 自主事業                   | 1,538,352  | 自主財源④         |
|                        | 国際専門家会議：放射線と健康リスク               | 自主事業                   | 34,454,432 | 自主財源④         |
| その他                    | クレジットカード寄付受入にかかる手数料             | (特) CANPANセンター         | 7,404,556  | 寄付金           |
| (1) 一般寄付金 (東日本大震災支援基金) |                                 |                        | 計          | 2,239,253,369 |
| (2) 自主財源 (ポートルースの交付金)  |                                 |                        | 計          | 2,941,696,680 |

2012年3月31日現在

### (3) 事業指定寄付金により実施する事業 (単位：円)

[順不同]

|      |               |      |             |
|------|---------------|------|-------------|
| 収入 計 | 2,588,417,567 | 支出 計 | 680,501,454 |
|------|---------------|------|-------------|

#### ▼収入

| 基金名     | 金額          |
|---------|-------------|
| ダイムラー基金 | 236,845,670 |

#### ▼支出

| 事業名                     | 事業パートナー                          | 金額         |            |
|-------------------------|----------------------------------|------------|------------|
| ダイムラー AG寄贈車両の整備         | 三菱ふそうトラック・バス (株)、メルセデス・ベンツ日本 (株) | 16,889,500 |            |
| 児童養護施設「一関藤の園」新築にかかる備品整備 | (福) ふじの園                         | 10,060,000 |            |
|                         |                                  | 計          | 26,949,500 |

#### ▼収入

| 基金名        | 金額            |
|------------|---------------|
| 地域伝統芸能復興基金 | 1,168,716,322 |

#### ▼支出

| 事業名              | 事業パートナー        | 金額         |
|------------------|----------------|------------|
| 山車の制作及び太鼓の購入     | 釜石虎舞保存連合会      | 23,272,000 |
| 太鼓の購入            | 石巻日高見太鼓        | 7,060,427  |
| 太鼓の購入            | 磯草虎舞保存会        | 10,143,546 |
| 山車、獅子頭の制作及び太鼓の購入 | 大槌町郷土芸能保存団体連合会 | 76,665,387 |
| 装束の制作及び太鼓などの購入   | 大船渡市郷土芸能協会     | 19,332,720 |



| 事業名                      | 事業パートナー       | 金額          |
|--------------------------|---------------|-------------|
| 神楽用物品の購入                 | 相馬市神楽保存会      | 1,856,400   |
| 獅子頭の制作、太鼓や衣装の購入及び修理      | 石巻地区文化協会連絡協議会 | 13,165,770  |
| 太鼓の購入及び修理                | 福島県太鼓連盟       | 49,582,765  |
| 太鼓の購入及び修理                | 宮城県太鼓連絡協議会    | 49,941,948  |
| 神輿の修理及び獅子舞など必要な物品の製作及び購入 | (宗) 川口神社      | 27,778,200  |
| 太鼓の購入及び修理                | 岩手県太鼓連盟       | 17,874,646  |
| 太鼓の購入及び修理                | 青森県太鼓連盟       | 19,239,726  |
| 太鼓の購入及び修理                | 秋田県太鼓連盟       | 5,085,612   |
| 太鼓の購入及び修理                | 山形県太鼓連盟       | 2,647,914   |
| 太鼓の購入及び修理                | 茨城県太鼓連盟       | 248,000     |
|                          | 計             | 323,895,061 |

## ▼収入

| 基金名   | 金額          |
|-------|-------------|
| ハタチ基金 | 293,342,358 |

## ▼支出

| 事業名                      | 事業パートナー                  | 金額          |
|--------------------------|--------------------------|-------------|
| 福島県南相馬市における発達障がい児への支援    | (特) トイボックス               | 15,232,000  |
| コラボスクール・女川向学館における学習支援    | (特) カタリバ                 | 58,455,256  |
| コラボスクール・大槌臨学舎における学習支援    |                          | 0           |
| キズナハイスクールの実施             |                          | 9,775,777   |
| ハタチ基金事務局の管理・運営           |                          | 11,062,860  |
| 都内に避難している乳幼児と母親への支援      | (特) フローレンス               | 7,770,000   |
| 福島インドアパークの設置・運営          |                          | 40,239,400  |
| 被災した児童・生徒のための学習支援（希望のゼミ） |                          | 35,383,500  |
| 教育バウチャーを利用した学校外教育支援      | (一社) Chance for Children | 57,348,963  |
|                          | 計                        | 235,267,756 |

## ▼収入

| 基金名                   | 金額          |
|-----------------------|-------------|
| 麒麟ビール水産業支援『絆』プロジェクト基金 | 400,040,000 |

## ▼支出

| 事業名                | 事業パートナー   | 金額        |
|--------------------|-----------|-----------|
| わかめ・ぎんざけ養殖に係る機材配備等 | 牡鹿漁業協同組合  | 2,850,000 |
| 水産業復興のためのスカイタンク配備  | 石巻市漁業協同組合 | 950,000   |
|                    | 計         | 3,800,000 |

## ▼収入

| 基金名          | 金額         |
|--------------|------------|
| CIPAフォトエイド基金 | 38,100,000 |

## ▼支出

| 事業名                 | 事業パートナー                           | 金額         |
|---------------------|-----------------------------------|------------|
| アルバム・写真レスキュー助成プログラム | ビッグバレットふくしま避難所記録刊行委員会他 計17団体/18事業 | 32,210,000 |
| 計                   |                                   | 32,210,000 |

## ▼収入

| 寄付者                | 金額         |
|--------------------|------------|
| ザルツブルグ音楽祭及びザルツブルグ市 | 20,848,000 |

## ▼支出

| 事業名                   | 事業パートナー | 金額         |
|-----------------------|---------|------------|
| ミューザ川崎音楽ホール修繕及び音楽活動支援 | 川崎市     | 20,848,000 |
| 計                     |         | 20,848,000 |

## ▼収入

| 寄付者                    | 金額  |
|------------------------|-----|
| ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 | 非公開 |

## ▼支出

| 事業名                  | 事業パートナー         | 金額  |
|----------------------|-----------------|-----|
| 仮設住宅におけるコミュニティリーダー支援 | (特) いわて連携復興センター | 非公開 |
| 計                    |                 | 非公開 |

## ▼収入

| 寄付者        | 金額        |
|------------|-----------|
| 味の素冷凍食品(株) | 7,000,000 |

## ▼支出

| 事業名                         | 事業パートナー           | 金額        |
|-----------------------------|-------------------|-----------|
| 東日本大震災農家応援「3R-Step Project」 | (特) 農家のこせがれネットワーク | 7,000,000 |
| 計                           |                   | 7,000,000 |

## ▼収入

| 寄付者             | 金額         |
|-----------------|------------|
| フィリップモリスジャパン(株) | 40,000,000 |

## ▼支出

| 事業名              | 事業パートナー   | 金額 |
|------------------|-----------|----|
| 被災地における高校生等の自立支援 | (特) み・らいず | 0  |
| 計                |           | 0  |



## ▼収入

| 寄付者                 | 金額         |
|---------------------|------------|
| サントリービジネスエキスパート（株）他 | 10,246,241 |

## ▼支出

| 事業名        | 事業パートナー | 金額 |
|------------|---------|----|
| 被災地へのピアノ寄贈 | 検討中     | 0  |
|            | 計       | 0  |

## ▼収入

| 寄付者             | 金額          |
|-----------------|-------------|
| New Dayプロジェクトより | 341,747,839 |

## ▼支出

| 事業名 | 事業パートナー | 金額 |
|-----|---------|----|
| 検討中 | 検討中     | 0  |
|     | 計       | 0  |

## ▼収入

| 寄付者     | 金額        |
|---------|-----------|
| (株)新倉商店 | 1,000,000 |

## ▼支出

| 事業名            | 事業パートナー                    | 金額 |
|----------------|----------------------------|----|
| 「大学生ボランティア隊」派遣 | (特)日本学生ボランティアセンター (Gakuvo) | 0  |
|                | 計                          | 0  |

## ▼収入

| 基金名            | 金額        |
|----------------|-----------|
| Let's Tree基金 ※ | 1,000,000 |

## ▼支出

| 事業名           | 事業パートナー            | 金額        |
|---------------|--------------------|-----------|
| 仮設住宅における壁画アート | くらしのある家プロジェクト実行委員会 | 1,000,000 |
|               | 計                  | 1,000,000 |

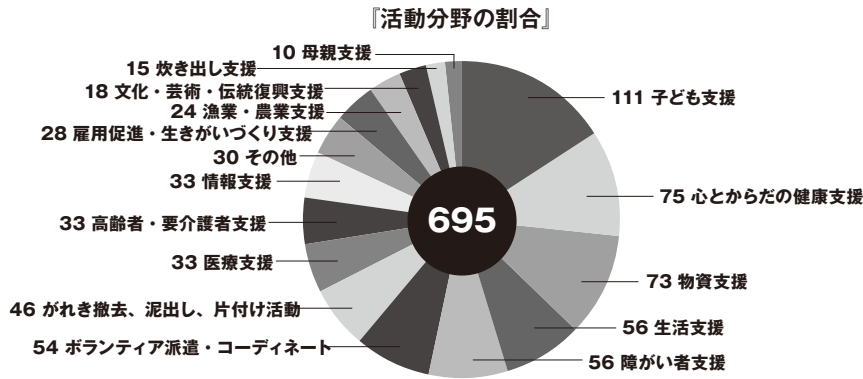
※ 環境問題などの社会課題に取り組むLet's Tree基金から、1,000,000円をROAD PROJECTにご提供いただきました。

2012年3月31日現在

| 自主財源 資金種別 |         | 凡例   |                 |      |        |     |      |
|-----------|---------|------|-----------------|------|--------|-----|------|
| 自主財源①     | 一号交付金   | (特)  | 特定非営利活動法人、NPO法人 | (公財) | 公益財団法人 | (学) | 学校法人 |
| 自主財源②     | 二号交付金   | (一社) | 一般社団法人          | (公社) | 公益社団法人 | (有) | 有限会社 |
| 自主財源③     | 国内協力援助金 | (社)  | 社団法人            | (福)  | 社会福祉法人 | (株) | 株式会社 |
| 自主財源④     | 調査研究費   | (一財) | 一般財団法人          | (宗)  | 宗教法人   |     |      |
| 自主財源⑤     | 貸付金     | (財)  | 財団法人            | (独)  | 独立行政法人 |     |      |

緊急支援活動助成 支援先団体一覧

団体数 651 事業数 695 支援総額 ¥657,308,462



■ 寄付金で実施 □ 自主財源で実施 (単位：円) [順不同]

| No. | 団体種別 | 団体名                | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--------------------|-------|-----------|------------------|
| 1   | (特)  | ウヨロ環境トラスト          | 北海道   | 914,775   | 子ども支援            |
| 2   | (特)  | グラウンドワーク西神楽        | 北海道   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 3   | (特)  | ねおす                | 北海道   | 998,000   | 子ども支援            |
| 4   | (特)  | ホップ障害者地域生活支援センター   | 北海道   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 5   | (特)  | 自立支援センター歩歩路        | 北海道   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 6   | (特)  | 大雪りばあねっと           | 北海道   | 1,000,000 | 行政支援活動           |
| 7   | (特)  | 大雪りばあねっと           | 北海道   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 8   |      | 北海道移送・移動サービス連絡会    | 北海道   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 9   |      | 北海道河川広域救難隊         | 北海道   | 1,000,000 | 搜索活動             |
| 10  |      | 稚内ほっけ隊             | 北海道   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 11  |      | 全国本人活動連絡協議会        | 北海道   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 12  | (特)  | 当別町青少年活動センターゆうゆう24 | 北海道   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 13  | (特)  | 霧多布湿原ナショナルトラスト     | 北海道   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 14  |      | はちのへわらしっこネット       | 青森県   | 980,000   | 物資支援             |
| 15  | (特)  | 自立支援センターアライブ・パル    | 青森県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 16  |      | 小川原湖自然楽校           | 青森県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 17  |      | 動こう津軽!             | 青森県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 18  | (特)  | 海辺で遊山              | 秋田県   | 920,413   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 19  | (特)  | 秋田パドラーズ            | 秋田県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 20  | (特)  | ゆめ協働隊              | 秋田県   | 986,000   | 物資支援             |
| 21  |      | NGO RASICA         | 秋田県   | 900,000   | 子ども支援            |
| 22  |      | おが自然学校             | 秋田県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 23  |      | NPOワタノハスマイル        | 山形県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 24  | (特)  | NPOやまがた芸術村         | 山形県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 25  |      | Taiken堂運営委員会       | 山形県   | 1,000,000 | 子ども支援            |



| No. | 団体種別 | 団体名                           | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|-------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 26  | (特)  | オープンハウスこんべいとう                 | 山形県   | 863,000   | 心とからだの健康支援       |
| 27  | (特)  | グラウンドワーク寒河江                   | 山形県   | 1,000,000 | 復興計画づくり支援        |
| 28  |      | だがしや楽校だがしや倶楽部                 | 山形県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 29  |      | NPOスマイルホープ                    | 山形県   | 800,000   | 子ども支援            |
| 30  |      | やまがったー                        | 山形県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 31  | (特)  | 結いのき                          | 山形県   | 990,000   | 物資支援             |
| 32  |      | 山形ボランティア隊                     | 山形県   | 900,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 33  |      | 山形県新規就農者ネットワーク                | 山形県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 34  | (特)  | 山形国際ドキュメンタリー映画祭               | 山形県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 35  | (特)  | 自然農食やまがた よもぎ会                 | 山形県   | 995,000   | 子ども支援            |
| 36  |      | 庄内浜文化伝道師協会                    | 山形県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 37  |      | 足湯ボランティア山形                    | 山形県   | 500,000   | 心とからだの健康支援       |
| 38  |      | 東根ぼうさい倶楽部                     | 山形県   | 1,000,000 | ペット支援            |
| 39  | (特)  | 東北エコリサイクルネットワーク研究会            | 山形県   | 971,000   | 医療支援             |
| 40  |      | 被災地の子どもたちに届ける入園・入学プロジェクト      | 山形県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 41  |      | 被災地支援ボランティア「チーム鶴岡」            | 山形県   | 400,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 42  |      | 緑水の森再生委員会 被災者被災地支援活動          | 山形県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 43  | (特)  | M3Project                     | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 44  |      | 3.11絵本プロジェクトいわて               | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 45  |      | 3・11三陸気仙復興協議会 さんさんの会          | 岩手県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 46  | (特)  | Asia Environmental Alliance   | 岩手県   | 1,000,000 | 癒しの提供支援          |
| 47  | (有)  | D'STYLE ふくい災害ボランティアネット 薪製造+α班 | 岩手県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 48  |      | Mana Factory                  | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 49  |      | MK                            | 岩手県   | 297,000   | 子ども支援            |
| 50  |      | NPOいわて・郷プロジェクト                | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 51  |      | あそびma・senka                   | 岩手県   | 1,000,000 | 母親支援             |
| 52  | (特)  | いわてNPO-NETサポート                | 岩手県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 53  | (特)  | いわて子育てネット                     | 岩手県   | 1,000,000 | 母親支援             |
| 54  | (特)  | いわて森林再生研究会                    | 岩手県   | 968,000   | 漁業・農業支援          |
| 55  | (特)  | いわて地域づくり支援センター                | 岩手県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 56  | (特)  | いわて翼の会                        | 岩手県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 57  |      | こどものこと。研究所 座・いどばた             | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 58  |      | くらしのサポーターズ                    | 岩手県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 59  |      | やませデザイン会議                     | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 60  |      | すみた森の案内人                      | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 61  |      | たびれっじ推進協議会                    | 岩手県   | 990,549   | 子ども支援            |
| 62  |      | たびれっじ推進協議会                    | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |

| No. | 団体種別 | 団体名                             | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|---------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 63  | (特)  | パワーアップ支援室                       | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 64  | (特)  | フォルダ                            | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 65  |      | ほくらの復興支援「いわて・結いっこ」花巻支部          | 岩手県   | 800,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 66  |      | 宮古市 心のケア                        | 岩手県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 67  | (特)  | みなとみらい・三陸                       | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 68  |      | もさばロハス倶楽部                       | 岩手県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 69  |      | ヤルキキャンプ                         | 岩手県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 70  |      | ゆいっこ 盛岡支部                       | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 71  | (特)  | ワーカーズコープ もりおか若者サポートステーション       | 岩手県   | 900,000   | 物資支援             |
| 72  | (特)  | わかば会                            | 岩手県   | 972,000   | 生活支援             |
| 73  |      | 白澤獅子踊保存会                        | 岩手県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 74  |      | 越喜来地区公民館                        | 岩手県   | 200,000   | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 75  |      | 遠野まごころネット                       | 岩手県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 76  | (特)  | 遠野山・里・暮らしネットワーク                 | 岩手県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 77  |      | 遠野被災地支援ボランティアネットワーク             | 岩手県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 78  |      | 仮宿町内会                           | 岩手県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 79  |      | 花巻市民活動ネットワーク協議会（はなネット）          | 岩手県   | 843,615   | 母親支援             |
| 80  |      | 花露辺町内会                          | 岩手県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 81  |      | 釜石市スポーツ推進委員協議会                  | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 82  | (特)  | 岩手県環境カウンセラー協議会                  | 岩手県   | 980,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 83  |      | 岩手県青年国際交流機構                     | 岩手県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 84  |      | 岩手県臨床心理士会                       | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 85  |      | 岩手県臨床心理士会                       | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 86  |      | 岩手自殺防止センター                      | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 87  | (特)  | 岩手点訳の会                          | 岩手県   | 200,000   | 情報支援             |
| 88  |      | 希望の樹プロジェクト                      | 岩手県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 89  | (特)  | 宮古地区いきいきワーキングセンター ワークハウスアトリエSUN | 岩手県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 90  |      | 共生ユニオンいわて                       | 岩手県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 91  | (特)  | 響生                              | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 92  |      | 傾聴ボランティアもりおか                    | 岩手県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 93  |      | 芸術遊び 虹色の部屋                      | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 94  |      | 盛岡世代にかける橋OB会                    | 岩手県   | 410,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 95  | (福)  | 翔友                              | 岩手県   | 999,000   | 障がい者支援           |
| 96  |      | 前沢いきいきスポーツクラブ                   | 岩手県   | 800,000   | 子ども支援            |
| 97  | (特)  | 体験村・たのはたネットワーク                  | 岩手県   | 512,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 98  |      | 大根コンプロジェクト                      | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 99  |      | 大野木工生産グループ                      | 岩手県   | 800,000   | 子ども支援            |



| No. | 団体種別 | 団体名                                      | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--|-------|-----------|------------------|
| 100 |      | 唐丹地区スポーツ、文化コミュニティクラブ                     | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 101 |      | 東日本大震災聴覚障がい者支援岩手本部                       | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 102 |      | 認定ヨーガ療法士会・岩手                             | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 103 | (特)  | 風・波デザイン                                  | 岩手県   | 999,000   | 情報支援             |
| 104 |      | 豊饒の海「広田湾」の環境を取り戻す会                       | 岩手県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 105 |      | 北の国ルネサンス22                               | 岩手県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 106 |      | 矢巾町青少年健全育成町民会議                           | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 107 |      | 陸前高田市文化財救出支援会                            | 岩手県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 108 | (特)  | 琥珀の泉                                     | 岩手県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 109 | (財)  | 石巻市文化スポーツ振興公社                            | 宮城県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 110 |      | (仙台東六学区) 東六万燈会夏まつり実行委員会                  | 宮城県   | 400,000   | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 111 |      | [NPO連携]GANBARO↑MIYAGI / 宮城復興支援センター       | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 112 |      | わたり・あらはま                                 | 宮城県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 113 |      | 子ども応援民間ボランティア PINKS                      | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 114 | (特)  | Azuma-re                                 | 宮城県   | 997,000   | 物資支援             |
| 115 | (特)  | BAROQUE WORKS                            | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 116 |      | DSP災害支援プロジェクト                            | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 117 |      | JDFみやぎ北部支援センター<br>(JDF被災地障害者支援センター宮城 北部) | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 118 |      | JDF宮城支援センター<br>(JDF被災地障害者支援センター宮城)       | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 119 |      | MARINA                                   | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 120 | (一社) | MMIX Lab                                 | 宮城県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 121 | (特)  | MMサポートセンター                               | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 122 |      | NPO 石巻復興サポートセンター                         | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 123 | (特)  | アスイク                                     | 宮城県   | 800,000   | 子ども支援            |
| 124 |      | Peace Mummy                              | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 125 |      | ReRoots                                  | 宮城県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 126 |      | Team Children                            | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 127 |      | Toiro Works                              | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 128 |      | WMI (We Make Ishinomaki)                 | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 129 |      | あおばサポート                                  | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 130 |      | あおばサポート                                  | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 131 |      | アメイジンググレイスネットワークミッション                    | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 132 |      | アモール石巻                                   | 宮城県   | 984,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 133 |      | アレルギーの子を持つ親の会あつふるんくらぶ                    | 宮城県   | 756,000   | 障がい者支援           |
| 134 | (特)  | いしのまき環境ネット                               | 宮城県   | 906,268   | 情報支援             |
| 135 | (特)  | いしのまき環境ネット住環境支援チーム                       | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 136 | (特)  | オハイエ・プロダクツ                               | 宮城県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |

| No. | 団体種別 | 団体名                       | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|---------------------------|-------|-----------|------------------|
| 137 | (特)  | おひさまくらぶ                   | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 138 |      | ガーネットみやぎ                  | 宮城県   | 600,000   | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 139 |      | キハト会                      | 宮城県   | 849,000   | 子ども支援            |
| 140 |      | キャンパス仙台中央                 | 宮城県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 141 |      | くりはらツーリズムネットワーク           | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 142 | (特)  | ここねっと発達支援センター緊急子どもサポートチーム | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 143 |      | こどもとあゆむネットワーク             | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 144 | (特)  | さくらんぼくらぶ                  | 宮城県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 145 |      | サポート石巻                    | 宮城県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 146 |      | 被災事業所復興支援室                | 宮城県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 147 | (特)  | タートルアイランド チーム零アクション       | 宮城県   | 969,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 148 |      | だいじょうぶ屋                   | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 149 | (特)  | どんぐりの家                    | 宮城県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 150 |      | にこにこサポート                  | 宮城県   | 800,000   | 母親支援             |
| 151 |      | にこにこサポート                  | 宮城県   | 1,000,000 | 母親支援             |
| 152 |      | にこにこスマイルプロジェクト            | 宮城県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 153 | (特)  | のんびーりすみちゃんの家              | 宮城県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 154 | (一社) | パーソナルサポートセンター             | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 155 |      | ばぐ生活支援センター                | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 156 | (特)  | パソコン要約筆記文字の都仙台            | 宮城県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 157 |      | ハビネス・ヘルスサポート              | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 158 |      | ピースジャム                    | 宮城県   | 843,000   | 物資支援             |
| 159 | (特)  | ひよっこりひょうたん田代島             | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 160 | (特)  | フェアトレード東北                 | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 161 |      | ふれいん・ゆに〜くす                | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 162 |      | ふれいん・ゆに〜くす                | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 163 | (特)  | ほっとあい                     | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 164 | (特)  | ほっぶの森                     | 宮城県   | 790,000   | 障がい者支援           |
| 165 | (特)  | まきばフリースクール                | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 166 |      | まちづくりNPOげんき宮城研究所          | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 167 | (特)  | まちづくり政策フォーラム              | 宮城県   | 950,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 168 | (特)  | マナビサポ20                   | 宮城県   | 751,779   | 子ども支援            |
| 169 |      | まなびの森                     | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 170 |      | ママサポーターズ                  | 宮城県   | 500,000   | 子ども支援            |
| 171 | (特)  | みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会         | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 172 | (財)  | みやぎ・環境とくらし・ネットワーク         | 宮城県   | 744,938   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 173 | (特)  | みやぎ身体障害者サポートクラブ           | 宮城県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |



| No. | 団体種別 | 団体名                       | 団体住所 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|---------------------------|------|-----------|------------------|
| 174 | (特)  | みやぎ発達障害サポートネット            | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 175 | (社)  | みやぎ被害者支援センター              | 宮城県  | 900,000   | 遺体安置所でのカウンセリング支援 |
| 176 | (特)  | みんなの教室                    | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 177 | (特)  | やくらい百姓塾                   | 宮城県  | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 178 | (特)  | リフレッシュファーム 宮城蔵王 森の楽園      | 宮城県  | 910,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 179 | (特)  | ロージーベル                    | 宮城県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 180 | (特)  | ワンファミリー仙台                 | 宮城県  | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 181 |      | 移動ネットみやぎ災害支援の会            | 宮城県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 182 | (特)  | 浦戸福祉会                     | 宮城県  | 970,000   | 心とからだの健康支援       |
| 183 |      | 縁の下のチカラ持ち                 | 宮城県  | 1,000,000 | 情報支援             |
| 184 |      | 学習能力開発財団                  | 宮城県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 185 |      | 活性化集団“粋”                  | 宮城県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 186 |      | 環境と子どもを考える会               | 宮城県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 187 | (一社) | 環境経営支援機構                  | 宮城県  | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 188 | (一社) | 環境経営支援機構                  | 宮城県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 189 |      | 気仙沼ボランティアネットワーク 聖教会       | 宮城県  | 1,000,000 | 情報支援             |
| 190 |      | 気仙沼市南三陸町地域中学校体育連盟         | 宮城県  | 1,000,000 | 陸上大会開催支援         |
| 191 | (特)  | 気仙沼清港会                    | 宮城県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 192 |      | 気仙沼大川桜並木を保全する会            | 宮城県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 193 |      | 気仙沼大川桜並木を保全する会            | 宮城県  | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 194 | (特)  | 輝くなかまチャレンジド               | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 195 |      | 宮城インテリアコーディネーター倶楽部        | 宮城県  | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 196 | (特)  | 宮城芸術文化振興団体                | 宮城県  | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 197 | (社)  | 宮城県サッカー協会(東北サッカー物資支援センター) | 宮城県  | 990,379   | 物資支援             |
| 198 | (社)  | 東日本大震災聴覚障がい者救援宮城本部        | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 199 | (社)  | 宮城県手をつなぐ育成会               | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 200 | (社)  | 宮城県手をつなぐ育成会               | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 201 | (社)  | 宮城県手をつなぐ育成会               | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 202 | (社)  | 宮城県手をつなぐ育成会               | 宮城県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 203 | (一社) | 宮城県助産師会                   | 宮城県  | 1,000,000 | 母親支援             |
| 204 |      | 宮城大学 平岡研究室                | 宮城県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 205 |      | 宮城大学事業構想学部竹内泰研究室          | 宮城県  | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 206 |      | 宮城登米えがおねっと                | 宮城県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 207 |      | 向陽台青空クラブ                  | 宮城県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 208 | (特)  | 国際松濤館空手道連盟宮城県本部災害対策室      | 宮城県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 209 | (特)  | 笹舟                        | 宮城県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 210 |      | 子育て支援ベビースマイル石巻            | 宮城県  | 500,000   | 子ども支援            |

| No. | 団体種別 | 団体名                    | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|------------------------|-------|-----------|------------------|
| 211 |      | 市民活動団体 チーム萩            | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 212 | (特)  | 自然農園                   | 宮城県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 213 |      | 女川に元気を送る会              | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 214 |      | 女川町立女川第2中学校支援プロジェクト    | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 215 |      | 小さな避難所と集落をまわるボランティア    | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 216 |      | 小淵浜通信                  | 宮城県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 217 | (特)  | 笑顔のお手伝い                | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 218 |      | 人権NPO World Open Heart | 宮城県   | 1,000,000 | 人権相談支援           |
| 219 | (特)  | 水守の郷・七ヶ宿               | 宮城県   | 969,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 220 |      | 生活支援研究会                | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 221 |      | 西公園プレーパークの会            | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 222 |      | 石巻2.0                  | 宮城県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 223 |      | にじいろクレヨン               | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 224 | (特)  | 石巻スポーツ振興サポートセンター       | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 225 |      | 石巻市災害復興支援協議会           | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 226 |      | 石巻市復興を考える市民の会          | 宮城県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 227 |      | 石巻受験生応援塾               | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 228 | (福)  | 仙台的のちの電話               | 宮城県   | 989,000   | 心とからだの健康支援       |
| 229 |      | 仙台ゾウ・プロジェクト (SZP)      | 宮城県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 230 |      | 仙台てっぱ会                 | 宮城県   | 1,000,000 | 慰問・イベント・チャリティー支援 |
| 231 | (財)  | 仙台観光コンベンション協会          | 宮城県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 232 | (学)  | 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター   | 宮城県   | 250,000   | 子ども支援            |
| 233 |      | cafe桜花笑                | 宮城県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 234 | (学)  | 梅壇学園 東北福祉大学            | 宮城県   | 989,000   | 医療支援             |
| 235 | (特)  | 泉里会                    | 宮城県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 236 |      | 共生地域創造財団               | 宮城県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 237 | (特)  | 全国訪問介護理美容自動車協会         | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 238 |      | 創作和太鼓 駒の会              | 宮城県   | 1,000,000 | イベントの開催支援        |
| 239 |      | 多世代はうす 文字倶楽部           | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 240 |      | 大島宝島委員会                | 宮城県   | 999,000   | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 241 | (特)  | 地球の楽好                  | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 242 | (一社) | 地球未来フォーラム              | 宮城県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 243 |      | 中山平温泉観光協会              | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 244 |      | 中山平温泉旅館組合              | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 245 |      | 杜の都 チーム ドルフィンドリーム      | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 246 |      | 戸倉復興支援団                | 宮城県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 247 |      | 東松島市物資配送隊              | 宮城県   | 1,000,000 | 生活支援             |



| No. | 団体種別 | 団体名                    | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|------------------------|-------|-----------|------------------|
| 248 |      | 東北子ども支援プロジェクト          | 宮城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 249 | (特)  | 東北みち会議                 | 宮城県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 250 |      | 東北学院大学災害ボランティアステーション   | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 251 |      | 東北関東大震災・共同支援ネットワーク     | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 252 |      | 東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会   | 宮城県   | 974,000   | 情報支援             |
| 253 |      | 東北広域震災NGOセンター 気仙沼支部    | 宮城県   | 0         | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 254 |      | 東北大学加齢医学研究所臓器電子医学分野    | 宮城県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 255 |      | 東北大学東日本大震災PTG          | 宮城県   | 800,000   | 心とからだの健康支援       |
| 256 |      | 東北大学唐桑復興支援学生団体         | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 257 |      | 南三陸の海を守る会              | 宮城県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 258 | (社)  | 日本建築家協会東北支部宮城地域会       | 宮城県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 259 |      | 日本災害復興支援団体 仙台とどけ隊      | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 260 |      | 日本震災福祉支援協会             | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 261 |      | 日本統合医療学会 東北支部          | 宮城県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 262 |      | 畑中みゆきスキースクール           | 宮城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 263 |      | 被災者救済制度専門家の会           | 宮城県   | 800,000   | 情報支援             |
| 264 |      | NPO任意チーム・センダイ交流団       | 宮城県   | 100,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 265 | (福)  | 夢みの里                   | 宮城県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 266 | (特)  | 亙理山元まちおこし振興会           | 宮城県   | 400,000   | 物資支援             |
| 267 |      | Bridge for Fukushima   | 福島県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 268 |      | Bridge for Fukushima   | 福島県   | 1,000,000 | 復興ネットワーク形成支援     |
| 269 |      | Bridge for Fukushima   | 福島県   | 1,000,000 | 仮設住宅見守り支援        |
| 270 | (特)  | Commune with 助産師       | 福島県   | 998,000   | 母親支援             |
| 271 |      | DV被害を考える会              | 福島県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 272 |      | JDF被災地障害者支援センターふくしま    | 福島県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 273 | (特)  | NPOほうらい                | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 274 |      | NPO勿来まちづくりサポートセンター     | 福島県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 275 | (特)  | Wunder ground          | 福島県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 276 |      | いわきいきいき食彩館委員会 スカイストア   | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 277 | (特)  | いわき自立生活センター            | 福島県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 278 | (特)  | エフ・スポーツ                | 福島県   | 999,000   | 子ども支援            |
| 279 | (特)  | キャリア・デザイナーズ            | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 280 |      | 子ども福島情報センター            | 福島県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 281 |      | ご用聞き屋「ハイッ!喜んで」ボランティア部門 | 福島県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 282 | (株)  | サガデザインシーズ              | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 283 | (株)  | サガデザインシーズ              | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 284 |      | ストレスケア東北ネット            | 福島県   | 993,000   | 心とからだの健康支援       |

| No. | 団体種別 | 団体名                                      | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--|-------|-----------|------------------|
| 285 |      | ただみコミュニティクラブ                             | 福島県   | 996,000   | 心とからだの健康支援       |
| 286 | (特)  | はらまち交流サポートセンター                           | 福島県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 287 | (特)  | ビーンズふくしま                                 | 福島県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 288 |      | フクシマde畑シェアプロジェクト                         | 福島県   | 500,000   | 漁業・農業支援          |
| 289 | (特)  | ふくしまNPOネットワークセンター                        | 福島県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 290 |      | ふくしまダイアログ・プロジェクト                         | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 291 |      | ふくしまヒマワリ育成計画                             | 福島県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 292 | (特)  | ふくしま災害コーディネーター支援センター                     | 福島県   | 960,000   | 情報支援             |
| 293 |      | フロンティア南相馬                                | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 294 |      | フロンティア南相馬                                | 福島県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 295 |      | ボランティアセンター トータス                          | 福島県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 296 | (特)  | まごころサービス福島センター                           | 福島県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 297 | (特)  | よつくらぶ                                    | 福島県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 298 | (特)  | りょうぜん里山がっこう                              | 福島県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 299 |      | ルワンダの教育を考える会                             | 福島県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 300 |      | 花と希望を育てる会                                | 福島県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 301 | (特)  | 寺子屋方丈舎                                   | 福島県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 302 | (特)  | 森の遊学舎                                    | 福島県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 303 | (一社) | 全国パーキンソン病友の会 福島県支部                       | 福島県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 304 |      | 地域活性プロジェクト「MUSUBU」                       | 福島県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 305 |      | 東日本大震災いわき南部地区 復興支援グループ H・P・T             | 福島県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 306 |      | 復興支援グループPERROT                           | 福島県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 307 | (一社) | 福島県社会福祉士会                                | 福島県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 308 | (社)  | 福島県聴覚障害者協会                               | 福島県   | 945,000   | 障がい者支援           |
| 309 | (特)  | 福島市聴覚障害者福祉会                              | 福島県   | 997,935   | 障がい者支援           |
| 310 |      | さくら前線おはなしの国                              | 茨城県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 311 | (特)  | ひたちNPOセンター・with you                      | 茨城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 312 | (一社) | 茨城県作業療法士会                                | 茨城県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 313 |      | 支援者を支援する会                                | 茨城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 314 | (学)  | 常磐大学 国際被害者学研究所                           | 茨城県   | 285,341   | 心とからだの健康支援       |
| 315 |      | 東日本大震災救援物資サポートセンター・北茨城                   | 茨城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 316 |      | 東日本大震災救援物資ストックキャンプ<br>「民間ネットワーク・ライフサポート」 | 茨城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 317 |      | 常磐大学 東日本復興支援プロジェクト                       | 茨城県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 318 | (特)  | 夢工房                                      | 茨城県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 319 | (特)  | 国境なき奉仕団 チーム風                             | 栃木県   | 962,000   | 高齢者・要介護者支援       |
| 320 | (特)  | 表現遊び開発教育研究所マム                            | 栃木県   | 766,000   | 子ども支援            |
| 321 | (特)  | チャレンジド・コミュニティ                            | 栃木県   | 1,000,000 | 物資支援             |



| No. | 団体種別 | 団体名                         | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|-----------------------------|-------|-----------|------------------|
| 322 |      | 栃木県勤労者山岳連盟                  | 栃木県   | 600,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 323 |      | 宇都宮大学 学生ボランティア室             | 栃木県   | 400,000   | 子ども支援            |
| 324 | (一社) | 協働福祉とちぎ                     | 栃木県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 325 |      | NPO みんなのとしょかん               | 栃木県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 326 | (一社) | とちぎ青少年自立援助センター              | 栃木県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 327 | (特)  | グレート群馬ネットワーク                | 群馬県   | 990,000   | 炊き出し支援           |
| 328 | (特)  | M.O.S.C.O.                  | 群馬県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 329 | (特)  | こころの応援団                     | 群馬県   | 800,000   | 心とからだの健康支援       |
| 330 | (特)  | en-joint lab                | 埼玉県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 331 |      | SVTS風組 関東支部                 | 埼玉県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 332 | (医)  | あさひな会                       | 埼玉県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 333 | (特)  | グリーンフォーレストジャパン              | 埼玉県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 334 |      | コミュニティ・サイマルラジオ・アライアンス       | 埼玉県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 335 | (特)  | さいたま自立就労支援センター              | 埼玉県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 336 |      | スクーバダイビング事業協働組合(復興支援対策室)    | 埼玉県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 337 | (特)  | すまいる                        | 埼玉県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 338 | (特)  | メックス                        | 埼玉県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 339 | (特)  | メックス                        | 埼玉県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 340 | (特)  | ユニバーサル・ダイビング・ネットワーク         | 埼玉県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 341 | (特)  | ライフプラン                      | 埼玉県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 342 | (特)  | 共生フォーラム                     | 埼玉県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 343 |      | 児童養護施設支援の会                  | 埼玉県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 344 | (一社) | 情報環境コミュニケーションズ              | 埼玉県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 345 |      | 天理教埼玉教区青年会                  | 埼玉県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 346 |      | 東日本大震災HS神戸サポートチーム           | 埼玉県   | 900,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 347 | (一社) | 日本臨床発達心理士会 埼玉支部             | 埼玉県   | 300,000   | 障がい者支援           |
| 348 | (特)  | 文化遺産保存のための映像記録協会            | 埼玉県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 349 |      | あいので                        | 千葉県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 350 |      | あいので                        | 千葉県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 351 |      | らぶちばネットワーク kizuna 絆 project | 千葉県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 352 |      | リバイバルサポート                   | 千葉県   | 700,000   | 炊き出し支援           |
| 353 |      | 旭津波被災者支援センター                | 千葉県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 354 |      | 関東聴覚障害学生サポートセンター            | 千葉県   | 351,626   | 障がい者支援           |
| 355 | (特)  | 国際ヒーリング看護協会                 | 千葉県   | 786,948   | 心とからだの健康支援       |
| 356 |      | 食と緑とカーボンオフセットを考える会          | 千葉県   | 400,000   | 生活支援             |
| 357 |      | 千葉ケア企業組合                    | 千葉県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 358 |      | 千葉県高齢者生活協同組合                | 千葉県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |

| No. | 団体種別 | 団体名                              | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|----------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 359 |      | 全国聴覚障害者教職員協議会                    | 千葉県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 360 |      | 東北関東大震災支援組織 さくらサポート              | 千葉県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 361 |      | 「長靴を届けます」Project                 | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 362 |      | 「防災ボランティアアドリームチーム集結」を応援する会       | 東京都   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 363 | (特)  | BONDプロジェクト                       | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 364 | (株)  | CFS                              | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 365 | (特)  | Check                            | 東京都   | 986,000   | 物資支援             |
| 366 |      | Coffret Project                  | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 367 |      | Colabo                           | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 368 |      | Deaf News Network (DNN)          | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 369 |      | eBook情報センター 「僕らの夏休みproject」実行委員会 | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 370 | (特)  | ECOPLUS                          | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 371 |      | EPA看護介護ボランティア                    | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 372 |      | FIWC関東委員会                        | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 373 | (特)  | FoE Japan                        | 東京都   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 374 |      | JIN'S PROJECT                    | 東京都   | 700,000   | 物資支援             |
| 375 |      | JOCVリハビリテーションネットワーク              | 東京都   | 300,000   | 心とからだの健康支援       |
| 376 |      | LOTS                             | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 377 | (特)  | NCS                              | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 378 | (特)  | nature center risen              | 東京都   | 400,000   | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 379 | (特)  | NICE (日本国際ワークキャンプセンター)           | 東京都   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 380 | (特)  | NPO芸術資源開発機構                      | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 381 | (特)  | OWS                              | 東京都   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 382 | (特)  | POSSE                            | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 383 |      | Punaful                          | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 384 |      | Save the dog                     | 東京都   | 1,000,000 | ペット支援            |
| 385 |      | Smile Cafe Project               | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 386 | (特)  | Teach for Japan                  | 東京都   | 900,000   | 子ども支援            |
| 387 |      | Tohoku Rising                    | 東京都   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 388 |      | UIFA JAPON                       | 東京都   | 980,000   | 物資支援             |
| 389 | (特)  | WEL'S新木場                         | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 390 | (特)  | WEL'S新木場                         | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 391 |      | Youth for 3.11                   | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 392 | (特)  | アトピzzi地球の子ネットワーク                 | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 393 |      | いたばし災害支援ネットワーク                   | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 394 |      | いたばし災害支援ネットワーク                   | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 395 | (特)  | エコツーリズム・ネットワーク・ジャパン              | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |



| No. | 団体種別 | 団体名                              | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|----------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 396 | (特)  | エコロジー・アーキスケーブ                    | 東京都   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 397 | (特)  | 「エコロジー夢企画」                       | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 398 | (特)  | おいしい水大使館                         | 東京都   | 980,000   | 漁業・農業支援          |
| 399 | (公財) | オイスカ                             | 東京都   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 400 | (特)  | オン・ザ・ロード                         | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 401 | (特)  | キッズドア                            | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 402 | (特)  | キッズドア                            | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 403 | (特)  | キッズドア                            | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 404 | (特)  | キッズドア                            | 東京都   | 800,000   | 子ども支援            |
| 405 |      | きょうざれん                           | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 406 |      | グループ ミント                         | 東京都   | 600,000   | 物資支援             |
| 407 |      | ケアプロ東北支援プロジェクト                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 408 |      | ケアプロ東北支援プロジェクト                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 409 |      | ケアプロ東北支援プロジェクト                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 410 |      | ケアプロ東北支援プロジェクト                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 411 | (特)  | コドモ・ワカモノ まちing                   | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 412 | (特)  | コドモ・ワカモノ まちing                   | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 413 |      | Volunteer Japan                  | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 414 |      | こども環境会議                          | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 415 | (特)  | サイド・バイ・サイド・インターナショナル             | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 416 | (特)  | サイド・バイ・サイド・インターナショナル             | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 417 | (特)  | サポートハウスじよむ                       | 東京都   | 200,000   | 心とからだの健康支援       |
| 418 | (特)  | ジャパンハート                          | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 419 | (特)  | ジョイントT・M                         | 東京都   | 1,000,000 | 電話無料相談など心のケア支援   |
| 420 | (特)  | スカラーシップ アンド フレンドシップ プラン (S&Fプラン) | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 421 | (特)  | スカラーシップ アンド フレンドシップ プラン (S&Fプラン) | 東京都   | 670,000   | 子ども支援            |
| 422 | (特)  | そらべあ基金                           | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 423 |      | たつみ皆援隊                           | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 424 |      | 環境エネルギー政策研究所                     | 東京都   | 1,000,000 | 自然エネルギーによる支援     |
| 425 |      | デザインングアビリティー                     | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 426 |      | トモノテ 緊急支援プロジェクト                  | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 427 | (特)  | バディチーム                           | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 428 | (特)  | ピアサポートネットしぶや                     | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 429 | (特)  | プレーパークせたがや                       | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 430 |      | プロジェクト結コンソーシアム                   | 東京都   | 966,641   | 子ども支援            |
| 431 |      | 石巻工房                             | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 432 |      | ふんばろう東日本支援プロジェクト                 | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |

| No. | 団体種別 | 団体名                           | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|-------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 433 |      | ふんばろう東日本支援プロジェクト              | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 434 | (特)  | ホープワールドワイド・ジャパン               | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 435 |      | ホームレス支援全国ネットワーク               | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 436 |      | みちのくふる里ネットワーク                 | 東京都   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 437 | (特)  | みらいじま                         | 東京都   | 995,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 438 | (特)  | メディカルメイクアップ アソシエーション          | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 439 | (株)  | ワンバイワン 後方支援ボランティア・双葉町の子どもと遊ぼう | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 440 | (特)  | 移動支援フォーラム                     | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 441 | (特)  | 音楽療法NPOムジカトゥッティ               | 東京都   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 442 |      | 仮設市街地研究会                      | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 443 | (特)  | 介護予防・自立支援・パワーリハビリテーション研究会     | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 444 |      | 海と漁の体験研究所                     | 東京都   | 760,000   | 漁業・農業支援          |
| 445 |      | 外国人の子ども・サポートの会                | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 446 | (福)  | 葛飾福祉館                         | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 447 | (福)  | 葛飾福祉館                         | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 448 |      | 玩具福祉学会                        | 東京都   | 200,000   | 子ども支援            |
| 449 |      | 気仙沼・大島支援プロジェクト                | 東京都   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 450 |      | 江戸川区訪問介護事業者連絡会                | 東京都   | 219,000   | 高齢者・要介護者支援       |
| 451 | (特)  | 江戸川在宅支援グループ                   | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 452 | (特)  | 高齢者・障がい者の旅をサポートする会            | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 453 |      | 国際サイエントロジーボランティア災害救援チーム       | 東京都   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 454 | (特)  | 国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター          | 東京都   | 1,000,000 | 自殺防止活動           |
| 455 |      | 国際印刷大専校                       | 東京都   | 596,000   | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 456 |      | 災害鍼灸マッサージプロジェクト               | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 457 |      | 在宅看護研究センター LLP                | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 458 |      | 三陸ボランティアダイバーズ                 | 東京都   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 459 |      | 子どもの心と身体の成長支援ネットワーク           | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 460 | (特)  | 子ども未来研究所                      | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 461 | (特)  | 自立生活サポートセンター・もやい              | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 462 | (一社) | 実践教育訓練研究協会 建築・デザイン系専門部会       | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 463 | (特)  | 若駒の郷                          | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 464 | (一社) | 手話情報保障センター                    | 東京都   | 981,250   | 障がい者支援           |
| 465 | (一社) | 手話情報保障センター                    | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 466 |      | 助けあいジャパン                      | 東京都   | 929,000   | 心とからだの健康支援       |
| 467 | (福)  | 世田谷ボランティア協会                   | 東京都   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 468 | (特)  | 青少年育成支援ネットワーク                 | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 469 | (特)  | 全国移動サービスネットワーク                | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |



| No. | 団体種別 | 団体名  | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--|-------|-----------|------------------|
| 470 | (一社) | 全国肢体不自由児・者父母の会連合会                          | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 471 | (財)  | 全国青少年教化協議会                                 | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 472 | (一社) | 全日本動物専門教育協会                                | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 473 | (社)  | 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会                          | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 474 |      | 男塾   | 東京都   | 1,000,000 | 搜索活動             |
| 475 |      | 東京海洋大学 産学・地域連携推進機構<br>水産海洋プラネットファーム事業部門    | 東京都   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 476 | (特)  | 東京学芸大こども未来研究所                              | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 477 |      | 東京大学高齢社会総合研究機構                             | 東京都   | 988,000   | 情報支援             |
| 478 | (社)  | 東京都歯科技工士会                                  | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 479 | (特)  | 東京都発達障害支援協会                                | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 480 |      | 東日本環境支援部ーひまわりプロジェクト東大支部ー                   | 東京都   | 494,000   | 心とからだの健康支援       |
| 481 |      | 東日本大震災犬猫レスキュー伊豆大島                          | 東京都   | 1,000,000 | ペット支援            |
| 482 | (一社) | 東日本大震災被災地支援の会                              | 東京都   | 935,000   | 漁業・農業支援          |
| 483 |      | 東北関東大震災ボランティア 美味しい食べ物届け隊                   | 東京都   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 484 |      | 東北大震災/被災デジタル・紙媒体救護班                        | 東京都   | 1,000,000 | 公的機関等の重要文書救出保全活動 |
| 485 |      | 東北地方太平洋沖地震沿岸地域支援基金(有)アーティストバンク             | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 486 |      | 東北復興支援協働ネットワーク                             | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 487 | (特)  | 日本アロマセラピスト協会                               | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 488 | (社)  | 日本インダストリアルデザイナー協会 Design & Trade           | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 489 | (特)  | 日本グッド・トイ委員会                                | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 490 | (特)  | 日本ケア・カウンセリング協会                             | 東京都   | 1,000,000 | ケア従事者へのメンタルケア支援  |
| 491 | (特)  | 日本コンチネンス協会                                 | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 492 |      | 日本シーバルク協会                                  | 東京都   | 500,000   | 子ども支援            |
| 493 | (特)  | 日本せきずい基金                                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 494 | (特)  | 日本せきずい基金                                   | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 495 | (特)  | 日本トイレ研究所                                   | 東京都   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 496 | (特)  | 日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン                         | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 497 | (特)  | 日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン                         | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 498 | (特)  | 日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン                         | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 499 | (特)  | 日本トラベルヘルパー協会                               | 東京都   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 500 | (特)  | 日本トルコ文化交流会                                 | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 501 | (特)  | 日本モーゲージプランナーズ協会                            | 東京都   | 1,000,000 | 二重ローン問題相談        |
| 502 | (公社) | 日本医療社会福祉協会                                 | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 503 |      | Natural Resource Damage Assessment of Asia | 東京都   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 504 |      | 日本精神衛生学会                                   | 東京都   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 505 | (財)  | 日本知的障害者福祉協会                                | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 506 |      | 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会                          | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |

| No. | 団体種別 | 団体名                      | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--------------------------|-------|-----------|------------------|
| 507 | (公社) | 日本認知症グループホーム協会           | 東京都   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 508 | (一社) | 日本発達障害ネットワーク             | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 509 | (特)  | 日本冒険遊び場づくり協会             | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 510 | (福)  | 日本盲人会連合                  | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 511 | (福)  | 日本盲人福祉委員会                | 東京都   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 512 | (社)  | 日本木材保存協会                 | 東京都   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 513 | (一社) | 日本臨床心理士会                 | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 514 | (財)  | 文民教育協会 子どもの文化研究所         | 東京都   | 900,000   | 子ども支援            |
| 515 | (特)  | 放課後NPOアフタースクール           | 東京都   | 910,000   | 子ども支援            |
| 516 |      | 夢さがしプロジェクト               | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 517 |      | 野外教育事業所ワンバク大学            | 東京都   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 518 |      | 陸前高田市支援連絡協議会「Aid TAKATA」 | 東京都   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいつくり支援   |
| 519 | (特)  | 緑のカーテン応援団                | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 520 |      | 鍼灸マッサージボランティア はりきゆう便     | 東京都   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 521 | (特)  | 神奈川海難救助隊                 | 神奈川県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 522 | (特)  | earthlysoul              | 神奈川県  | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 523 |      | NPO地球の楽校                 | 神奈川県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 524 |      | SDCハートー願いを叶える会ー          | 神奈川県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 525 | (特)  | アレルギーを考える母の会             | 神奈川県  | 1,000,000 | 情報支援             |
| 526 | (特)  | ウォーターリスキュマネジメント協会        | 神奈川県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 527 | (一財) | オアシス                     | 神奈川県  | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 528 | (特)  | シュアール                    | 神奈川県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 529 |      | スマイルプロジェクト               | 神奈川県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 530 | (特)  | たんぼぼ                     | 神奈川県  | 390,000   | 生活支援             |
| 531 | (特)  | たんぼぼ                     | 神奈川県  | 358,000   | 生活支援             |
| 532 |      | テイク・オフ                   | 神奈川県  | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 533 |      | テイク・オフ                   | 神奈川県  | 974,000   | 高齢者・要介護者支援       |
| 534 | (特)  | ナイス・ヨコハマ                 | 神奈川県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 535 |      | ならは天神太鼓うしお会              | 神奈川県  | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 536 | (特)  | ハッピーライフ(日本震災福祉支援協会)      | 神奈川県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 537 |      | ママサポーター☆PJ               | 神奈川県  | 1,000,000 | 母親支援             |
| 538 | (特)  | マリンサポート                  | 神奈川県  | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 539 | (特)  | やさしくなろうよ                 | 神奈川県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 540 | (特)  | やさしくなろうよ                 | 神奈川県  | 540,000   | 障がい者支援           |
| 541 | (特)  | やまゆりの会                   | 神奈川県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 542 | (特)  | ユニバーサル・レスキュー・ジャパン        | 神奈川県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 543 | (特)  | よろずや たきの会                | 神奈川県  | 1,000,000 | 障がい者支援           |



| No. | 団体種別 | 団体名                            | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 544 | (特)  | 伊勢原森林里山研究会                     | 神奈川県  | 1,000,000 | 仮設コミュニティ支援       |
| 545 | (特)  | 横浜移動サービス協議会                    | 神奈川県  | 1,000,000 | 生活支援             |
| 546 |      | 芽吹きの子                          | 神奈川県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 547 |      | 海をつくる会                         | 神奈川県  | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 548 | (特)  | 教育支援グループEd.ベンチャー               | 神奈川県  | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 549 |      | 災害支援 海の仲間たち                    | 神奈川県  | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 550 |      | 災害復興支援ボランティアねっと                | 神奈川県  | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 551 | (社)  | 神奈川県歯科技工士会                     | 神奈川県  | 1,000,000 | 医療支援             |
| 552 |      | 全国訪問ボランティアナースの会キャンナス           | 神奈川県  | 1,000,000 | 医療支援             |
| 553 |      | 全国訪問ボランティアナースの会キャンナス           | 神奈川県  | 1,000,000 | 医療支援             |
| 554 | (特)  | 地球市民ACTかながわ／TPAK               | 神奈川県  | 850,000   | 心とからだの健康支援       |
| 555 | (特)  | 地球市民ACTかながわ／TPAK               | 神奈川県  | 939,000   | 子ども支援            |
| 556 |      | 東海大学チャレンジセンター 3.11生活復興支援プロジェクト | 神奈川県  | 1,000,000 | 情報支援             |
| 557 | (特)  | 有形デザイン機構                       | 神奈川県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 558 | (特)  | おちや元気プロジェクト                    | 新潟県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 559 |      | 演劇工房じゅ★えん                      | 新潟県   | 300,000   | 子ども支援            |
| 560 |      | SVTS風組                         | 新潟県   | 989,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 561 |      | 災害応援にゃんこ隊                      | 新潟県   | 754,000   | 子ども支援            |
| 562 | (一社) | 新潟地域福祉協会                       | 新潟県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 563 |      | とやま311ネット                      | 富山県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 564 | (特)  | いみず市民メディア                      | 富山県   | 1,000,000 | 夏休みのホームステイ支援     |
| 565 | (特)  | 富山観光創造会議                       | 富山県   | 1,000,000 | 一時避難支援           |
| 566 |      | 能登・金沢足湯隊                       | 石川県   | 989,000   | 足湯活動             |
| 567 |      | 民間防災ボランティア                     | 石川県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 568 | (特)  | ふくい災害ボランティアネット                 | 福井県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 569 |      | 大谷派 災害ボランティアネットワーク福井           | 福井県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 570 |      | 土の会                            | 福井県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 571 | (特)  | 楽空(らく)                         | 山梨県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 572 | (特)  | グリーンエネルギー研究会                   | 山梨県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 573 | (特)  | 甲斐のめぐみ                         | 山梨県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 574 | (特)  | 都留環境フォーラム                      | 山梨県   | 720,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 575 | (特)  | 河口湖自然楽校                        | 山梨県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 576 |      | 山梨お口とコミュニケーションを考える会            | 山梨県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 577 |      | 都留文科大学災害ボランティアサークルVS           | 山梨県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 578 | (特)  | 長野サマライズ・センター                   | 長野県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 579 | (福)  | みまき福祉会                         | 長野県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 580 | (福)  | 依田窪福祉会                         | 長野県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |

| No. | 団体種別 | 団体名                             | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|---------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 581 | (福)  | 大樹会                             | 長野県   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 582 | (特)  | グリーンウッド自然体験教育センター               | 長野県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 583 | (特)  | 佐久平総合リハビリセンター                   | 長野県   | 314,000   | 高齢者・要介護者支援       |
| 584 |      | 国際NGO Life Investigation Agency | 長野県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 585 | (学)  | 松本大学                            | 長野県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 586 | (特)  | 伝統木構造の会 信州事務局                   | 長野県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 587 | (特)  | 日本動物介護センター                      | 岐阜県   | 1,000,000 | ペット支援            |
| 588 | (特)  | グラウンドワーク三島                      | 静岡県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 589 |      | 清水災害ボランティアネットワーク                | 静岡県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 590 | (特)  | 伊豆どろんこの会                        | 静岡県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 591 |      | SAVE IWATE 静岡支部                 | 静岡県   | 585,845   | 炊き出し支援           |
| 592 | (福)  | 伊東市社会福祉協議会                      | 静岡県   | 400,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 593 |      | Mama to mama                    | 愛知県   | 999,000   | 母親支援             |
| 594 |      | SAGIP Migrante Japan            | 愛知県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 595 |      | チームレスキュー                        | 愛知県   | 300,000   | 物資支援             |
| 596 |      | チームレスキュー                        | 愛知県   | 720,000   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 597 |      | チームレスキュー                        | 愛知県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 598 |      | できること@名古屋                       | 愛知県   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 599 | (特)  | ふわり                             | 愛知県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 600 | (福)  | むそう                             | 愛知県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 601 | (特)  | ら・ばるか                           | 愛知県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 602 |      | リフードア                           | 愛知県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 603 | (特)  | 全国福祉理美容師養成協会                    | 愛知県   | 999,000   | 心とからだの健康支援       |
| 604 |      | 庭JAPAN                          | 愛知県   | 992,000   | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 605 | (特)  | 転輪太鼓                            | 愛知県   | 1,000,000 | 文化・芸術・伝統復興支援     |
| 606 | (特)  | 東海福祉移動研究協議会                     | 愛知県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 607 |      | 東日本大震災復興NPO支援東海プロジェクト           | 愛知県   | 1,000,000 | 復興支援に携わるNPOの支援   |
| 608 | (特)  | 表浜ネットワーク                        | 愛知県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 609 |      | 豊橋ユネスコ協会                        | 愛知県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 610 |      | 籾島工務店                           | 愛知県   | 500,000   | 生活支援             |
| 611 | (特)  | 愛伝舎                             | 三重県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 612 |      | SOS運動 伊勢支部                      | 三重県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 613 |      | 東紀州コミュニティデザイン                   | 三重県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 614 |      | みえ災害ボランティア支援センター                | 三重県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 615 | (特)  | TEAM笑美S                         | 三重県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 616 | (特)  | コミュニティ・アーキテクト(近江環人)ネットワーク       | 滋賀県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 617 |      | 関西木造住文化研究会                      | 京都府   | 1,000,000 | 被災建物の修復支援        |



| No. | 団体種別 | 団体名                                | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|------------------------------------|-------|-----------|------------------|
| 618 |      | 嵐山クッキングバル同好会                       | 京都府   | 464,000   | 炊き出し支援           |
| 619 |      | 西京少年補導委員会松尾支部有志災害救援ボランティア          | 京都府   | 700,000   | 心とからだの健康支援       |
| 620 |      | 東北・関東大震災子どもを助ける会                   | 京都府   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 621 |      | Live on                            | 京都府   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 622 | (一社) | IPNET-Jインタープリテーションネットワーク・ジャパン      | 大阪府   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 623 |      | Toothbrush_Aid                     | 大阪府   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 624 | (特)  | シーエス障害者放送統一機構                      | 大阪府   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 625 | (特)  | ジャパン アウトドア メディカル サポート              | 大阪府   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 626 | (特)  | チャイルド・ケモ・ハウス                       | 大阪府   | 600,000   | 医療支援             |
| 627 | (特)  | トゥギャザー                             | 大阪府   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 628 | (特)  | み・らいず                              | 大阪府   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 629 | (特)  | み・らいず                              | 大阪府   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 630 | (特)  | ユニバーサルデザイン推進協会                     | 大阪府   | 1,000,000 | 高齢者・要介護者支援       |
| 631 |      | 関西建築家ボランティア                        | 大阪府   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 632 | (福)  | 視覚障害者文化振興協会                        | 大阪府   | 1,000,000 | 情報支援             |
| 633 |      | 歯科保健研究会                            | 大阪府   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 634 |      | 全国のハンドメイド作家による「ハンドメイドで被災地支援」ネットワーク | 大阪府   | 971,000   | 子ども支援            |
| 635 |      | 全国若手福祉従事者ネットワーク                    | 大阪府   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 636 |      | 大阪大学災害ボランティアサークル すずらん              | 大阪府   | 945,000   | 雇用促進・生きがいづくり支援   |
| 637 | (特)  | 日本アニマルトラスト                         | 大阪府   | 1,000,000 | ペット支援            |
| 638 | (一社) | 日本メディアアート協会                        | 大阪府   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 639 | (特)  | 日本森林ボランティア協会                       | 大阪府   | 400,000   | 心とからだの健康支援       |
| 640 |      | ブレーンヒューマニティー                       | 兵庫県   | 989,149   | ボランティア派遣・コーディネート |
| 641 | (特)  | 神戸大学ぼらばん大船渡市復興支援プロジェクト             | 兵庫県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 642 | (特)  | Future & Hope                      | 兵庫県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 643 |      | JETAP                              | 兵庫県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 644 | (特)  | PARIF                              | 兵庫県   | 903,000   | 子ども支援            |
| 645 |      | WF ※                               | 兵庫県   | 0         | 医療支援             |
| 646 | (福)  | きらくえん                              | 兵庫県   | 665,385   | 高齢者・要介護者支援       |
| 647 | (特)  | すばる舎                               | 兵庫県   | 1,000,000 | 炊き出し支援           |
| 648 | (特)  | でかけ隊                               | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 649 |      | ボランティアグループ めばえ                     | 兵庫県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 650 |      | ユー・アイ・アソシエーション                     | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 651 |      | まごころ便                              | 兵庫県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 652 | (特)  | ママの働き方応援隊                          | 兵庫県   | 990,000   | 物資支援             |
| 653 | (特)  | リアン研究所                             | 兵庫県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 654 |      | ろっこう医療生活協同組合                       | 兵庫県   | 1,000,000 | 医療支援             |

| No. | 団体種別 | 団体名                        | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|----------------------------|-------|-----------|------------------|
| 655 |      | 縁の下のもぐら                    | 兵庫県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 656 | (特)  | 関西アロマセラピスト・フォーラム           | 兵庫県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 657 |      | 三田を知る会                     | 兵庫県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 658 | (特)  | 神戸西助け合いネットワーク              | 兵庫県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 659 |      | 神戸耐震大学                     | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 660 |      | 神戸大学学生震災救援隊                | 兵庫県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 661 | (特)  | 神戸定住外国人支援センター              | 兵庫県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 662 | (特)  | 多重債務による自死をなくす会コアセンター・コスモス  | 兵庫県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 663 |      | 兵庫県移送サービスネットワーク            | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 664 |      | 兵庫県移送サービスネットワーク            | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 665 |      | 兵庫県介護支援専門員協会 明石支部          | 兵庫県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 666 | (福)  | 兵庫県社会福祉協議会 (ひょうごボランティアプラザ) | 兵庫県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 667 |      | 兵庫県病院歯科医会                  | 兵庫県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 668 | (特)  | 宝塚NPOセンター                  | 兵庫県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 669 | (福)  | 野花会                        | 兵庫県   | 1,000,000 | 母親支援             |
| 670 | (福)  | たんぼぼの家                     | 奈良県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 671 |      | 仮住まい邑サポート                  | 奈良県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 672 |      | インターネット・キャラバン              | 和歌山県  | 925,000   | 情報支援             |
| 673 | (福)  | 若葉                         | 広島県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 674 |      | 日本赤十字広島看護大学 心のケアチーム        | 広島県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 675 | (特)  | 優喜会                        | 山口県   | 944,000   | 生活支援             |
| 676 |      | じゃがいもの会                    | 山口県   | 1,000,000 | 生活支援             |
| 677 |      | ZENKON湯実行委員会               | 香川県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 678 | (特)  | MAKE THE HEAVEN            | 香川県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 679 | (特)  | 四国スポーツ環境リレーション             | 愛媛県   | 1,000,000 | 物資支援             |
| 680 | (特)  | 愛媛アカデミア                    | 愛媛県   | 1,000,000 | 子ども支援            |
| 681 | (特)  | 土佐の森・救援隊                   | 高知県   | 1,000,000 | 心とからだの健康支援       |
| 682 |      | 四万十塾：高知リスpons協会            | 高知県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 683 |      | 四万十塾                       | 高知県   | 1,000,000 | がれき撤去、泥出し、片付け活動  |
| 684 | (特)  | SONERS                     | 福岡県   | 1,000,000 | 漁業・農業支援          |
| 685 | (特)  | チャイルドライン「もしもしキモチ」          | 福岡県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 686 | (福)  | 北九州市手をつなぐ育成会               | 福岡県   | 1,000,000 | 障がい者支援           |
| 687 | (特)  | あいの会                       | 福岡県   | 1,000,000 | 医療支援             |
| 688 |      | 福岡教育大学 震災支援グループ            | 福岡県   | 225,626   | 情報支援             |
| 689 | (特)  | レスキューサポート九州                | 大分県   | 882,000   | 情報支援             |
| 690 | (特)  | 大分県防災活動支援センター              | 大分県   | 600,000   | 炊き出し支援           |
| 691 | (特)  | 宮崎文化本舗                     | 宮崎県   | 1,000,000 | 雇用促進・生きがいづくり支援   |



| No. | 団体種別 | 団体名                | 団体所在地 | 助成金額      | 活動分野             |
|-----|------|--------------------|-------|-----------|------------------|
| 692 | (特)  | エコワールドきりしま         | 宮城県   | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 693 |      | アースデイ奄美            | 鹿児島県  | 1,000,000 | ボランティア派遣・コーディネート |
| 694 |      | K T L C被災地支援プロジェクト | 鹿児島県  | 1,000,000 | 物資支援             |
| 695 | (特)  | 沖縄ウォーターパトロールシステム   | 沖縄県   | 1,000,000 | 捜索活動             |

2012年3月31日現在

※事業実施にあたっての詐欺行為が発覚しています。これを契約の趣旨に反する行為として、現在助成金の全額返金を求めています。

(特)の団体名は、各団体が日本財団に提出した書類をもとに、内閣府NPOホームページ掲載のNPO法人ポータルサイト(全国特定非営利活動法人情報の検索)に基づいて、一部修正を加えました。

## 支援物資一覧

皆さまから頂いた支援物資は、愛宕倉庫株式会社及びヤマトボックスチャーター株式会社のご協力のもと、迅速に被災地へ届けることができました。改めてここに御礼申し上げます。

| 協賛企業・団体            | 協賛内容   | 行き先             | 用途           | 現地調整団体                              | 配付日       |
|--------------------|--|-----------------|--------------|-------------------------------------|-----------|
| 浅川造船(株)            | 水(1,200本)、カップ麺(240食)                                       | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| アダプトゲン製薬(株)        | 風邪薬、胃腸薬、解熱鎮痛剤  | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| 井村造船(株)            | 水(1,200本)、カップ麺(1,000食)                                     | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)大林組             | 土のう袋(15,000袋)  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| カーボンフリーコンサルティング(株) | 救援物資の搬送(4トトラック1台)  | 東北全域            | 救援物資の搬送      | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)神田造船所           | 水(240本)、缶詰(144個)、食料品                                       | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| ソフトバンクモバイル(株)      | 携帯電話(300台)、利用代金無償サービス(3ヵ月程度)                               | 宮城県仙台市他         | 現場コーディネータ連絡用 | つなプロ仙台事務所                           | 2011.3.17 |
|                    |  | 宮城県             | 障がい者用        | (社)宮城県ろうあ協会                         | 2011.3.17 |
|                    |  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| 大成建設(株)            | 土のう袋(15,000袋)  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)トレッカ            | お茶(5,280本)   | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)日東サービス          | マスク(15,000枚)   | 福島県福島市、いわき市、相馬市 | 避難所用、現場作業用   | (特)うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.3.17 |
| 檜垣造船(株)            | 水(1,800本)、カップ麺(3,000食)、缶詰(1,200個)、割り箸(3,000膳)、ペーパータオル等、その他 | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| 福岡造船(株)            | お茶(1,830本)、カップ麺(600食)                                      | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| 富士化水工業(株)          | マスク(約120箱)   | 福島県福島市、いわき市、相馬市 | 避難所用、現場作業用   | (特)うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.3.17 |
| 前田建設工業(株)          | 土のう袋(1,000袋)   | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)マキタ             | 水、お茶、粉ミルク、おむつ、ナフキン、軍手、食糧、ブルーシート                            | 福島県福島市、いわき市、相馬市 | 避難所用、現場作業用   | (特)うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.3.17 |
| (公財) マリンスポーツ財団     | ガソリン缶等   | 宮城県石巻市          | 現場作業用        | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (有)マル二商店           | トイレトペーパー(480ロール)   | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| 三井造船(株)            | トイレトペーパー(2,400ロール)   | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.17 |
| (株)アイエスエフネット       | 生活用品   | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福)愛和福祉会           | 菓子、缶入りパン、マスクなど   | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| 伊藤忠商事(株)           | レトルトカレー(1,000食)、紙おむつ、マスク他                                  | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                | 2011.3.18 |
|                    | レトルトカレー(1,000食)、紙おむつ、マスク、粉ミルク、衣類                           | 福島県福島市、いわき市、相馬市 | 避難所用、現場作業用   | (特)うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.3.18 |
| (株)オーテックジャパン       | 車両   | 宮城県石巻市          | 現場作業用        | 日本財団                                | 2011.3.18 |
| (福)共生シンフォニー        | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福)熊本県社会福祉事業団      | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福)県南福祉会           | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福)高知小鳩会           | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福)心の会             | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独)仙台医療センター                         | 2011.3.18 |

| 協賛企業・団体                       | 協賛内容   | 行き先             | 用途           | 現地調整団体                               | 配付日       |
|-------------------------------|--|-----------------|--------------|--------------------------------------|-----------|
| (福)コミュニティネットワークふくい            | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) さつき福祉会                    | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| 全国自立生活センター協議会                 | おむつ (2,453枚) の輸送   | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) 田村やまびこ会                   | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) つきしろ福祉会                   | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) 長良福祉会                     | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) 美深福祉会                     | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) みやこ                       | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) ゆうわ会                      | 菓子、缶入りパン、マスク等  | 石巻市立湊小学校        | 避難所用         | (独) 仙台医療センター                         | 2011.3.18 |
| (福) 富岳会                       | トイレトーパー、紙おむつ、生理用品等 (約2,500点)   | 宮城県石巻市          | 避難所用         | アーティストバンク                            | 2011.3.19 |
| Green Tree Hotel (中国)         | 防寒衣類 (5,000着)、毛布 (5,000枚)、スリッパ (5,000足)、手動式懐中電灯 (5,000個)                           | 宮城県、茨城県の沿岸部中心   | 避難所用         | 宮城復興支援センター<br>アーティストバンク              | 2011.3.23 |
| (株) コシダカ                      | ボランティア拠点 (カラオケボックス)、洗濯機、シャワーユニット等  | 宮城県石巻市          | ボランティア受入     | 日本財団                                 | 2011.3.23 |
| (福) 名古屋ライトハウス                 | 土のう袋 (250袋)  | 宮城県             | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.3.28 |
| 富士通 (株)                       | 被災者アセスメント、救援物資に関するデータベースサービス   | -               | 被災地との情報連携用   | 日本財団                                 | 2011.3.29 |
| 足立石灰工業 (株)                    | 消石灰 (1t)   | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.3.31 |
| (株) アヅマ                       | 手指消毒液 (2,932本)   | 宮城県仙台市          | 避難所用         | つなプロ仙台事務所                            | 2011.3.31 |
| (株) エスエスイー、(株) タイエスト          | 除菌抗菌剤 (200本)、20ℓ入りポリタンク (10本)  | 宮城県仙台市          | 避難所用         | つなプロ仙台事務所                            | 2011.3.31 |
| (株) 京都工芸                      | フェイスタオル (約600枚)、バスタオル (約200枚)  | 岩手県遠野市          | ボランティア用      | 震災がつなぐ全国ネットワーク                       | 2011.3.31 |
| (株) 三和ドック                     | トイレトーパー (2,400ロール)   | 宮城県石巻市          | 避難所用         | 日本財団                                 | 2011.3.31 |
| (株) 大昌建設                      | 土のう袋 (1,000袋)  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.3.31 |
| (福) 名古屋ライトハウス                 | パンの缶詰 (3,000缶)、クッキー (20ケース)、手指消毒アルコールジェル (240本)                                    | 宮城県仙台市          | 避難所用         | つなプロ仙台事務所                            | 2011.3.31 |
| Filligent Limited             | 高性能防塵マスク (100,000個)  | 福島県福島市、いわき市、相馬市 | 避難所用、現場作業用   | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.3.31 |
| The Goldman Sachs Group, Inc. |  |                 |              |                                      |           |
| 丸一商事 (株)                      | 手ぬぐい (1,500枚)、タオル (65枚)<br>バスタオル (30枚)、安全靴 (30足)                                   | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.3.31 |
| 明治ホールディングス (株)                | 飲料 (7,200本)  | 宮城県石巻市          | 避難所用         | (学) 石巻専修大学                           | 2011.3.31 |
| (株) メリーチョコレートカムパニー            | ミニバッグ (2,520個)、保存食チョコレート<br>(4,500個)、チョコレート (620個)                                 | 宮城県仙台市          | 避難所用         | つなプロ仙台事務所                            | 2011.3.31 |
| ユニチャーム (株)                    | 子ども用マスク (42,000枚)  | 福島県飯館村          | 避難所用         | 飯館村役場                                | 2011.3.31 |
| 森永製菓 (株)                      | 食料等  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.3.   |
| (株) CDG                       | ポケットティッシュ (1,000個)、ボックスティッシュ<br>(200個)、マスク (2,000枚)、トイレトーパー<br>(240ロール)、タオル (480枚) | 宮城県栗原市          | 避難所用         | アーティストバンク                            | 2011.4.6  |
| 福井ミナセル (株)                    | マット (50枚)  | 宮城県角田市          | 避難所用         | 角田市役所                                | 2011.4.6  |
| 富士通 (株)                       | ノートパソコン本体 (25台)、ウイルス対策ソフト (25本)、マウス<br>(40個)、電源タップ (10個)、震災地運行管理用地図 (5枚)           | 宮城県仙台市          | 現場コーディネータ連絡用 | つなプロ仙台事務所                            | 2011.4.12 |
| (株) 文化放送                      | リスナーから集められたラジオ、電池 (1,000個)   | 宮城県名取市、茨城県北茨城市  | 避難所用         | アーティストバンク                            | 2011.4.13 |
| (福) 皆の郷                       | せんべい (300袋)、半生うどん (200袋)   | 宮城県             | 避難所用         | 日本財団                                 | 2011.4.14 |
| ダイムラー AG                      | 特殊車両 (50台)   | 東北全域            | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2012.4.15 |
| 宮城県大郷町                        | ボランティア受入場所の提供  | 宮城県石巻市          | ボランティア受入     | Gakuvo                               | 2011.4.15 |
| (株) オキナ                       | マウスウォッシュ (10,000個)   | 宮城県             | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.4.19 |
| 松田ブラシ工業所                      | 歯ブラシ (2,000本)  | 宮城県             | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.4.20 |
| 足立石灰工業 (株)                    | 消石灰 (20kg)   | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| エスケエ鉄工 (株)                    | マスク (300枚)、軍手・タオル (各3ダース)  | 宮城県石巻市          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| (株) オーテックジャパン                 | 車いす (15台)  | 宮城県石巻市          | 障がい者用        | 石巻被災障害者支援センター                        | 2011.4.22 |
| (株) 岐阜クリエート                   | ポケットティッシュ (1,000個)、ボックスティッシュ<br>(200個)、マスク (2,000枚)、トイレトーパー<br>(240ロール)、タオル (480枚) | 福島県いわき市         | 避難所用、現場作業用   | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.4.22 |



| 協賛企業・団体                            | 協賛内容   | 行き先              | 用途           | 現地調整団体                               | 配付日       |
|------------------------------------|--|------------------|--------------|--------------------------------------|-----------|
| ケイライン ロジステックス (株)                  | マスクの海上輸送にかかる無償協力   | —                | マスクの海上輸送     | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| JA三方五湖農業協同組合梅生産部                   | 梅干し (10,000個)  | 宮城県石巻市、気仙沼市、岩手県  | 避難所用         | 気仙沼市社会福祉協議会                          | 2011.4.22 |
| 塩尻市役所消防防災課                         | 土のう袋 (1,000袋)  | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| (株) 重松製作所                          | 防塵マスク (60個)、保護メガネ (40個)  | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| ショウワノート (株)                        | じゆうちょう (11,200冊)、ぬりえ (11,200冊)<br>パスル (5,760個)   | 福島県福島市           | 小学校等         | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.4.22 |
| 大成建設 (株)                           | 土のう袋 (10,000袋)   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| (株) ナカノフード建設                       | ポリタンク (31個)  | 宮城県七ヶ浜町          | ボランティア用      | 震災がつなぐ全国ネットワーク                       | 2011.4.22 |
|                                    | ブルーシート (1,000枚)  | 福島県飯館村           | 避難所用         | 飯館村役場                                | 2011.4.22 |
| (一財) 日本水路協会                        | 防塵マスク (85個)  | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| 日本たばこ産業 (株)                        | 米 (4,824kg)、飲料 (5,224本)<br>粉末スープ類 (108食)   | 岩手県遠野市           | 避難所用         | 遠野災害ボランティア支援センター                     | 2011.4.22 |
| 日本薬品開発 (株)                         | 入浴剤 (24個)  | 宮城県七ヶ浜町          | ボランティア用      | 震災がつなぐ全国ネットワーク                       | 2011.4.22 |
| (株) バスクリン                          | 入浴剤 (150個)   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| 福井県若狭農業協同組合                        | 米 (12俵)  | 宮城県石巻市、気仙沼市、岩手県  | 避難所用         | 東日本大震災移動支援<br>ボランティアRera             | 2011.4.22 |
| 福井県若狭町                             | 水 (1,800本)   | 宮城県石巻市、気仙沼市、岩手県  | 避難所用         | 福井県災害ボランティア連絡会                       | 2011.4.22 |
| (特) 福祉ネットこうえん会                     | 水 (144本)、自然塩 (600袋)、時計型薪ストーブ<br>(3台)、燻華薪 (30袋)   | 宮城県石巻市、気仙沼市、岩手県  | 避難所用         | 福井県災害ボランティア連絡会                       | 2011.4.22 |
| 富士通 (株)                            | ノートパソコン (76台)  | 宮城県仙台市           | 現場コーディネータ連絡用 | つなプロ仙台事務所                            | 2011.4.22 |
| (株) フジテレビジョン                       | スタップジャンパー (100着)   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| (株) ヘルスピーティ                        | 入浴剤セット (10kg)、バケツ (30個)、<br>タオル (5枚)   | 岩手県遠野市           | ボランティア用      | 震災がつなぐ全国ネットワーク                       | 2011.4.22 |
| BOAT RACE振興会                       | サージカルマスク (12,000枚)   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.4.22 |
| (株) ボッカコーポレーション                    | 飲料 (3,600本)  | 福島県福島市、いわき市、相馬市  | 避難所用         | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.4.22 |
| (株) マーフィード                         | 高機能浄水器 (11台)   | 福島県相馬市           | 住民の飲料水用      | 福島県相馬市役所                             | 2011.4.22 |
| Mikuro Metal Malaysia              | 高性能マスク (27,000個)   | 福島県福島市           | 避難所用、現場作業用   | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.4.22 |
| (公財) ヤマハ発動機<br>スポーツ振興財団            | サッカーボール、ドッジボール、長縄 (各500個)、<br>スケッチブック (12,000冊)、クレヨン8色 (9,000箱)、<br>色鉛筆、プラスチッククレヨン (各1,500本) | 福島県福島市           | 小学校等         | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.4.22 |
| 王子紙器製造 (株)                         | 段ボール箱 (300箱)   | 宮城県              | 物資仕分け用       | つなプロ仙台事務所                            | 2011.4.26 |
| ファイン (株)                           | 歯ブラシ (大人用2,250本、子供用750本)   | 宮城県              | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.4.26 |
| モトローラ・ソリューションズ (株)                 | 無線機等   | 宮城県石巻市           | 現場作業用        | 日本財団                                 | 2011.5.   |
| 日本無線 (株)                           | 魚群探知機 (2基)   | 宮城県石巻市           | 海底調査         | 日本財団                                 | 2011.5.2  |
| 古野電気 (株)                           | 魚群探知機 (2基)   | 宮城県石巻市           | 海底調査         | 日本財団                                 | 2011.5.2  |
| (株) アースダンボール                       | 段ボール (300箱)  | 宮城県              | 物資仕分け用       | つなプロ仙台事務所                            | 2011.5.10 |
| (株) アヅマ                            | 手指消毒剤 (2,772本)   | 宮城県              | 避難所用         | つなプロ仙台事務所                            | 2011.5.10 |
| 三和歯ブラシ工業所                          | 歯ブラシ (13,350本)   | 宮城県              | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.5.10 |
| 塩野義製薬 (株)                          | 入れ歯洗浄剤 (14,000錠)   | 宮城県              | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.5.10 |
| (株) 重松製作所                          | ゴーグル (10個)   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | Gakuvo                               | 2011.5.10 |
| 大成段ボール (株)                         | 段ボール (450箱)  | 宮城県              | 物資仕分け用       | つなプロ仙台事務所                            | 2011.5.10 |
| 太平洋化学産業 (株)                        | 歯磨剤 (100本)   | 宮城県              | 避難所用         | 歯科医師会                                | 2011.5.10 |
| (社) 日本造船協力事業者団体連合会                 | ヘルメット (40個)、ゴーグル (30個)   | 宮城県              | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.5.10 |
| プラス (株)                            | ハサミ (1,200本)、定規 (1,400本)   | 宮城県              | 小学校等         | (特) チェック                             | 2011.5.10 |
| (公財) ヤマハ発動機<br>スポーツ振興財団            | スケッチブック (11,500冊)、ジャンボクレヨン<br>(4,000個)、クレヨン8色 (1,000個)、クレヨン16色<br>(3,500個)、クレヨン24色 (3,000個)  | 福島県福島市           | 小学校等         | Bridge for Fukushima                 | 2011.5.10 |
| (有) トスワーク                          | マット、段ボール (50箱)   | 宮城県角田市           | 避難所用         | 角田市役所                                | 2011.5.11 |
| 山崎製パン (株)                          | 朝食パン   | 宮城県、福島県          | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.5.11 |
| 埼玉県戸田市                             | 自転車、マスク等   | 宮城県石巻市           | ボランティア用      | 日本財団                                 | 2011.5.12 |
| (株) テレビ東京                          | ペンセット (1,200本)、ぬいぐるみペン (3,120本)  | 福島県福島市           | 小学校等         | (特) うつくしまNPOネットワーク<br>ふくしま県民活動支援センター | 2011.5.12 |
| New Zealand Quality Waters Limited | 水 (16,884本)  | 宮城県東松島市、福島県いわき市他 | 避難所用、自宅避難者用  | アーティストバンク                            | 2011.5.27 |

| 協賛企業・団体   | 協賛内容   | 行き先                       | 用途          | 現地調整団体               | 配付日        |
|---|--|---------------------------|-------------|----------------------|------------|
| (株) アイスジャパン   | 保冷剤 (5,040個)   | 宮城県東松島市                   | 避難所用        | アーティストバンク            | 2011.5.31  |
| アサヒカルピスビバレッジ (株)  | 水 (120本)   | 福島県福島市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (株) アベックス   | 水 (138本)   | 福島県福島市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (株) 伊藤園   | 飲料 (48本)   | 大洗観光情報センター、<br>大洗シーサイドホテル | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (72本)   | 宮城県名取市、多賀城市、石巻市           | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (24本)   | 茨城県神栖市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (24本)   | 岩手県奥州市消防防災課               | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (24本)   | 宮城県                       | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (有) エン  | バスローション (50本)  | 岩手県遠野市                    | ボランティア用     | 震災がつなぐ全国ネットワーク       | 2011.5.31  |
| (株) コカ・コーラウエスト  | お茶 (72本)   | 宮城県名取市、多賀城市、石巻市           | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | お茶 (48本)   | 岩手県奥州市消防防災課               | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| サッポロ飲料 (株)  | 飲料 (24本)   | 茨城県神栖市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (456本)  | 福島県福島市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (株) ジャパンビバレッジ<br>ホールディングス                               | お茶 (96本)、飲料 (294本)   | 宮城県七ヶ浜町                   | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| 西武商事 (株)  | 飲料 (24本)   | 岩手県奥州市消防防災課               | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| ダイドードリンコ (株)  | 飲料 (24本)   | 茨城県神栖市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (48本)   | 岩手県奥州市消防防災課               | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| 日東パシフィックベンディング (株)                                      | 飲料 (84本)   | 宮城県名取市、多賀城市、石巻市           | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (24本)   | 岩手県奥州市消防防災課               | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | 飲料 (24本)   | 大洗観光情報センター、<br>大洗シーサイドホテル | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (株) 八洋  | お茶 (24本)   | 茨城県神栖市                    | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
|   | お茶 (24本)   | 宮城県七ヶ浜町                   | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| 南九州コカ・コーラボトリング (株)                                      | 飲料 (40本)   | 宮城県七ヶ浜町                   | 避難所用        | 日本財団                 | 2011.5.31  |
| (株) 寺岡精工  | 純水給水器 (5台)   | 福島県福島市、川俣町                | 託児施設用       | 日本財団調整、提供企業設置        | 2011.6.17  |
| (有) 悦華  | マット (120枚)   | 宮城県栗原市                    | 仮設住宅、自宅避難者用 | アーティストバンク            | 2011.6.27  |
| クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン (株)<br>グローバル・リアルエステート&ファッションティーズ | 敷布団・掛蒲団 (150組)、シーツ (150枚)、<br>枕 (150個)、毛布 (140枚)   | 宮城県栗原市                    | 仮設住宅、自宅避難者用 | アーティストバンク            | 2011.6.27  |
| ザーレン・コーポレーション (株)                                       | 菓子 (42,600本)   | 宮城県石巻市                    | 避難所用        | アーティストバンク            | 2011.7.4   |
| 東京都製本工業組合墨田支部<br>二世会 若墨会                                | ノート (4,290冊)、便箋 (300冊)、<br>スケッチブック (1,213冊)、メモ帳 (472冊)、<br>壁新聞用紙 (500枚)、クレヨン、パステル、色鉛筆<br>クーピー、カラーサインペン (各150セット) | 宮城県石巻市                    | 避難所用        | アーティストバンク            | 2011.7.4   |
| (株) 海竜社   | 絵本 (150冊)  | 石巻市立女川第一小学校               | 小学校等        | (特) カタリバ             | 2011.7.7   |
| BOAT RACE振興会  | クルスカーフ (2,000枚)  | 宮城県石巻市 他                  | ボランティア用     | 日本財団                 | 2011.7.11  |
| (社) 日本造船協力事業者団体連合会                                      | 塩飴 (10袋)、粉末飲料 (100袋)   | 宮城県石巻市                    | ボランティア用     | Gakuvo               | 2011.7.11  |
| (株) リクルート   | 車両 (45台)   | 東北全域                      | ボランティア用     | 日本財団                 | 2011.8.1   |
| Le Bleu Corporation                                     | 水 (11,880本)  | 宮城県石巻市                    | 子育て中の被災者用   | Stand for mothers    | 2011.8.4   |
| (株) クオラス  | Le Bleu Corporationの仲介   | -                         | -           | -                    | 2011.8.4   |
| アップリカ:チルドレンズプロダクツ (株)                                   | プレイヤード (100台)  | 東北全域                      | 子育て中の被災者用   | Stand for mothers    | 2011.8.22  |
| (株) リンクライン  | 水 (360ℓ)、石鹸 (1,200個)   | 福島県南相馬市                   | 託児施設用       | Bridge for Fukushima | 2011.8.22  |
| (福) 秀峰会   | 殺虫剤、防虫剤 (604個)   | 宮城県東松島市                   | ボランティア用     | (特) DSP災害支援プロジェクト    | 2011.8.23  |
| アップリカ:チルドレンズプロダクツ (株)                                   | 子守帯 (28個)、ベビーカー (40台)、<br>チャイルドシート (40台)   | 東北全域                      | 子育て中の被災者用   | Stand for mothers    | 2011.9.12  |
| (株) ファーストリテイリング   | 秋冬物衣類 (1,000着)、ブランケット (450枚)   | 東北全域                      | 仮設住宅、自宅避難者用 | Stand for mothers    | 2011.9.26  |
| (株) ガリバーインターナショナル                                       | 車両 (13台)   | 東北全域                      | ボランティア用     | 日本財団                 | 2011.11.2  |
| (株) ベネッセコーポレーション  | おむつ (95箱)  | 東北全域                      | 子育て中の被災者用   | Stand for mothers    | 2011.12.26 |
| 富士フィルム (株)  | マスク (100,000枚)、ハンドジェル<br>(10,000個)、ブランケット (30,000枚)、<br>化粧水など (8,800個)   | 東北全域                      | 仮設住宅、自宅避難者用 | 石巻復興連携ネットワーク等        | 2012.2.20  |
| Le Bleu Corporation                                     | 水 (11,880本)  | 福島県南相馬市                   | 仮設住宅、自宅避難者用 | (特) MEX              | 2012.3.30  |

2012年3月31日現在



## 弔慰金・見舞金の配付内訳 17,329名 (警察庁発表の東日本大震災による死者・行方不明者18,940名のうち充足率 91.5%)

| 都道府県 | 市町村   | 合計(人) | 配布率(%) |
|------|-------|-------|--------|
| 岩手県  | 陸前高田市 | 1,620 | 90.6   |
|      | 大槌町   | 1,079 | 84.4   |
|      | 釜石市   | 856   | 81.9   |
|      | 山田町   | 732   | 96.7   |
|      | 宮古市   | 447   | 84.8   |
|      | 大船渡市  | 392   | 92.9   |
|      | 田野畑村  | 36    | 100    |
|      | 野田村   | 28    | 73.7   |
|      | 盛岡市   | 24    | 100    |
|      | 住田町   | 16    | 100    |
|      | 岩泉町   | 9     | 100    |
|      | 普代村   | 8     | 100    |
|      | 遠野市   | 8     | 100    |
|      | 一関市   | 8     | 100    |
|      | 久慈市   | 6     | 100    |
|      | 矢巾町   | 2     | 100    |
|      | 北上市   | 2     | 50.0   |
|      | 九戸村   | 2     | 100    |
|      | 花巻市   | 2     | 100    |
|      | 平泉町   | 1     | 100    |
|      | 滝沢村   | 1     | 100    |
|      | 奥州市   | 1     | 100    |
| 宮城県  | 石巻市   | 3,362 | 84.9   |
|      | 気仙沼市  | 1,237 | 90.2   |
|      | 東松島市  | 1,069 | 92.1   |
|      | 南三陸町  | 864   | 97.7   |
|      | 名取市   | 854   | 85.9   |
|      | 女川町   | 811   | 88.0   |
|      | 山元町   | 589   | 82.6   |
|      | 仙台市   | 542   | 65.4   |
|      | 亶理町   | 289   | 100    |
|      | 岩沼市   | 142   | 76.3   |
|      | 多賀城市  | 125   | 59.2   |

| 都道府県 | 市町村  | 合計(人) | 配布率(%) |      |
|------|------|-------|--------|------|
|      | 七ヶ浜町 | 99    | 100    |      |
|      | 塩竈市  | 40    | 87     |      |
|      | 登米市  | 20    | 100    |      |
|      | 松島町  | 16    | 100    |      |
|      | 大崎市  | 16    | 100    |      |
|      | 美里町  | 10    | 100    |      |
|      | 柴田町  | 10    | 100    |      |
|      | 涌谷町  | 9     | 100    |      |
|      | 利府町  | 8     | 34.8   |      |
|      | 富谷町  | 4     | 100    |      |
|      | 白石市  | 4     | 100    |      |
|      | 丸森町  | 4     | 100    |      |
|      | 大和町  | 3     | 100    |      |
|      | 大郷町  | 3     | 100    |      |
|      | 大衡村  | 1     | 100    |      |
|      | 色麻町  | 1     | 100    |      |
|      | 栗原市  | 1     | 100    |      |
|      | 福島県  | 南相馬市  | 613    | 68.1 |
|      |      | 相馬市   | 443    | 96.7 |
|      |      | いわき市  | 320    | 92.2 |
| 浪江町  |      | 210   | 76.9   |      |
| 新地町  |      | 116   | 100    |      |
| 大熊町  |      | 34    | 68.0   |      |
| 双葉町  |      | 22    | 37.3   |      |
| 楡葉町  |      | 13    | 35.1   |      |
| 白河市  |      | 12    | 100    |      |
| 須賀川市 |      | 11    | 100    |      |
| 富岡町  |      | 6     | 6.0    |      |
| 福島市  |      | 5     | 100    |      |
| 西郷村  | 3    | 100   |        |      |
| 郡山市  | 3    | 100   |        |      |
| 広野町  | 2    | 66.7  |        |      |
| 葛尾村  | 1    | 11.1  |        |      |

資料

| 都道府県  | 市町村   | 合計 (人) | 配布率 (%) |     |
|-------|-------|--------|---------|-----|
| 福島県   | 会津若松市 | 1      | 50.0    |     |
| 千葉県   | 旭市    | 14     | 93.3    |     |
|       | 八千代市  | 2      | 100     |     |
|       | 流山市   | 1      | 100     |     |
|       | 野田市   | 1      | 100     |     |
|       | 柏市    | 1      | 100     |     |
|       | 松戸市   | 1      | 100     |     |
|       | 習志野市  | 1      | 100     |     |
|       | 市川市   | 1      | 100     |     |
|       | 山武市   | 1      | 100     |     |
|       | 東京都   | 町田市    | 3       | 100 |
| 東久留米市 |       | 2      | 100     |     |
| 葛飾区   |       | 2      | 100     |     |
| 練馬区   |       | 1      | 100     |     |
| 目黒区   |       | 1      | 100     |     |
| 北区    |       | 1      | 100     |     |
| 板橋区   |       | 1      | 100     |     |
| 中央区   |       | 1      | 100     |     |
| 大田区   |       | 1      | 100     |     |
| 世田谷区  |       | 1      | 100     |     |
| 江東区   |       | 1      | 50.0    |     |
| 茨城県   |       | 北茨城市   | 6       | 100 |
|       |       | 水戸市    | 4       | 100 |
|       | 龍ヶ崎市  | 1      | 100     |     |
|       | 那珂市   | 1      | 100     |     |
|       | 大洗町   | 1      | 100     |     |
|       | 常陸太田市 | 1      | 100     |     |
|       | 常総市   | 1      | 100     |     |
|       | 高萩市   | 1      | 100     |     |
|       | 行方市   | 1      | 50.0    |     |
|       | 青森県   | 八戸市    | 7       | 100 |
| 三沢市   |       | 2      | 100     |     |
| 青森市   |       | 1      | 100     |     |

| 都道府県 | 市町村   | 合計 (人) | 配布率 (%) |
|------|-------|--------|---------|
| 神奈川県 | 藤沢市   | 2      | 100     |
|      | 相模原市  | 2      | 100     |
|      | 川崎市   | 2      | 100     |
|      | 大和市   | 1      | 100     |
|      | 横浜市   | 1      | 50.0    |
| 埼玉県  | 川口市   | 2      | 100     |
|      | さいたま市 | 2      | 100     |
|      | 越谷市   | 1      | 100     |
| 秋田県  | 八峰町   | 1      | 100     |
|      | 能代市   | 1      | 100     |
|      | 秋田市   | 1      | 100     |
| 広島県  | 広島市   | 2      | 100     |
|      | 廿日市市  | 1      | 100     |
| 北海道  | 函館市   | 1      | 100     |
|      | 当別町   | 1      | 100     |
| 山形県  | 山形市   | 2      | 100     |
| 栃木県  | 日光市   | 1      | 100     |
|      | 下野市   | 1      | 100     |
| 静岡県  | 浜松市   | 1      | 100     |
|      | 磐田市   | 1      | 100     |
| 兵庫県  | 豊岡市   | 1      | 100     |
|      | 西脇市   | 1      | 100     |
| 新潟県  | 新潟市   | 1      | 100     |
| 群馬県  | 館林市   | 1      | 100     |
| 岐阜県  | 多治見市  | 1      | 100     |
| 滋賀県  | 東近江市  | 1      | 100     |
| 京都府  | 京都市   | 1      | 100     |
| 大阪府  | 大阪市   | 1      | 100     |
| 香川県  | 善通寺市  | 1      | 100     |

2012年3月31日現在

※甲慰金：亡くなられた方のご遺族に対する一時金

※見舞金：行方不明になられた方のご家族に対する一時金

※被災地以外の都道府県の自治体の方々への甲慰金・見舞金は、ご遺族・ご家族のご住所にもとづいて配付いたしました。





## 東日本大震災から1年と2カ月が過ぎました。

発災直後の街頭募金から始まった今回の活動は、多くの皆さまからいただいた物心両面のご援助のお陰で、今までにない大規模な支援を展開することができました。そして現在も、われわれの元には沢山のご支援が途切れることなく寄せられております。

この報告書では紙面の都合上、ご協力いただいたみなさまの一部しかご紹介できておりません。しかし、われわれの活動はみなさま方からのご寄付や物資の後押しなしでは到底進めることができませんでした。心より感謝申し上げます。

今も被災地を訪れると、がれきが片付いたことのほかには震災直後から何も進展していないようにさえ見える地域もあり、愕然とさせられます。ボランティアが行き交い、人の往来が多かった地域でも、訪れる人が少なくなったような気がします。

復興において最も大切なのは被災地の自立を促す

ことだと言われます。このため、われわれのような外部からの援助については、地元の方々が自ら復興しようとする気持ちを阻害するようなものであってはなりません。民間財団として、いただいた支援をどこに届けるのが良いのか、日々迷いながら進んでいるのが正直なところです。

今回、震災発生からの活動を振り返ってみて、皆さまのお力添えをより効果的に被災者の方々にお届けできるよう、決意を新たに活動を続けて参ります。今後ともご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

2012年5月

公益財団法人日本財団 公益・ボランティア支援グループ  
東日本大震災復興支援チーム

青柳 光昌 橋本 朋幸 金子 知史 樋口 裕司



**日本財団**  
The Nippon Foundation

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 Tel:03-6229-5111 FAX:03-6229-5110  
URL: <http://www.nippon-foundation.or.jp>

日本財団は、2011年4月1日から公益財団法人になりました。